
敦賀発電所2号炉
ボーリング柱状図の記事欄に係るご指摘への回答
補足説明資料3
シームについて

令和2年5月13日
日本原子力発電株式会社

余白

目次(補足説明資料3)

No.	ボーリング孔名		頁
1	H19-No. 2	深度49.81m	補足3- 7
2	H19-No. 2	深度73.67m	補足3- 8
3	H19-No. 2	深度95.54m	補足3- 9
4	H19-No. 2	深度146.45m	補足3- 10
5	H19-No. 2	深度147.25m	補足3- 11
6	H19-No. 2	深度174.74m	補足3- 12
7	H19-No. 2	深度175.96m	補足3- 13
8	H19-No. 2	深度183.61m	補足3- 14
9	H19-No. 2	深度204.22m	補足3- 15
10	H19-No. 2	深度215.98m	補足3- 16
11	H19-No. 3	深度10.00m	補足3- 17
12	H19-No. 3	深度10.08m	補足3- 18
13	H19-No. 3	深度42.81m	補足3- 19
14	H19-No. 3	深度54.60m	補足3- 20
15	H19-No. 4	深度22.59m	補足3- 21
16	H19-No. 4	深度34.38m	補足3- 22
17	H19-No. 4	深度51.38m	補足3- 23
18	H19-No. 4	深度52.24m	補足3- 24
19	H19-No. 4	深度100.21m, 深度100.67m	補足3- 25
20	H19-No. 4	深度153.12m	補足3- 26
21	H19-No. 4	深度228.30m	補足3- 27
22	H19-No. 5	深度67.52m	補足3- 28
23	H19-No. 5	深度71.66m	補足3- 29
24	H19-No. 5	深度119.02~119.03m	補足3- 30
25	H19-No. 6	深度71.62m	補足3- 31
26	H19-No. 6	深度88.94m	補足3- 32
27	H19-No. 6	深度101.70~101.72m	補足3- 33
28	H19-No. 6	深度102.86m	補足3- 34
29	H19-No. 6	深度103.25m	補足3- 35
30	H19-No. 6	深度105.37m	補足3- 36
31	H19-No. 6	深度123.94m	補足3- 37
32	H19-No. 6	深度148.94m	補足3- 38
33	H19-No. 6	深度151.39m	補足3- 39
34	H19-No. 6	深度151.84m	補足3- 40
35	H19-No. 6	深度157.09m	補足3- 41
36	H19-No. 7	深度118.30m	補足3- 42
37	H19-No. 7	深度119.74m	補足3- 43
38	H19-No. 7	深度120.58m	補足3- 44

No.	ボーリング孔名		頁
39	H19-No. 7	深度151.35m	補足3- 45
40	H19-No. 7	深度151.38m	補足3- 46
41	H19-No. 7	深度163.82m	補足3- 47
42	H19-No. 8	深度62.35m, 62.39m	補足3- 48
43	H19-No. 8	深度101.59m	補足3- 49
44	H19-No. 8	深度108.46m	補足3- 50
45	H19-No. 8	深度108.85m	補足3- 51
46	H19-No. 8	深度135.19m	補足3- 52
47	H19-No. 8	深度135.96m	補足3- 53
48	H19-No. 8	深度139.55m	補足3- 54
49	H19-No. 8	深度139.73m	補足3- 55
50	H19-No. 8	深度139.92m	補足3- 56
51	H19-No. 8	深度139.96m	補足3- 57
52	H19-No. 8	深度141.51m	補足3- 58
53	H19-No. 8	深度146.49m	補足3- 59
54	H19-No. 8	深度149.78m	補足3- 60
55	H19-No. 8	深度153.20m	補足3- 61
56	H19-No. 8	深度158.89m	補足3- 62
57	H19-No. 8	深度159.89~159.90m	補足3- 63
58	H19-No. 8	深度167.91m	補足3- 64
59	H19-No. 8	深度180.41m	補足3- 65
60	H19-No. 8	深度183.21m	補足3- 66
61	H19-No. 8	深度191.49m	補足3- 67
62	H19-No. 8	深度192.86m	補足3- 68
63	H19-No. 8	深度194.42m	補足3- 69
64	H19-No. 8	深度196.39m	補足3- 70
65	H19-No. 10	深度11.50m	補足3- 71
66	H19-No. 10	深度12.08m	補足3- 72
67	H19-No. 10	深度13.01m	補足3- 73
68	H19-No. 10	深度14.47m	補足3- 74
69	H19-No. 10	深度111.97m	補足3- 75
70	H19-No. 11	深度11.35m	補足3- 76
71	H19-No. 11	深度107.60m	補足3- 77
72	H19-No. 12	深度39.43m	補足3- 78
73	H19-No. 12	深度140.85~140.86m	補足3- 79
74	H19-No. 12	深度183.43m	補足3- 80
75	H19-No. 12	深度218.78~218.80m	補足3- 81
76	H19-No. 12	深度243.62~243.63m	補足3- 82

目次(補足説明資料3)

No.	ボーリング孔名		頁
77	H19-No. 13	深度17.81m	補足3- 83
78	H19-No. 13	深度28.98m	補足3- 84
79	H19-No. 13	深度36.53~36.54m	補足3- 85
80	H19-No. 13	深度37.84m	補足3- 86
81	H19-No. 13	深度47.03m	補足3- 87
82	H19-No. 14	深度16.61m	補足3- 88
83	H19-No. 14	深度84.96m	補足3- 89
84	H19-No. 14	深度88.36m	補足3- 90
85	H19-No. 14	深度99.62m	補足3- 91
86	H19-No. 14	深度133.36m	補足3- 92
87	H19-No. 14	深度135.51m	補足3- 93
88	H19-No. 15	深度12.04m	補足3- 94
89	H19-No. 15	深度12.31m	補足3- 95
90	H19-No. 15	深度14.79m	補足3- 96
91	H19-No. 15	深度21.91m	補足3- 97
92	H19-No. 15	深度54.04m	補足3- 98
93	H19-No. 15	深度87.70m	補足3- 99
94	H19-No. 15	深度149.22~149.23m	補足3- 100
95	H19-No. 16	深度35.35m	補足3- 101
96	H19-No. 16	深度54.68m	補足3- 102
97	H19-No. 16	深度142.23m	補足3- 103
98	H19-No. 16	深度142.71m	補足3- 104
99	H19-No. 16	深度143.88m	補足3- 105
100	H19-No. 16	深度148.91m	補足3- 106
101	H19-No. 16	深度169.60m	補足3- 107
102	H19-No. 16	深度181.57m	補足3- 108
103	H19-No. 16	深度197.32m	補足3- 109
104	H19-No. 16	深度200.04m	補足3- 110
105	H19-No. 16	深度203.78m	補足3- 111
106	H19-No. 16	深度210.53m	補足3- 112
107	H19-No. 17	深度17.05m	補足3- 113
108	H19-No. 17	深度23.87~23.88m	補足3- 114
109	H19-No. 17	深度77.35m	補足3- 115
110	H19-No. 17	深度117.55~117.56m	補足3- 116
111	H19-No. 17	深度120.31m	補足3- 117
112	H19-No. 17	深度120.65m	補足3- 118
113	H19-No. 17	深度120.80m	補足3- 119
114	H19-No. 17	深度121.45m	補足3- 120

No.	ボーリング孔名		頁
115	H19-No. 17	深度121.85m	補足3- 121
116	H19-No. 17	深度132.25m	補足3- 122
117	H19-No. 17	深度133.43m	補足3- 123
118	H19-No. 17	深度159.39m	補足3- 124
119	H19-No. 17	深度162.57m	補足3- 125
120	H19-No. 17	深度165.60~165.61m	補足3- 126
121	H19-No. 17	深度169.72m	補足3- 127
122	H19-No. 17	深度169.74m	補足3- 128
123	H19-No. 17	深度176.74m	補足3- 129
124	H19-No. 18	深度50.09m	補足3- 130
125	H19-No. 18	深度50.19m	補足3- 131
126	H19-No. 18	深度64.98m	補足3- 132
127	H19-No. 18	深度65.04m	補足3- 133
128	H19-No. 18	深度65.27m	補足3- 134
129	H19-No. 18	深度110.68m	補足3- 135
130	H19-No. 18	深度118.88m	補足3- 136
131	H19-No. 18	深度135.62m	補足3- 137
132	H19-No. 18	深度137.81m	補足3- 138
133	H19-No. 18	深度138.13m	補足3- 139
134	H19-No. 18	深度139.63m	補足3- 140
135	H19-No. 18	深度144.91m	補足3- 141
136	H19-No. 18	深度147.43m	補足3- 142
137	H19-No. 18	深度149.22m	補足3- 143
138	H19-No. 18	深度154.61m	補足3- 144
139	H19-No. 18	深度155.64m	補足3- 145
140	H19-No. 18	深度160.99m	補足3- 146
141	H19-No. 19	深度37.72m	補足3- 147
142	H19-No. 19	深度38.06m	補足3- 148
143	H19-No. 19	深度38.85m	補足3- 149
144	H19-No. 19	深度71.31~71.34m	補足3- 150
145	H19-No. 19	深度92.25m	補足3- 151
146	H19-No. 19	深度92.50m	補足3- 152
147	H19-No. 19	深度99.73m	補足3- 153
148	H19-No. 19	深度106.16m	補足3- 154
149	H19-No. 19	深度118.37m	補足3- 155
150	H19-No. 19	深度150.58m	補足3- 156
151	H19-No. 19	深度151.39m	補足3- 157
152	H19-No. 19	深度159.13m	補足3- 158

目次(補足説明資料3)

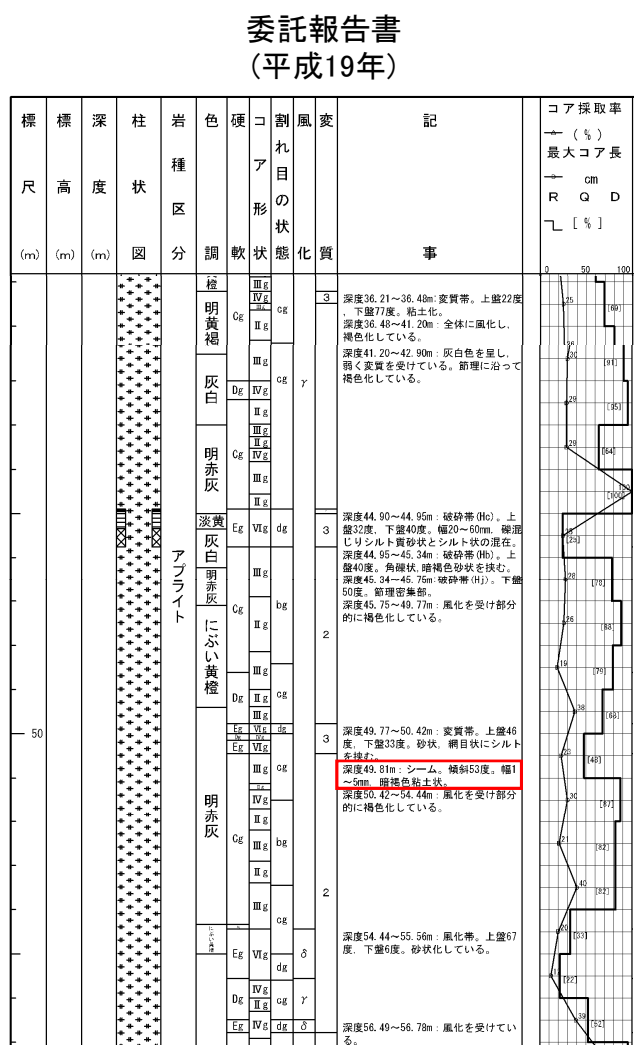
No.	ボーリング孔名		頁
153	H19-No. 19	深度162.43m	補足3- 159
154	H19-No. 19	深度163.15m	補足3- 160
155	H20-①-1	深度27.24m	補足3- 161
156	H20-①-1	深度43.55m	補足3- 162
157	H20-①-1	深度54.06m	補足3- 163
158	H20-①-1	深度70.85~70.88m	補足3- 164
159	H20-①-1	深度79.79m	補足3- 165
160	H20-①-2	深度41.08m	補足3- 166
161	H20-①-2	深度44.95m	補足3- 167
162	H20-①-2	深度51.83m	補足3- 168
163	H20-①-2	深度77.39m	補足3- 169
164	H20-①-2	深度81.15m	補足3- 170
165	H20-①-2	深度81.80m	補足3- 171
166	H20-①-2	深度82.09m	補足3- 172
167	H20-①-2	深度85.26m	補足3- 173
168	H20-①-2	深度92.69m	補足3- 174
169	H20-①-2	深度104.16m	補足3- 175
170	H20-①-3	深度16.58m	補足3- 176
171	H20-①-3	深度20.49m	補足3- 177
172	H20-①-3	深度61.60m	補足3- 178
173	H20-①-4	深度6.82m	補足3- 179
174	H20-①-4	深度10.91m	補足3- 180
175	H20-①-4	深度11.28m	補足3- 181
176	H20-①-4	深度20.40m	補足3- 182
177	H20-①-4	深度23.19m	補足3- 183
178	H20-①-4	深度29.08m	補足3- 184
179	H20-①-5	深度25.64m	補足3- 185
180	H20-①-5	深度29.97m	補足3- 186
181	H20-①-5	深度30.85m	補足3- 187
182	H20-①-5	深度31.78m	補足3- 188
183	H20-①-6	深度14.41m	補足3- 189
184	H20-①-6	深度60.25m	補足3- 190
185	H20-①-6	深度64.50m	補足3- 191
186	H20-①-8	深度5.92m	補足3- 192
187	H20-①-8	深度11.93m	補足3- 193
188	H20-①-8	深度20.83m	補足3- 194
189	H20-①-8	深度28.25m	補足3- 195
190	H20-①-9	深度17.19m	補足3- 196

No.	ボーリング孔名		頁
191	H20-①-9	深度48.65m	補足3- 197
192	H20-①-10	深度21.68m	補足3- 198
193	H20-①-10	深度26.70m	補足3- 199
194	H20-①-10	深度32.56m	補足3- 200
195	H20-①-10	深度37.61m	補足3- 201
196	H20-①-10	深度49.55m	補足3- 202
197	H20-②-1	深度59.67m	補足3- 203
198	H20-③-1	深度5.33m	補足3- 204
199	H20-④-1	深度5.63m	補足3- 205
200	H20-④-2	深度23.30m	補足3- 206
201	H20-④-2	深度78.65m	補足3- 207
202	H20-④-2	深度79.25m	補足3- 208
203	H20-④-2	深度82.09m	補足3- 209
204	H20-④-2	深度95.30m	補足3- 210
205	H20-④-4	深度7.47m	補足3- 211
206	H20-④-4	深度24.78m	補足3- 212
207	H20-④-4	深度26.44m	補足3- 213
208	H20-④-4	深度32.51m	補足3- 214
209	H20-④-4	深度34.13m	補足3- 215
210	H20-④-5	深度33.07m	補足3- 216
211	H20-④-5	深度38.73m	補足3- 217
212	H20-④-6	深度13.30m	補足3- 218
213	H20-④-7	深度25.00m	補足3- 219
214	H20-④-7	深度26.00m	補足3- 220
215	H20-④-7	深度32.93m	補足3- 221

余白

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.2孔 深度49.81m)

・粘土状を呈するが、幅は一定ではなく直線性に乏しい。また、周囲の岩盤中の粒子の定向配列は認められないことから、破碎部ではないと判断した。



設置許可申請書案

記事
36.21~36.48m ・変質している。 ・粘土化している。 ・上端境界の傾斜は22°、下端境界の傾斜は77°である。
39.83~39.88m ・変質している。
●44.90~45.75m ・破碎部である。 ・暗褐~淡黄~灰白色のシルト状~粘土混じり礫状を呈する。 ・褐色シルト；累計厚60mm ・走向・傾斜はN32° E26° Wである。 ・上端境界の傾斜は32°、下端境界の傾斜は40°である。
45.75~49.77m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。
49.77~50.42m ・変質している。 ・砂状化しており、網目状にシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は33°である。
50.42~54.44m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。
54.44~55.56m ・風化部、土砂状を呈する。

設置許可申請書 (平成27年11月)

記事
36.21~36.48m ・変質している。 ・粘土化している。 ・上端境界の傾斜は22°、下端境界の傾斜は77°である。
39.83~39.88m ・変質している。
●44.90~45.75m ・破碎部である。 ・暗褐~淡黄~灰白色のシルト状~粘土混じり礫状を呈する。 ・褐色シルト；累計厚60mm ・走向・傾斜はN32° E26° Wである。 ・上端境界の傾斜は32°、下端境界の傾斜は40°である。
45.75~49.77m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。
49.77~50.42m ・変質している。 ・砂状化しており、網目状にシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は33°である。
50.42~54.44m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。
54.44~55.56m ・風化部、土砂状を呈する。

審査資料 (平成29年12月22日)

記事
36.21~36.48m ・変質している。 ・粘土化している。
●39.83~39.88m (f-15-1破碎帯) ・破碎部である。 ・明黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN25° E82° Wである。 ・下端境界の傾斜は76°である。
●44.90~45.75m ・破碎部である。 ・主に灰白色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部；累計厚0.3cm ・走向・傾斜はN40° E26° Wである。 ・上端境界の傾斜は32°、下端境界の傾斜は40°である。
45.75~49.77m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。
49.77~50.42m ・変質している。 ・砂状化しており、網目状にシルトを挟む。
50.42~54.44m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。
54.44~55.56m ・風化し、土砂状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度49.81m: シーム。傾斜53度。幅1~5mm。暗褐色粘土状。	記載なし	記載なし	記載なし

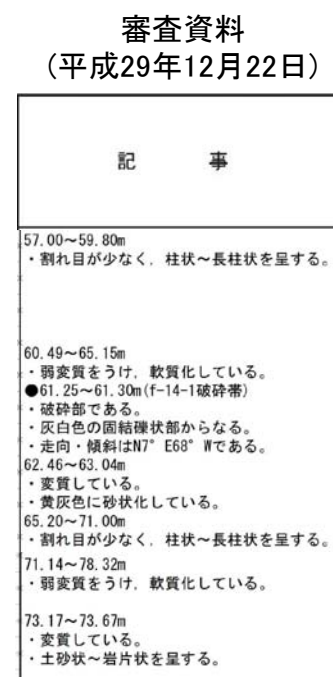
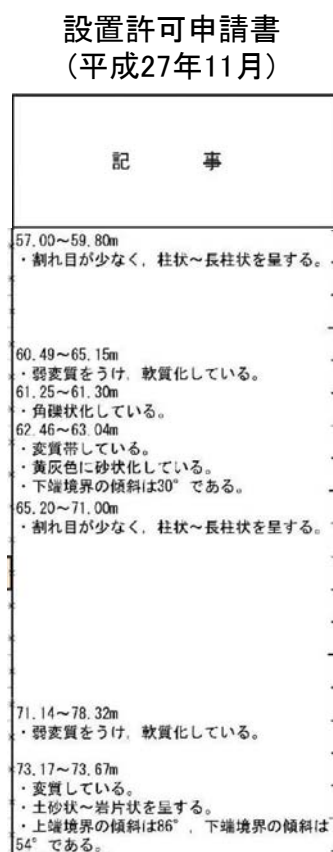
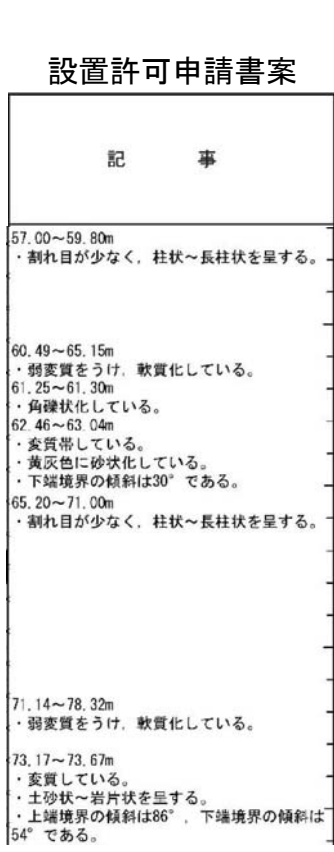
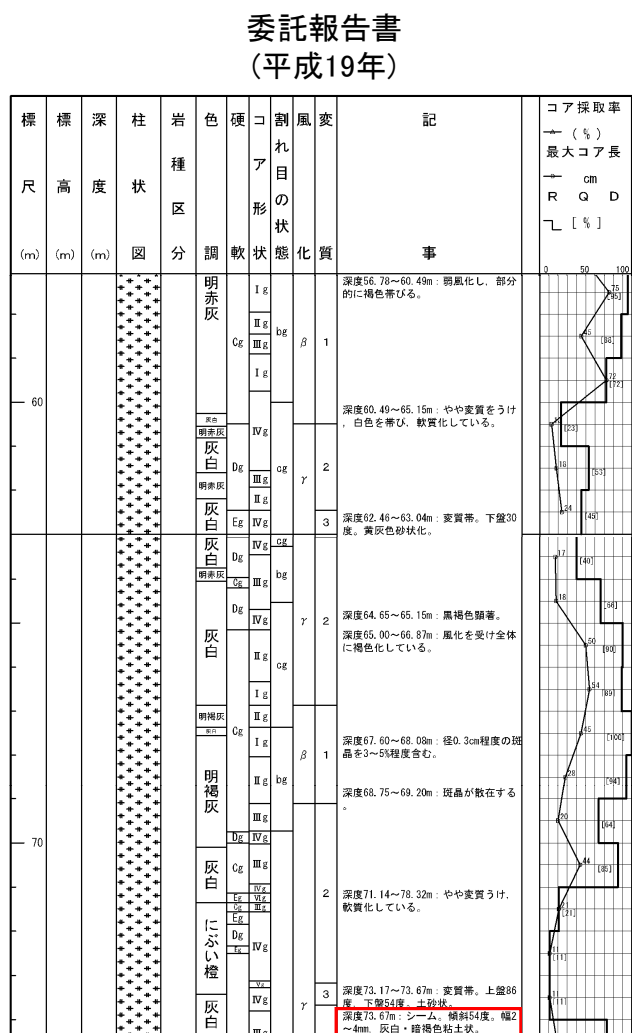


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.2孔 深度73.67m)

一部で礫混じり粘土状を呈するが、礫に定向配列は認められない。また、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度73.67m: シーム。傾斜54度。幅2~4mm。灰白・暗褐色粘土状。	記載なし	記載なし	記載なし

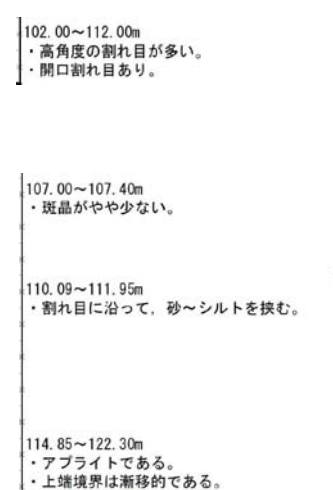
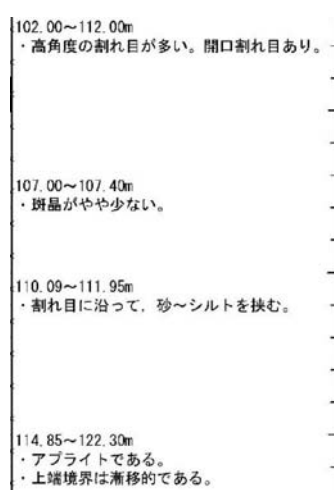
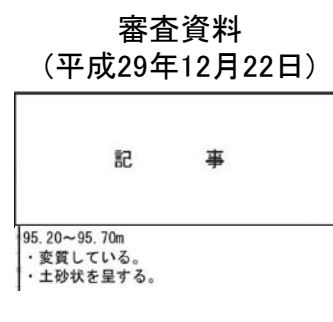
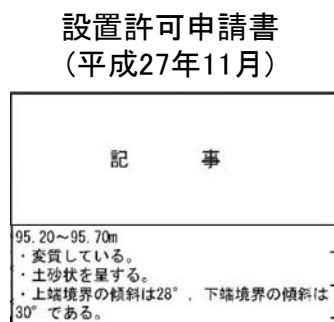
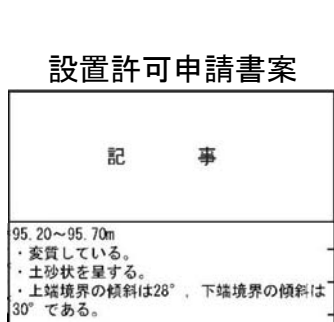
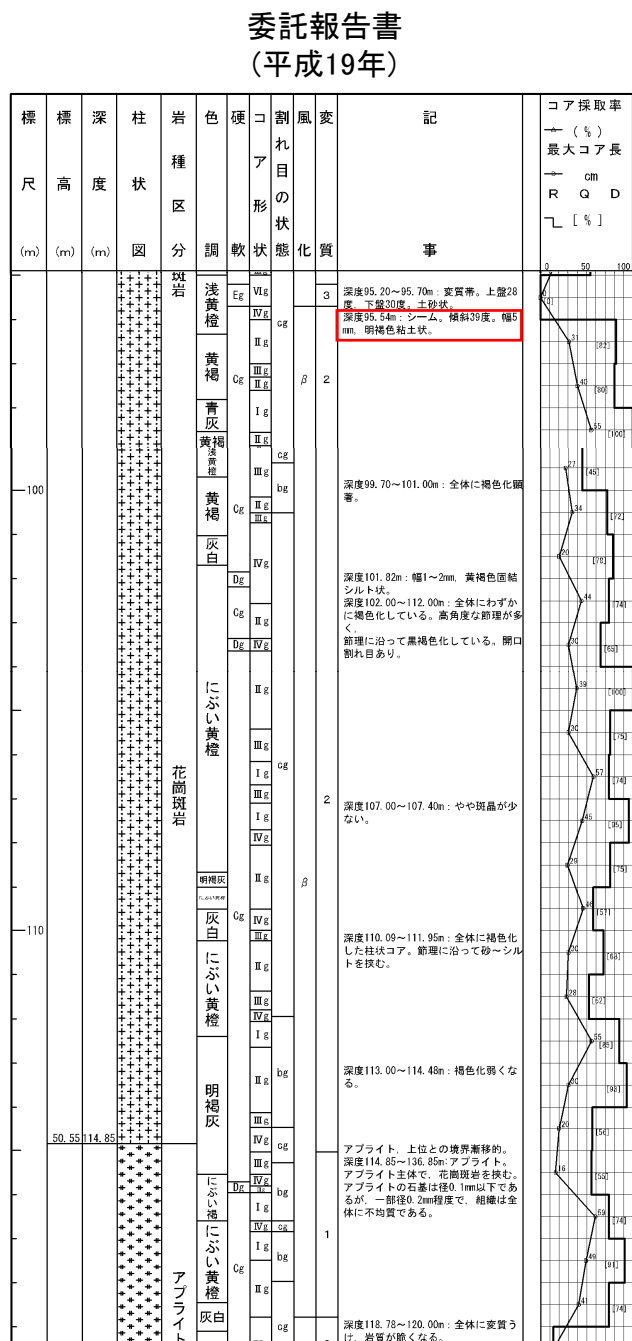


凡例
← シーム

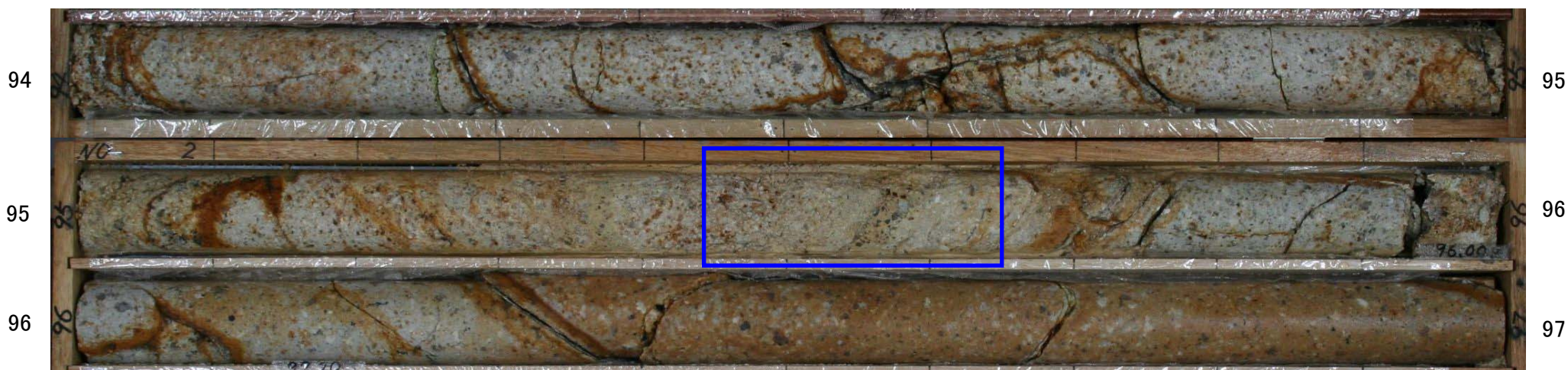
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.2孔 深度95.54m)

一部で礫混じり粘土状を呈するが、礫に定向配列は認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度95.54m: シーム。傾斜39度。幅5mm。明褐色粘土状。	記載なし	記載なし	記載なし

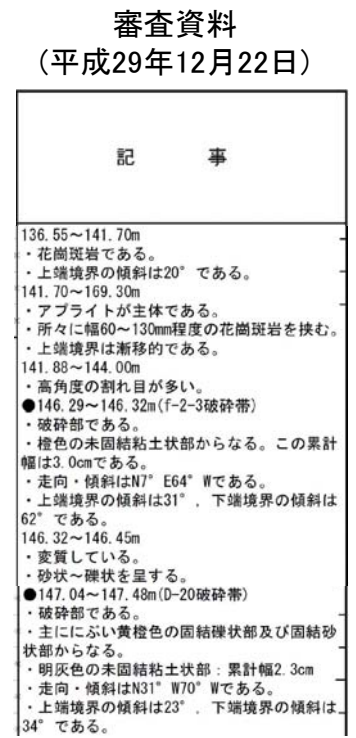
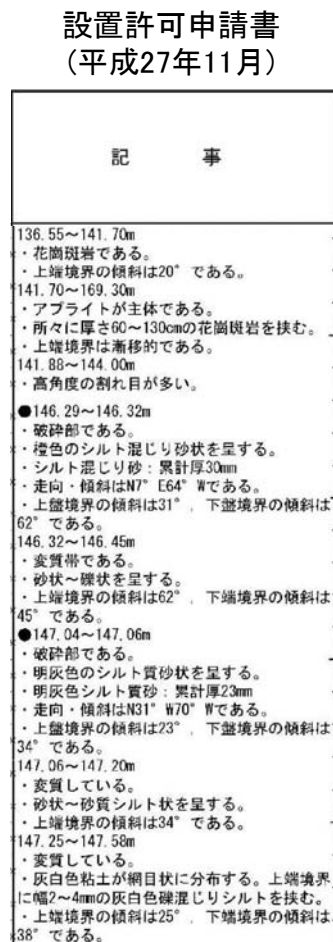
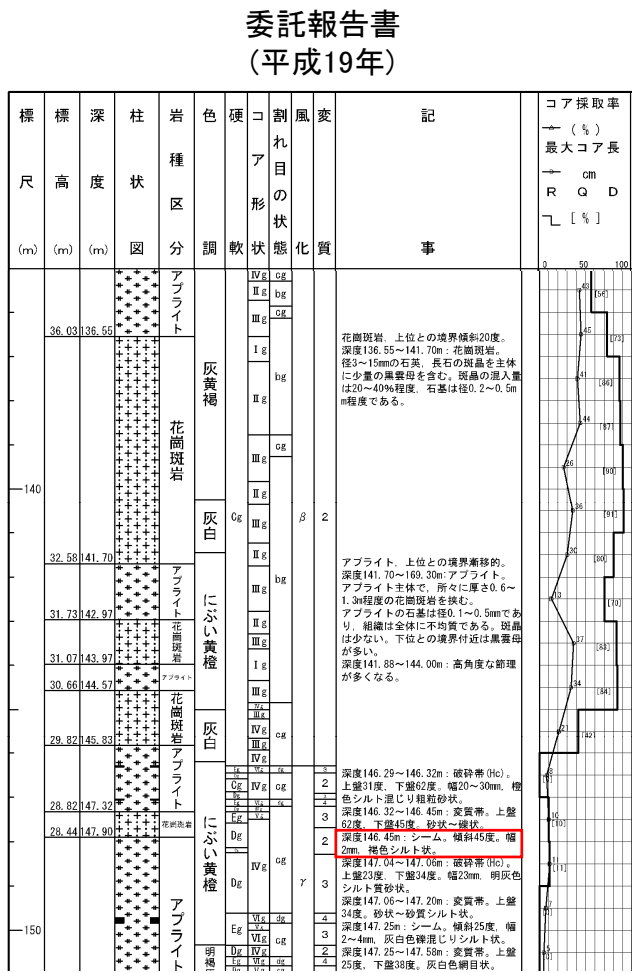


凡例
← : シーム

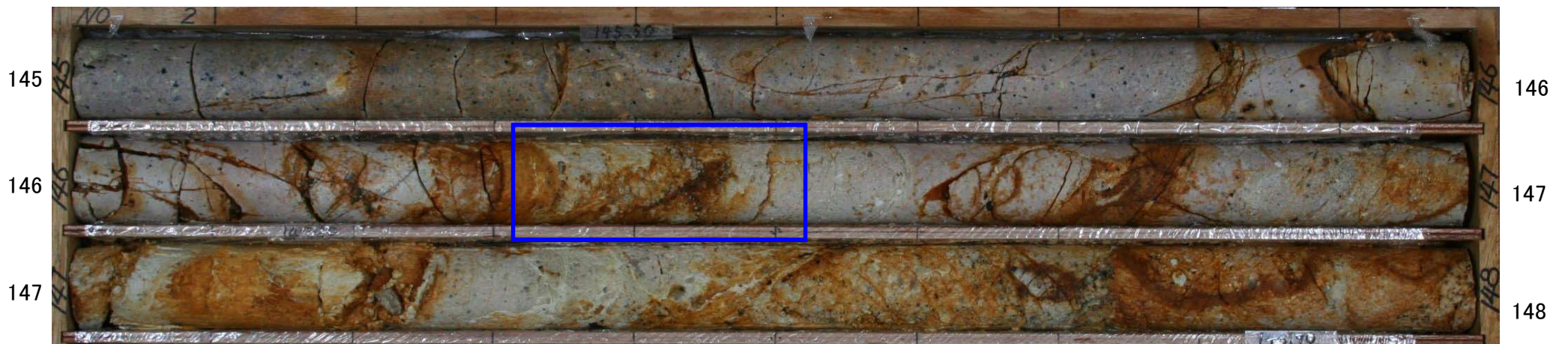
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.2孔 深度146.45m)

・シルト状を呈するが、その分布は屈曲しており直線性に乏しい。
 また、周囲の岩盤中の粒子の定向配列は認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度146.45m: シーム. 傾斜45度. 幅2mm. 褐色シルト状.	記載なし	記載なし	記載なし



凡例
 : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.2孔 深度147.25m)

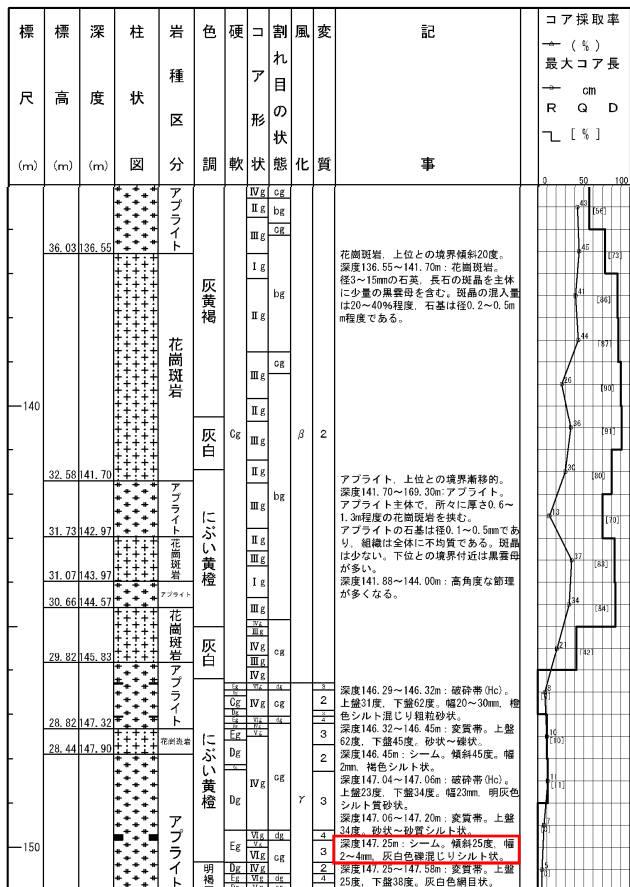
・147.25～147.58mの区間は、シームを含め破碎部と同系統の低角な割れ目が分布し、147.06～147.25mの区間は組織が不明瞭になっていることから、一連の破碎部であると判断した(平成20年破碎部再観察結果)。

委託報告書 (平成19年)

設置許可申請書案

設置許可申請書 (平成27年11月)

審査資料 (平成29年12月22日)



記事
136.55～141.70m
・花崗斑岩である。
・上端境界の傾斜は20°である。
141.70～169.30m
・アフライトが主体である。
・所々に厚さ60～130cmの花崗斑岩を挟む。
・上端境界は漸移的である。
141.88～144.00m
・高角度の割れ目が多い。
●146.29～146.32m
・破碎部である。
・橙色のシルト混じり砂状を呈する。
・シルト混じり砂：累計厚30mm
・走向・傾斜はN7° E64° Wである。
・上端境界の傾斜は31°、下盤境界の傾斜は62°である。
146.32～146.45m
・変質帯である。
・砂状～礫状を呈する。
・上端境界の傾斜は62°、下盤境界の傾斜は45°である。
●147.04～147.06m
・破碎部である。
・明灰色のシルト質砂状を呈する。
・明灰色シルト質砂：累計厚23mm
・走向・傾斜はN31° W70° Wである。
・上端境界の傾斜は23°、下盤境界の傾斜は34°である。
147.06～147.20m
・変質している。
・砂状～砂質シルト状を呈する。
・上端境界の傾斜は34°である。
147.25～147.58m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。上端境界に幅2～4mmの灰白色礫混じりシルトを挟む。
・上端境界の傾斜は25°、下盤境界の傾斜は38°である。

記事
136.55～141.70m
・花崗斑岩である。
・上端境界の傾斜は20°である。
141.70～169.30m
・アフライトが主体である。
・所々に厚さ60～130cmの花崗斑岩を挟む。
・上端境界は漸移的である。
141.88～144.00m
・高角度の割れ目が多い。
●146.29～146.32m
・破碎部である。
・橙色のシルト混じり砂状を呈する。
・シルト混じり砂：累計厚30mm
・走向・傾斜はN7° E64° Wである。
・上端境界の傾斜は31°、下盤境界の傾斜は62°である。
146.32～146.45m
・変質帯である。
・砂状～礫状を呈する。
・上端境界の傾斜は62°、下盤境界の傾斜は45°である。
●147.04～147.06m
・破碎部である。
・明灰色のシルト質砂状を呈する。
・明灰色シルト質砂：累計厚23mm
・走向・傾斜はN31° W70° Wである。
・上端境界の傾斜は23°、下盤境界の傾斜は34°である。
147.06～147.20m
・変質している。
・砂状～砂質シルト状を呈する。
・上端境界の傾斜は34°である。
147.25～147.58m
・変質している。
・灰白色粘土が網目状に分布する。上端境界に幅2～4mmの灰白色礫混じりシルトを挟む。
・上端境界の傾斜は25°、下盤境界の傾斜は38°である。

記事
136.55～141.70m
・花崗斑岩である。
・上端境界の傾斜は20°である。
141.70～169.30m
・アフライトが主体である。
・所々に幅60～130mm程度の花崗斑岩を挟む。
・上端境界は漸移的である。
141.88～144.00m
・高角度の割れ目が多い。
●146.29～146.32m(f-2-3破碎帯)
・破碎部である。
・橙色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は3.0cmである。
・走向・傾斜はN7° E64° Wである。
・上端境界の傾斜は31°、下盤境界の傾斜は62°である。
146.32～146.45m
・変質帯である。
・砂状～礫状を呈する。
●147.04～147.48m(D-20破碎帯)
・破碎部である。
・主ににぶい黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。
・明灰色の未固結粘土状部：累計幅2.3cm
・走向・傾斜はN31° W70° Wである。
・上端境界の傾斜は23°、下盤境界の傾斜は34°である。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
<p>深度147.04～147.06m: 破碎帯(Hc)。上盤23度、下盤34度。幅23mm。明灰色シルト質砂状。</p> <p>深度147.06～147.20m: 変質帯。上盤34度。砂状～砂質シルト状。</p> <p>深度147.25m: シーム。傾斜25度。幅2～4mm。灰白色礫混じりシルト状。</p> <p>深度147.25～147.58m: 変質帯。上盤25度、下盤38度。灰白色網目状。</p>	<p>●147.04～147.06m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・明灰色のシルト質砂状を呈する。 ・明灰色のシルト質砂：累計厚23mm ・走向・傾斜はN31° W70° Wである。 ・上盤境界の傾斜は23°、下盤境界の傾斜は34°である。 <p>147.06～147.20m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・砂状～砂質シルト状を呈する。 ・上端境界の傾斜は34°である。 <p>147.25～147.58m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。上端境界に幅2～4mmの灰白色礫混じりシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は25°、下盤境界の傾斜は38°である。 	<p>●147.04～147.06m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・明灰色のシルト質砂状を呈する。 ・明灰色のシルト質砂：累計厚23mm ・走向・傾斜はN31° W70° Wである。 ・上盤境界の傾斜は23°、下盤境界の傾斜は34°である。 <p>147.06～147.20m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・砂状～砂質シルト状を呈する。 ・上端境界の傾斜は34°である。 <p>147.25～147.58m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。上端境界に幅2～4mmの灰白色礫混じりシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は25°、下盤境界の傾斜は38°である。 	<p>●147.04～147.48m(D-20破碎帯)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・主ににぶい黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・明灰色の未固結粘土状部：累計幅2.3cm ・走向・傾斜はN31° W70° Wである。 ・上端境界の傾斜は23°、下盤境界の傾斜は34°である。

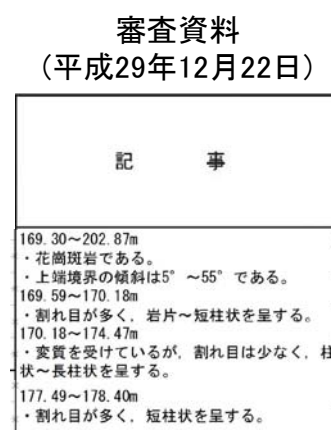
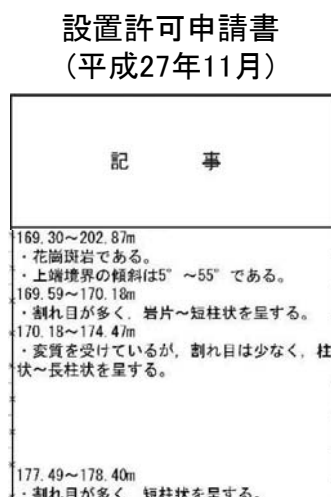
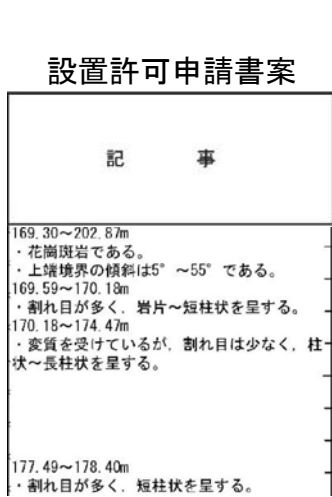
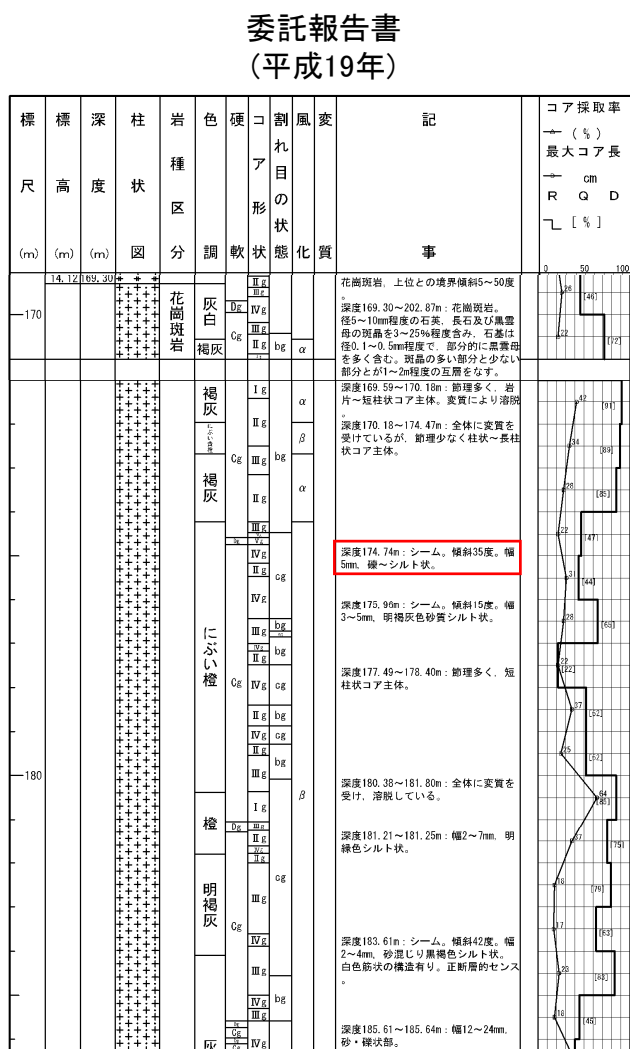


凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.2孔 深度174.74m)

・礫～シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度174.74m: シーム。傾斜35度。幅5mm。礫~シルト状。	記載なし	記載なし	記載なし



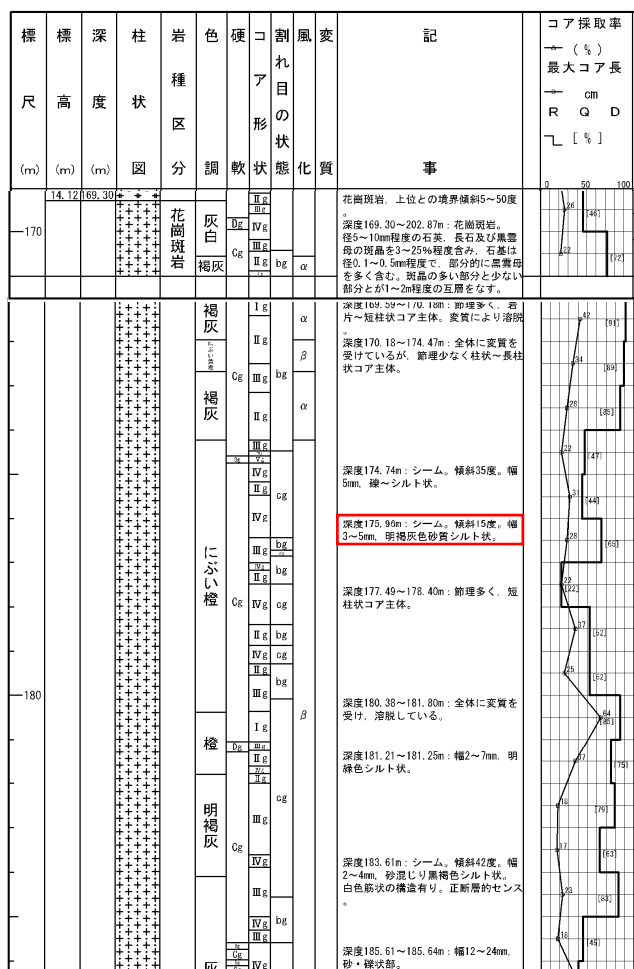
凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.2孔 深度175.96m)

・粘土状を呈するが、幅は一定ではなく直線性に乏しい。また、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)



設置許可申請書案

記事
169.30~202.87m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は5°~55°である。 169.59~170.18m ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 170.18~174.47m ・変質を受けているが、割れ目は少なく、柱状~長柱状を呈する。
177.49~178.40m ・割れ目が多く、短柱状を呈する。

設置許可申請書 (平成27年11月)

記事
169.30~202.87m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は5°~55°である。 169.59~170.18m ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 170.18~174.47m ・変質を受けているが、割れ目は少なく、柱状~長柱状を呈する。
177.49~178.40m ・割れ目が多く、短柱状を呈する。

審査資料 (平成29年12月22日)

記事
169.30~202.87m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は5°~55°である。 169.59~170.18m ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 170.18~174.47m ・変質を受けているが、割れ目は少なく、柱状~長柱状を呈する。 177.49~178.40m ・割れ目が多く、短柱状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度175.96m: シーム。傾斜15度。幅3~5mm、明褐色砂質シルト状。	記載なし	記載なし	記載なし

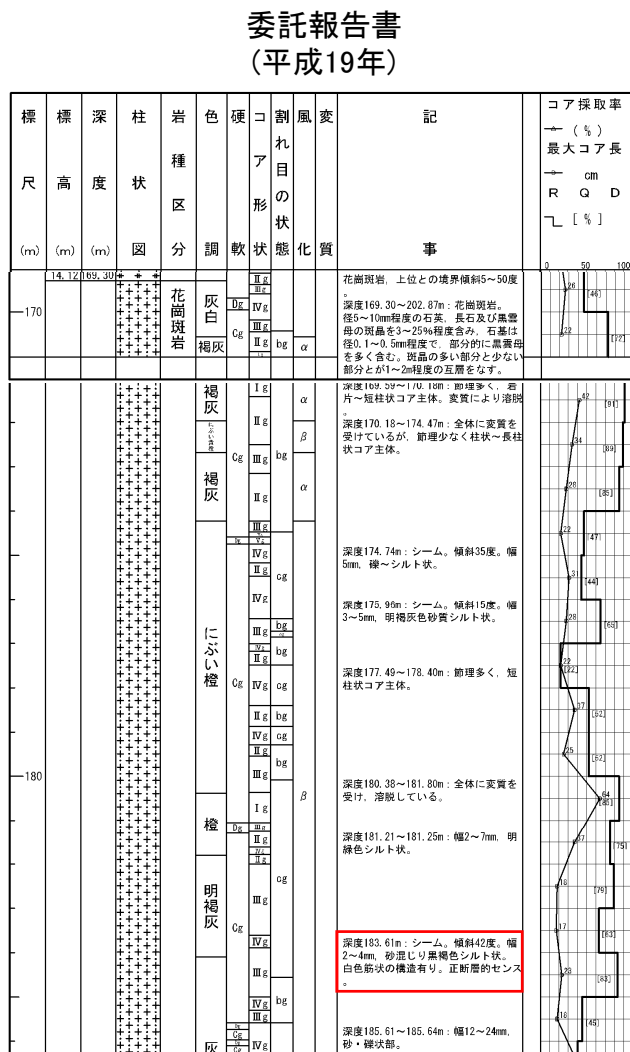


凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.2孔 深度183.61m)

・砂混じり砂質シルト状を呈するが、その分布は網目状である。また、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



設置許可申請書案

記事

169.30~202.87m
 ・花崗斑岩である。
 ・上端境界の傾斜は5°~55°である。
 169.59~170.18m
 ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
 170.18~174.47m
 ・変質を受けているが、割れ目は少なく、柱状~長柱状を呈する。

177.49~178.40m
 ・割れ目が多く、短柱状を呈する。

設置許可申請書 (平成27年11月)

記事

169.30~202.87m
 ・花崗斑岩である。
 ・上端境界の傾斜は5°~55°である。
 169.59~170.18m
 ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
 170.18~174.47m
 ・変質を受けているが、割れ目は少なく、柱状~長柱状を呈する。

177.49~178.40m
 ・割れ目が多く、短柱状を呈する。

審査資料 (平成29年12月22日)

記事

169.30~202.87m
 ・花崗斑岩である。
 ・上端境界の傾斜は5°~55°である。
 169.59~170.18m
 ・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。
 170.18~174.47m
 ・変質を受けているが、割れ目は少なく、柱状~長柱状を呈する。
 177.49~178.40m
 ・割れ目が多く、短柱状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度183.61m: シーム。傾斜42度。幅2~4mm。砂混じり黒褐色シルト状。白色筋状の構造有り。正断層のセンス。	記載なし	記載なし	記載なし

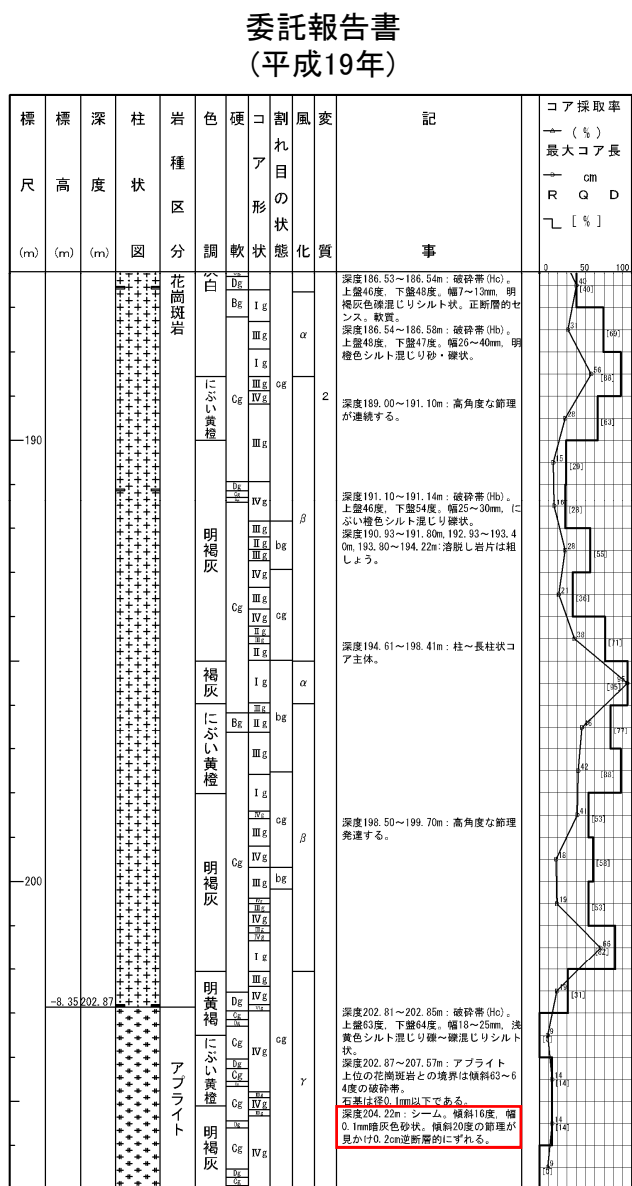


凡例
 ← シーム

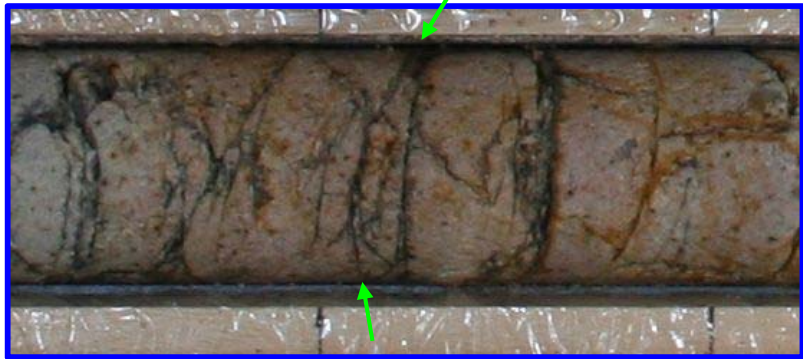
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.2孔 深度204.22m)

・砂状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度204.22m: シーム。傾斜16度、幅0.1mm暗灰色砂状。傾斜20度の節理が見かけ0.2cm逆断層的にずれる。	記載なし	記載なし	記載なし



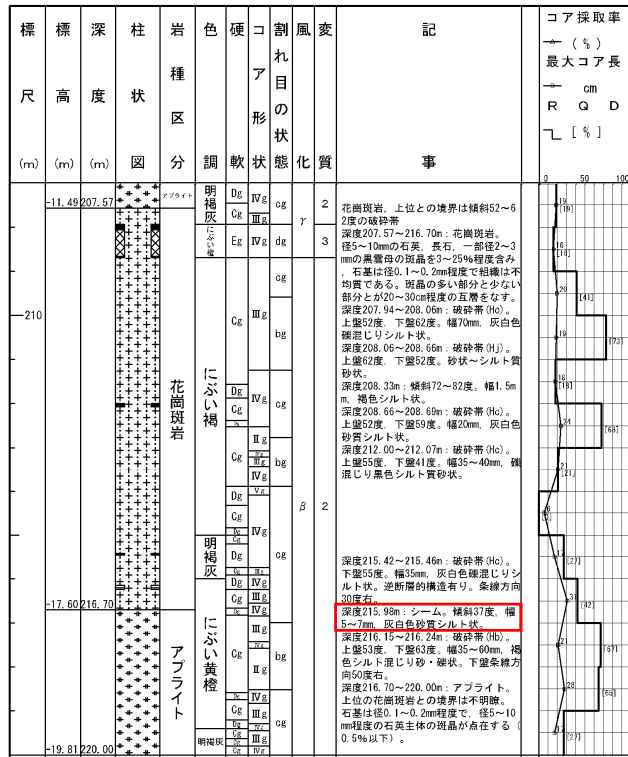
凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.2孔 深度215.98m)

・砂質シルト状を呈するが、上端境界は凹凸が見られ、下端境界は漸移的で直線性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)



設置許可申請書案

記事
207.57~216.70m ・花崗斑岩である。 ●207.94~208.69m ・破碎部である。 ・灰白色の礫混じりシルト状~にぶい橙色の砂状を呈する。 ・灰白色の礫混じりシルト：累計厚90mm ・走向・傾斜はNS66° Wである。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は59°である。 ●212.00~212.07m ・破碎部である。 ・黒色の礫混じりシルト質砂状を呈する。 ・黒色シルト質砂：累計厚40mm ・走向・傾斜はN6° W63° Wである。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は41°である。 ●215.42~215.46m ・破碎部である。 ・灰白色の礫混じりシルト状を呈する。 ・灰白色の礫混じりシルト：累計厚35mm ・走向・傾斜はN9° W69° Wである。 ・下盤境界の傾斜は55°である。 ・逆断層的構造が見られる。条線方向は30度右である。 ●216.15~216.24m ・破碎部である。 ・褐色のシルト混じり砂~礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN26° W61° Wである。 ・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は63度である。 ・下盤での条線方向は50度右である。 216.70~220.00m ・アブライトである。 ・上端境界は不明瞭である。

設置許可申請書 (平成27年11月)

記事
207.57~216.70m ・花崗斑岩である。 ●207.94~208.69m ・破碎部である。 ・灰白色の礫混じりシルト状~にぶい橙色の砂状を呈する。 ・灰白色の礫混じりシルト：累計厚90mm ・走向・傾斜はNS66° Wである。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は59°である。 ●212.00~212.07m ・破碎部である。 ・黒色の礫混じりシルト質砂状を呈する。 ・黒色シルト質砂：累計厚40mm ・走向・傾斜はN6° W63° Wである。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は41°である。 ●215.42~215.46m ・破碎部である。 ・灰白色の礫混じりシルト状を呈する。 ・灰白色の礫混じりシルト：累計厚35mm ・走向・傾斜はN9° W69° Wである。 ・下盤境界の傾斜は55°である。 ・逆断層的構造が見られる。条線方向は30度右である。 ●216.15~216.24m ・破碎部である。 ・褐色のシルト混じり砂~礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN26° W61° Wである。 ・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は63度である。 ・下盤での条線方向は50度右である。 216.70~220.00m ・アブライトである。 ・上端境界は不明瞭である。

審査資料 (平成29年12月22日)

記事
207.57~216.70m ・花崗斑岩である。 ●207.94~208.69m (D-3破碎部) ・破碎部である。 ・主ににぶい橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計厚9.0cm ・走向・傾斜はNS66° Wである。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は59°である。 ●212.00~212.07m (f-2-10破碎部) ・破碎部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・黒色の未固結粘土状部：累計厚3.8cm ・走向・傾斜はN6° W63° Wである。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は41°である。 ●215.42~215.46m (f-2-11破碎部) ・破碎部である。 ・灰白色の未固結粘土状部からなる。この累計厚は3.0cmである。 ・走向・傾斜はN9° W64° Wである。 ・下盤境界の傾斜は55°である。 ●216.15~216.24m (f-2-12破碎部) ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN26° E61° Wである。 ・上盤境界の傾斜は53°、下盤境界の傾斜は63°である。 216.70~220.00m ・アブライトである。 ・上端境界は不明瞭である。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度215.98m: シーム。傾斜37度、幅5~7mm、灰白色砂質シルト状。	記載なし	記載なし	記載なし

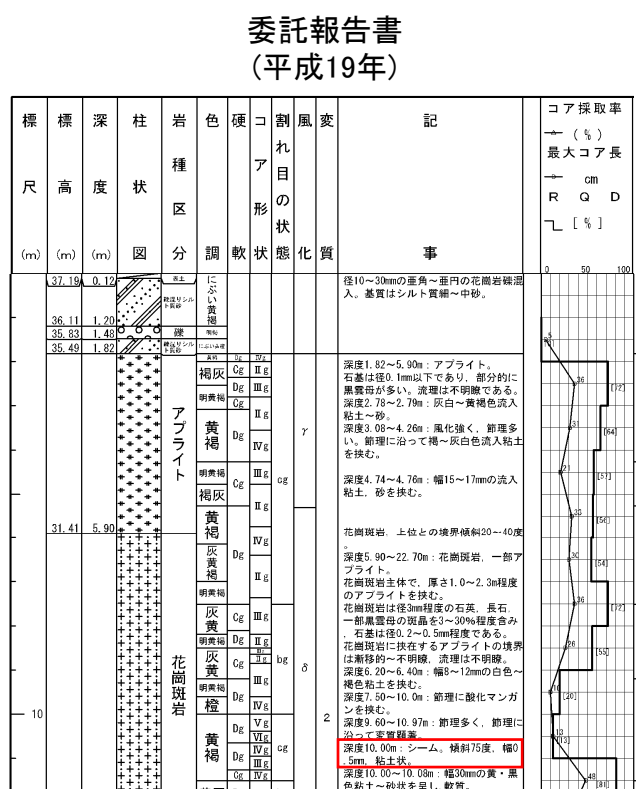


凡例
 ← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.3孔 深度10.00m)

・粘土状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記事
0.00~0.12m
0.12~1.20m
1.20~1.48m
1.48~1.82m
1.82~5.90m
5.90~22.70m
22.70~6.40m
6.40~10.00m
10.00~10.03m

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
0.00~0.12m
0.12~1.20m
1.20~1.48m
1.48~1.82m
1.82~5.90m
5.90~22.70m
22.70~6.40m
6.40~10.00m
10.00~10.03m

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度10.00m: シーム。傾斜75度、幅0.5mm、粘土状。	記載なし	記載なし

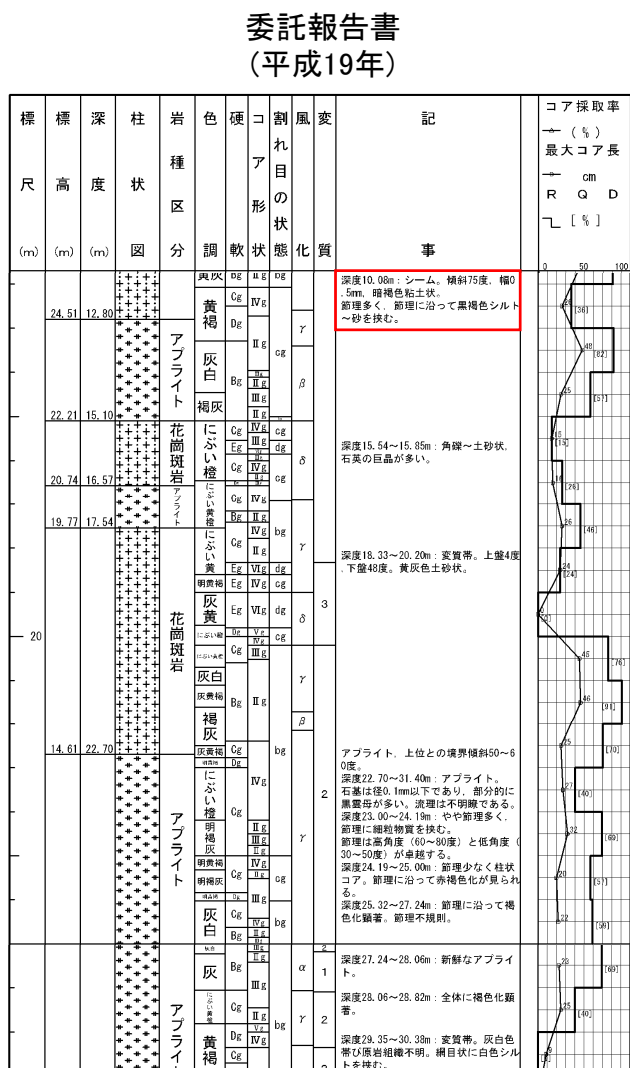


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.3孔 深度10.08m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記事
15.54~15.85m ・角礫~土砂状で、石英の巨晶が多い。
18.33~20.20m ・変質している。 ・黄灰色土砂状を呈する。
22.70~31.40m ・アブライトである。
24.19~25.00m ・割れ目が少なく柱状を呈する。
●28.77~28.82m (f-2-8破碎帯) ・破碎部である。 ・黄褐色の固結塊状部からなる。 ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 29.35~30.38m ・変質している。 ・網目状に白色シルトを挟む。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
15.54~15.85m ・角礫~土砂状で、石英の巨晶が多い。
18.33~20.20m ・変質している。 ・黄灰色土砂状を呈する。
22.70~31.40m ・アブライトである。
24.19~25.00m ・割れ目が少なく柱状を呈する。
●28.77~28.82m (f-2-8破碎帯) ・破碎部である。 ・黄褐色の固結塊状部からなる。 ・走向・傾斜はN32° E80° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 29.35~30.38m ・変質している。 ・網目状に白色シルトを挟む。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度10.08m: シーム。傾斜75度。幅0.5mm。暗褐色粘土状。節理多く、節理に沿って黒褐色シルト~砂を挟む。	記載なし	記載なし

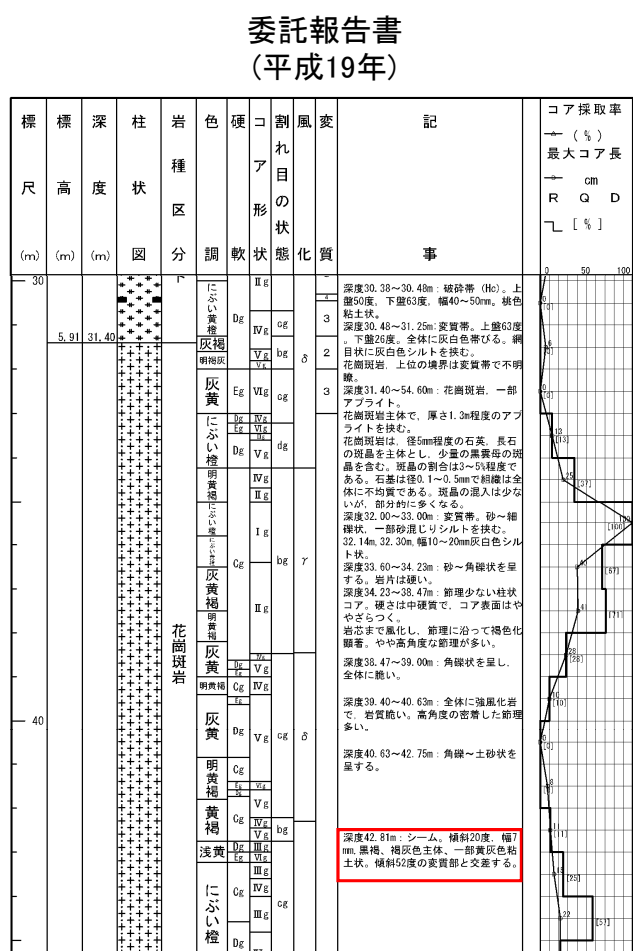


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.3孔 深度42.81m)

・同系統の割れ目に沿って、原岩組織が不明瞭となる部分が分布していることから、破碎部として認定した。
直線的・連続的な粘土状部の分布が認められないことから、カタクレーサイトであると判断した(平成20年破碎部再観察結果)。



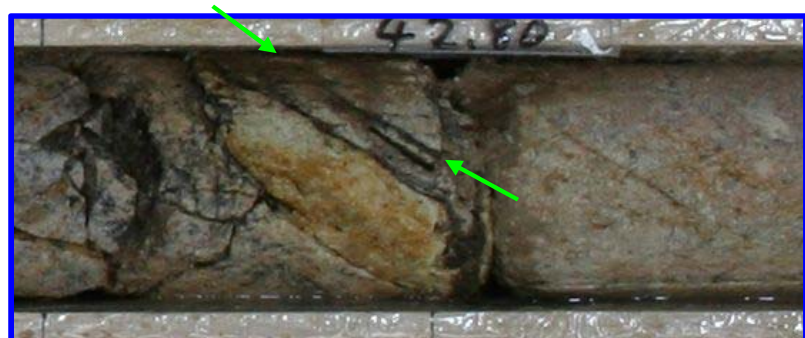
審査資料案

記事
<ul style="list-style-type: none"> ●30.38~30.48m(D-3破碎帯) ・破碎部である。 ・桃色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は5.0cmである。 ・上端境界の傾斜は50°、下端境界の傾斜は63°である。 30.48~31.25m ・変質している。 ・全体に灰白色を呈し、網目状に灰白色シルトを挟む。 31.40~54.60m ・花崗斑岩である。 ・花崗斑岩である。 ・幅1.3m程度のアプライトを挟む。 32.00~33.00m ・変質している。 ・砂~細礫状、一部砂混じりシルトを挟む。 33.60~42.75m ・割れ目が多く、砂~角礫状を呈するものが多い。
<ul style="list-style-type: none"> ●42.75~42.81m(f-2-10破碎帯) ・破碎部である。 ・浅黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN17° E77° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
<ul style="list-style-type: none"> ●30.38~30.48m(D-3破碎帯) ・破碎部である。 ・桃色の未固結粘土状部からなる。この累計幅は5.0cmである。 ・上端境界の傾斜は50°、下端境界の傾斜は63°である。 30.48~31.25m ・変質している。 ・全体に灰白色を呈し、網目状に灰白色シルトを挟む。 31.40~54.60m ・花崗斑岩である。 ・花崗斑岩である。 ・幅1.3m程度のアプライトを挟む。 32.00~33.00m ・変質している。 ・砂~細礫状、一部砂混じりシルトを挟む。 33.60~42.75m ・割れ目が多く、砂~角礫状を呈するものが多い。
<ul style="list-style-type: none"> ●42.75~42.81m(f-2-10破碎帯) ・破碎部である。 ・浅黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN17° E77° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度42.81m: シーム。傾斜20度。幅7mm。黒褐、褐灰色主体、一部黄灰色粘土状。傾斜52度の変質部と交差する。	<ul style="list-style-type: none"> ●42.75~42.81m(f-2-10破碎帯) ・破碎部である。 ・浅黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN17° E77° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●42.75~42.81m(f-2-10破碎帯) ・破碎部である。 ・浅黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN17° E77° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。

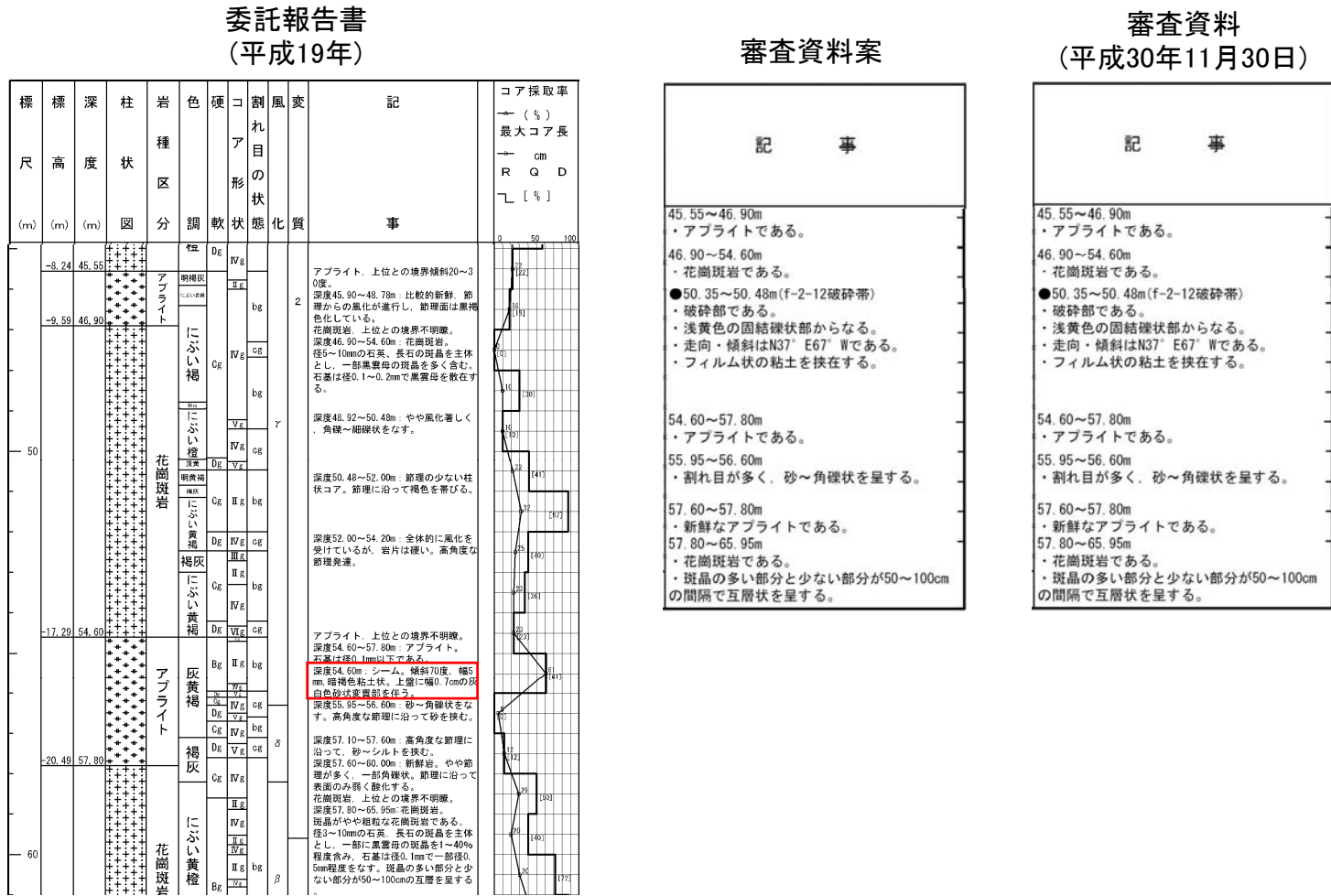


凡例
← : シーム

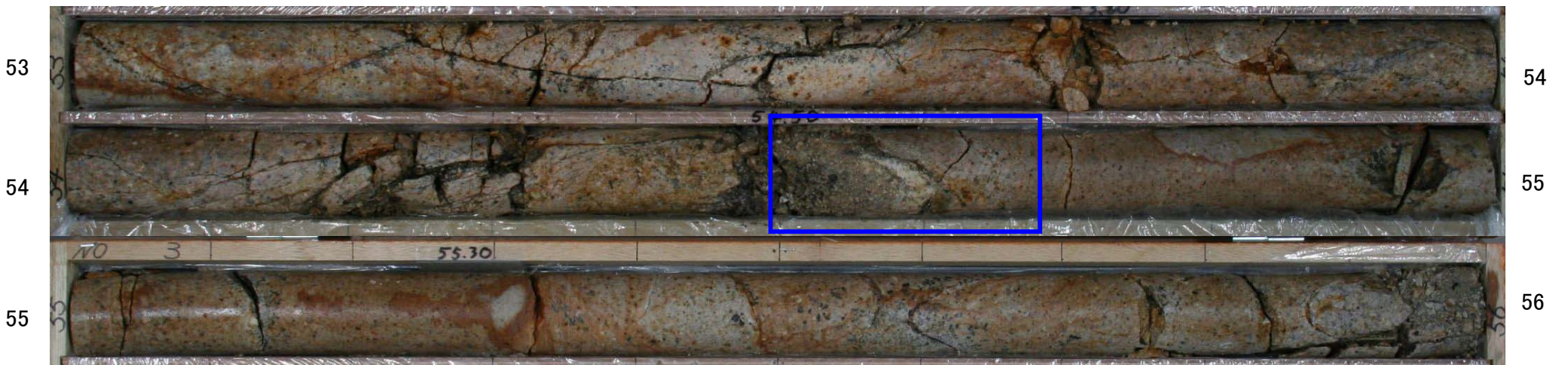
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.3孔 深度54.60m)

・粘土状及び砂状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しい。
 また、周囲の岩盤中の粒子の定向配列は認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度54.60m: シーム。傾斜70度、幅5mm、暗褐色粘土状。上盤に幅0.7cmの灰白色砂状変質部を伴う。	記載なし	記載なし



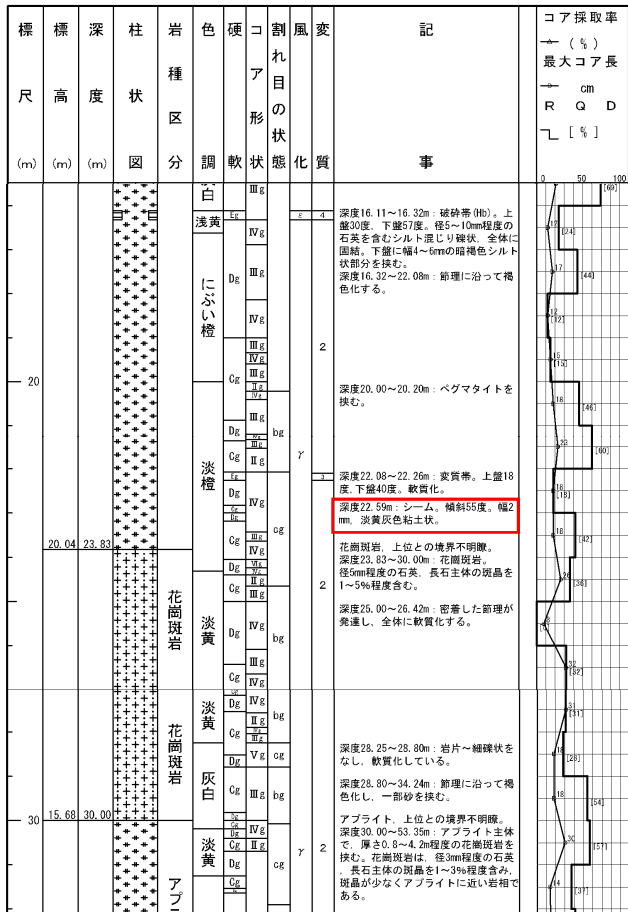
凡例
 ← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.4孔 深度22.59m)

・粘土状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)



設置許可申請書案

記事
<ul style="list-style-type: none"> ●16.11~16.32m <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・淡黄色のシルト混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN35° E62° Wである。 ・上盤境界の傾斜は30°、下盤境界の傾斜は57°である。 16.32~22.08m <ul style="list-style-type: none"> ・割れ目に沿って褐色化している。 20.00~20.20m <ul style="list-style-type: none"> ・ペグマタイトを挟む。 22.08~22.26m <ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・軟質化している。 ・上端境界の傾斜は18°、下端境界の傾斜は40°である。 23.83~30.00m <ul style="list-style-type: none"> ・花崗斑岩である。 ・上端境界は不明瞭である。 25.00~26.42m <ul style="list-style-type: none"> ・密着した割れ目が多い。 ・軟質化している。 28.25~28.80m <ul style="list-style-type: none"> ・割れ目が多く、岩片状を呈する。 28.80~34.24m <ul style="list-style-type: none"> ・割れ目に沿って褐色化し、一部に砂を挟む。 30.00~34.25m <ul style="list-style-type: none"> ・アブライトである。 ・上端境界は不明瞭である。

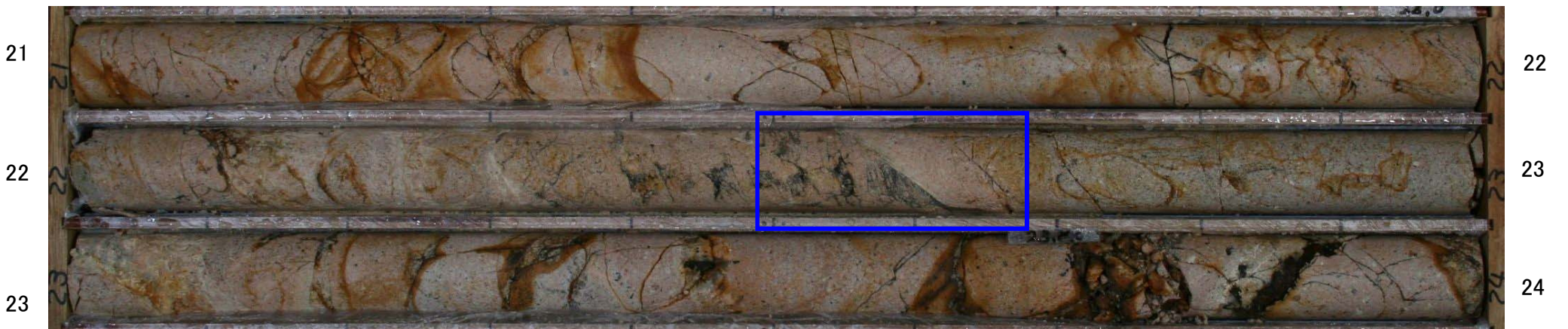
設置許可申請書 (平成27年11月)

記事
<ul style="list-style-type: none"> ●16.11~16.32m <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・淡黄色のシルト混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN35° E62° Wである。 ・上盤境界の傾斜は30°、下盤境界の傾斜は57°である。 16.32~22.08m <ul style="list-style-type: none"> ・割れ目に沿って褐色化している。 20.00~20.20m <ul style="list-style-type: none"> ・ペグマタイトを挟む。 22.08~22.26m <ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・軟質化している。 ・上端境界の傾斜は18°、下端境界の傾斜は40°である。 23.83~30.00m <ul style="list-style-type: none"> ・花崗斑岩である。 ・上端境界は不明瞭である。 25.00~26.42m <ul style="list-style-type: none"> ・密着した割れ目が多い。 ・軟質化している。 28.25~28.80m <ul style="list-style-type: none"> ・割れ目が多く、岩片状を呈する。 28.80~34.24m <ul style="list-style-type: none"> ・割れ目に沿って褐色化し、一部に砂を挟む。 30.00~34.25m <ul style="list-style-type: none"> ・アブライトである。 ・上端境界は不明瞭である。

審査資料 (平成29年12月22日)

記事
<ul style="list-style-type: none"> ●16.13~16.31m (f-2-10破碎帯) <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・淡黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN35° E62° Wである。 ・下端境界の傾斜は72°である。 16.32~22.08m <ul style="list-style-type: none"> ・割れ目に沿って褐色化している。 20.00~20.20m <ul style="list-style-type: none"> ・ペグマタイトを挟む。 ●22.20~22.26m (f-2-11破碎帯) <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・淡黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN3° E79° Wである。 23.83~30.00m <ul style="list-style-type: none"> ・花崗斑岩である。 ・上端境界は不明瞭である。 ●24.12~24.41m (f-12-4破碎帯) <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・淡黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN7° W73° Wである。 25.00~26.42m <ul style="list-style-type: none"> ・密着した割れ目が多い。 ・軟質化している。 28.25~28.80m <ul style="list-style-type: none"> ・割れ目が多く、岩片状を呈する。 28.80~34.24m <ul style="list-style-type: none"> ・割れ目に沿って褐色化し、一部に砂を挟む。 30.00~34.25m <ul style="list-style-type: none"> ・アブライトである。 ・上端境界は不明瞭である。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度22.59m: シーム。傾斜55度。幅2mm。淡黄灰色粘土状。	記載なし	記載なし	記載なし

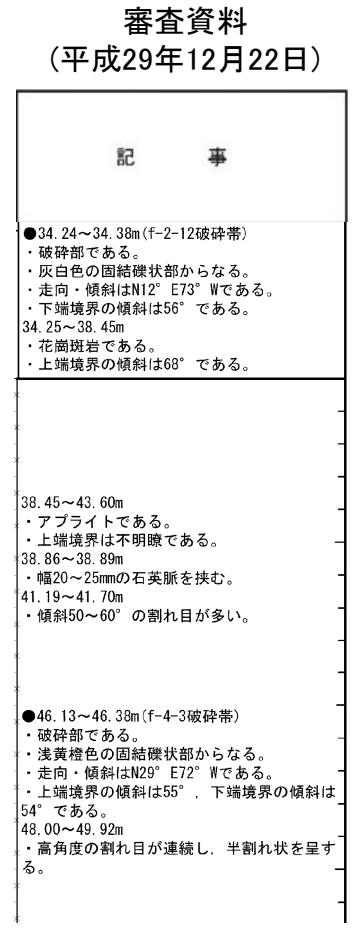
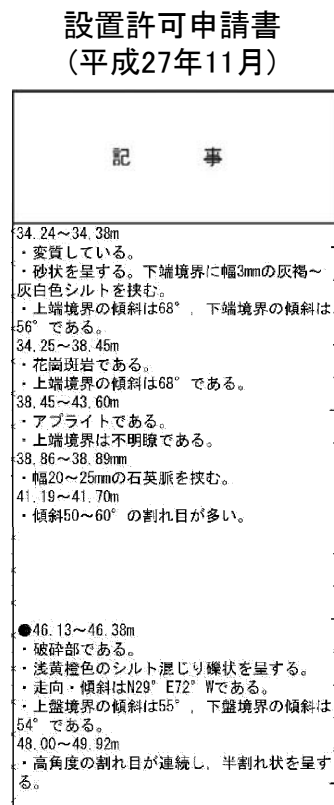
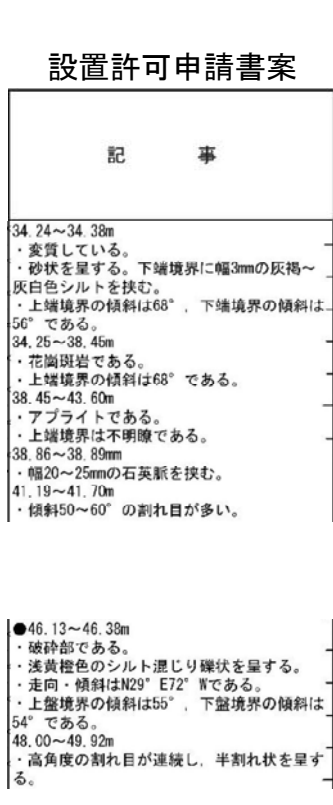
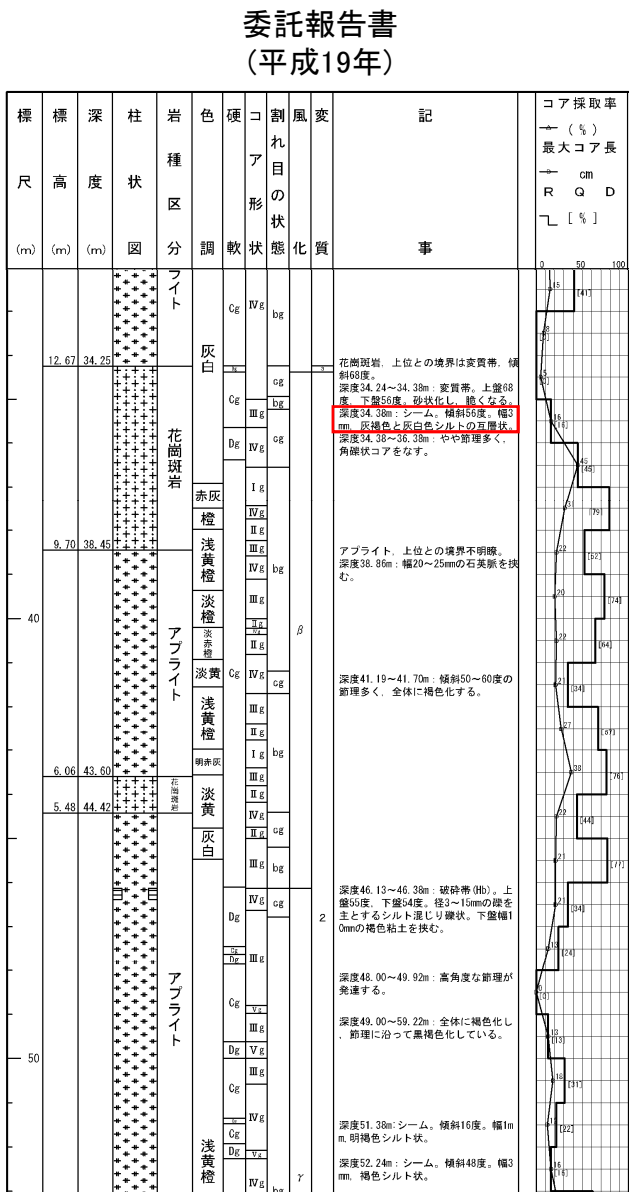


凡例
← : シーム

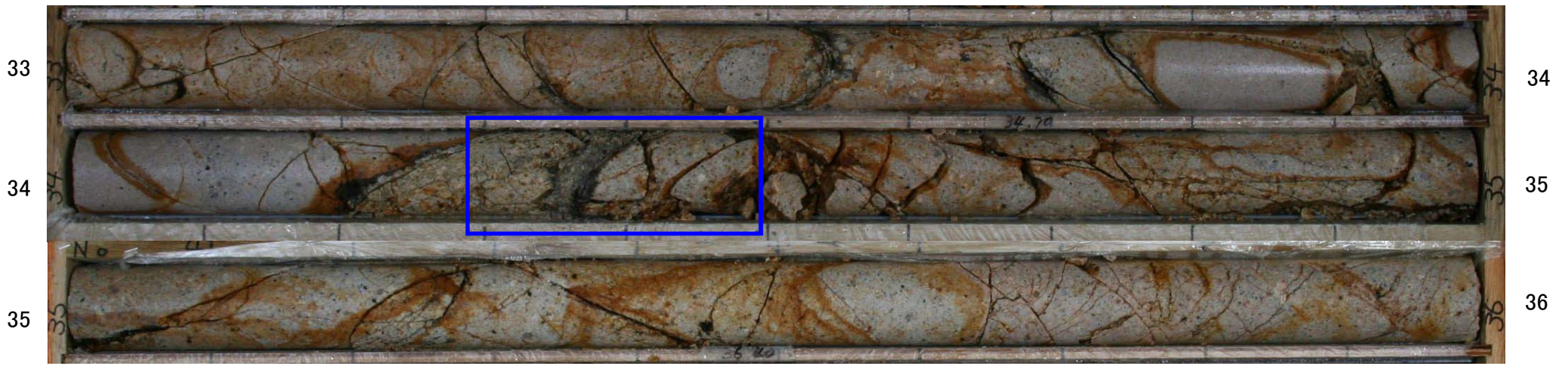
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.4孔 深度34.38m)

・下端面に沿って縞状の構造が認められ、細礫混じり砂状部を伴うことから、周囲の割れ目の多い部分を含め破碎部として認定した。
直線的・連続的な粘土状部の分布が認められないことから、カタクレーサイトであると判断した(平成20年破碎部再観察結果)。



委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
<p>深度34.24~34.38m: 変質帯。上盤68度, 下盤56度。砂状化し、脆くなる。 深度34.38m: シーム。傾斜56度。幅3mm。灰褐色と灰白色シルトの互層状。</p>	<p>34.24~34.38m ・変質している。 ・砂状を呈する。下端境界に幅3mmの灰褐~灰白色シルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は68°, 下端境界の傾斜は56°である。</p>	<p>34.24~34.38m ・変質している。 ・砂状を呈する。下端境界に幅3mmの灰褐~灰白色シルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は68°, 下端境界の傾斜は56°である。</p>	<p>●34.24~34.38m (f-2-12破碎帯) ・破碎部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN12° E73° Wである。 ・下端境界の傾斜は56°である。</p>



凡例
← シーム

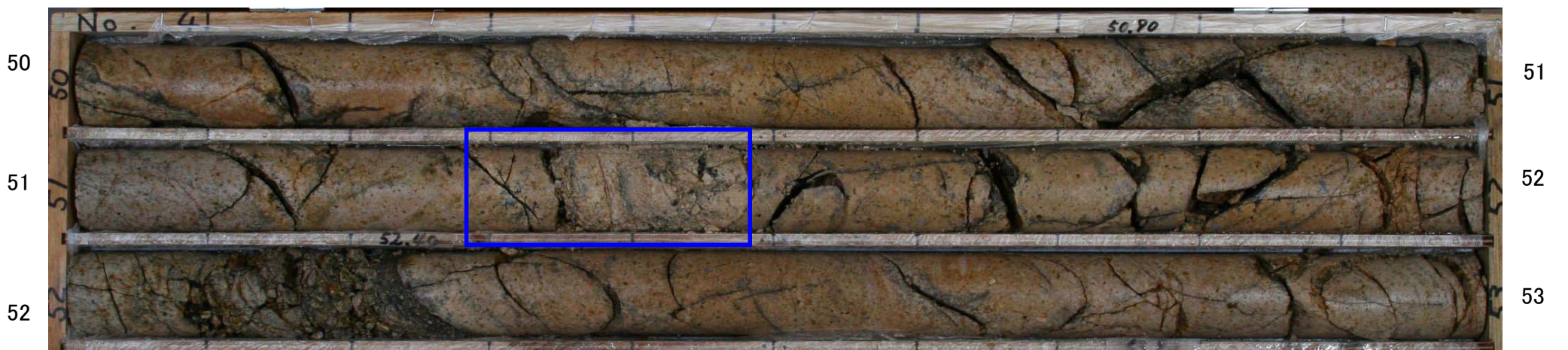
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.4孔 深度51.38m)

・シルト状を呈するが、周囲の岩盤中の粒子の定向配列は認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度51.38m: シーム。傾斜16度。幅1mm。明褐色シルト状。	記載なし	記載なし	記載なし



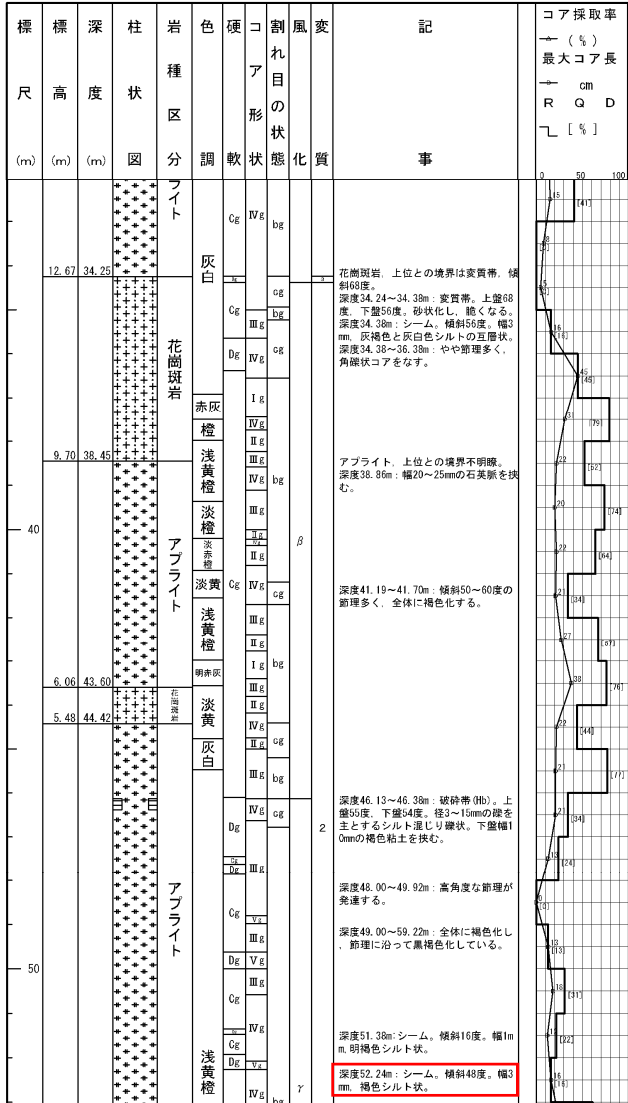
凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.4孔 深度52.24m)

一部で礫混じりシルト状を呈するが、礫に定向配列は認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)



設置許可申請書案

記事
<p>34.24~34.38m ・変質している。下端境界に幅3mmの灰褐～灰白色シルトを挟む。 ・砂状を呈する。下端境界に傾斜は68°、下端境界の傾斜は56°である。 34.25~38.45m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は68°である。 38.45~43.60m ・アプライトである。 ・上端境界は不明瞭である。 38.86~38.89m ・幅20~25mmの石英脈を挟む。 41.19~41.70m ・傾斜50~60°の割れ目が多い。</p> <p>●46.13~46.38m ・破碎部である。 ・浅黄褐色のシルト混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN29° E72° Wである。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は54°である。 48.00~49.92m ・高角度の割れ目が連続し、半割れ状を呈する。</p>

設置許可申請書 (平成27年11月)

記事
<p>34.24~34.38m ・変質している。下端境界に幅3mmの灰褐～灰白色シルトを挟む。 ・砂状を呈する。下端境界に傾斜は68°、下端境界の傾斜は56°である。 34.25~38.45m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は68°である。 38.45~43.60m ・アプライトである。 ・上端境界は不明瞭である。 38.86~38.89m ・幅20~25mmの石英脈を挟む。 41.19~41.70m ・傾斜50~60°の割れ目が多い。</p> <p>●46.13~46.38m ・破碎部である。 ・浅黄褐色のシルト混じり礫状を呈する。 ・走向・傾斜はN29° E72° Wである。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は54°である。 48.00~49.92m ・高角度の割れ目が連続し、半割れ状を呈する。</p>

審査資料 (平成29年12月22日)

記事
<p>●34.24~34.38m (f-2-12破碎帯) ・破碎部である。 ・灰白色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN12° E73° Wである。 ・下端境界の傾斜は56°である。 34.25~38.45m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は68°である。</p> <p>38.45~43.60m ・アプライトである。 ・上端境界は不明瞭である。 38.86~38.89m ・幅20~25mmの石英脈を挟む。 41.19~41.70m ・傾斜50~60°の割れ目が多い。</p> <p>●46.13~46.38m (f-4-3破碎帯) ・破碎部である。 ・浅黄褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN29° E72° Wである。 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は54°である。 48.00~49.92m ・高角度の割れ目が連続し、半割れ状を呈する。</p>

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度52.24m: シーム。傾斜48度。幅3mm。褐色シルト状。	記載なし	記載なし	記載なし



凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.4孔 深度100.21m,100.67m)

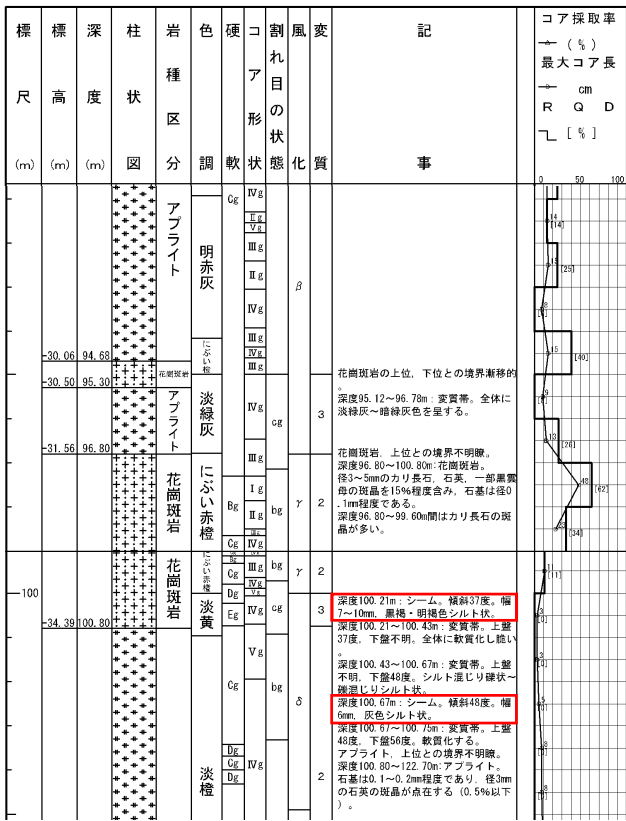
【深度100.21m】

一部で礫混じりシルト状を呈するが、礫に定向配列は認められないことから、破碎部ではないと判断した。

【深度100.67m】

シルト状を呈するが、岩片によりその分布が途切れ連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)



設置許可申請書案

94.68~95.30m
・花崗斑岩である。
・上端境界、下端境界は漸移的である。
95.12~96.78m
・変質している。
・淡緑灰~暗緑灰色を呈する。
花崗斑岩、上位との境界不明瞭。
96.80~100.80m
・花崗斑岩である。
・上端境界は不明瞭である。
100.21~100.75m
・変質している。
・浅黄色を呈し、軟質化している。
・上端境界に幅7~10mmの黒褐・明褐色シルトを挟む。100.67mに傾斜48°、幅6mmの灰色シルトを挟む。
・上端境界の傾斜は37°、下端境界の傾斜は56°である。
100.80~122.70m
・アブライトである。
・上端境界は不明瞭である。

設置許可申請書 (平成27年11月)

94.68~95.30m
・花崗斑岩である。
・上端境界、下端境界は漸移的である。
95.12~96.78m
・変質している。
・淡緑灰~暗緑灰色を呈する。
花崗斑岩、上位との境界不明瞭。
96.80~100.80m
・花崗斑岩である。
・上端境界は不明瞭である。
100.21~100.75m
・変質している。
・浅黄色を呈し、軟質化している。
・上端境界に幅7~10mmの黒褐・明褐色シルトを挟む。100.67mに傾斜48°、幅6mmの灰色シルトを挟む。
・上端境界の傾斜は37°、下端境界の傾斜は56°である。
100.80~122.70m
・アブライトである。
・上端境界は不明瞭である。

審査資料 (平成29年12月22日)

94.68~95.30m
・花崗斑岩である。
・上端境界、下端境界は漸移的である。
95.12~96.78m
・変質している。
・淡緑灰~暗緑灰色を呈する。
96.80~100.80m
・花崗斑岩である。
・上端境界は不明瞭である。
100.21~100.75m
・変質している。
・浅黄色を呈し、軟質化している。
・上端境界に幅7~10mmの黒褐・明褐色シルトを挟む。
100.67m
・傾斜48°、幅6mmの灰色シルトを挟む。
100.80~122.70m
・アブライトである。
・上端境界は不明瞭である。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度100.21m: シーム。傾斜37度。幅7~10mm。黒褐・明褐色シルト状。 深度100.21~100.43m: 変質帯。上盤37度。下盤不明。全体に軟質化し脆い。 深度100.43~100.67m: 変質帯。上盤不明。下盤48度。シルト混じり礫状~礫混じりシルト状。 深度100.67m: シーム。傾斜48度。幅6mm。灰色シルト状。 深度100.67~100.75m: 変質帯。上盤48度。下盤56度。軟質化する。アブライト。上位との境界不明瞭。 深度100.80~122.70m: アブライト。 石礫は0.1~0.3mm程度であり、径3mmの石礫の混入が点在する(0.5%以下)。	100.21~100.75m ・変質している。 ・浅黄色を呈し、軟質化している。 ・上端境界に幅7~10mmの黒褐・明褐色シルトを挟む。100.67mに傾斜48°、幅6mmの灰色シルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は37°、下端境界の傾斜は56°である。	100.21~100.75m ・変質している。 ・浅黄色を呈し、軟質化している。 ・上端境界に幅7~10mmの黒褐・明褐色シルトを挟む。100.67mに傾斜48°、幅6mmの灰色シルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は37°、下端境界の傾斜は56°である。	100.21~100.75m ・変質している。 ・浅黄色を呈し、軟質化している。 ・上端境界に幅7~10mmの黒褐・明褐色シルトを挟む。

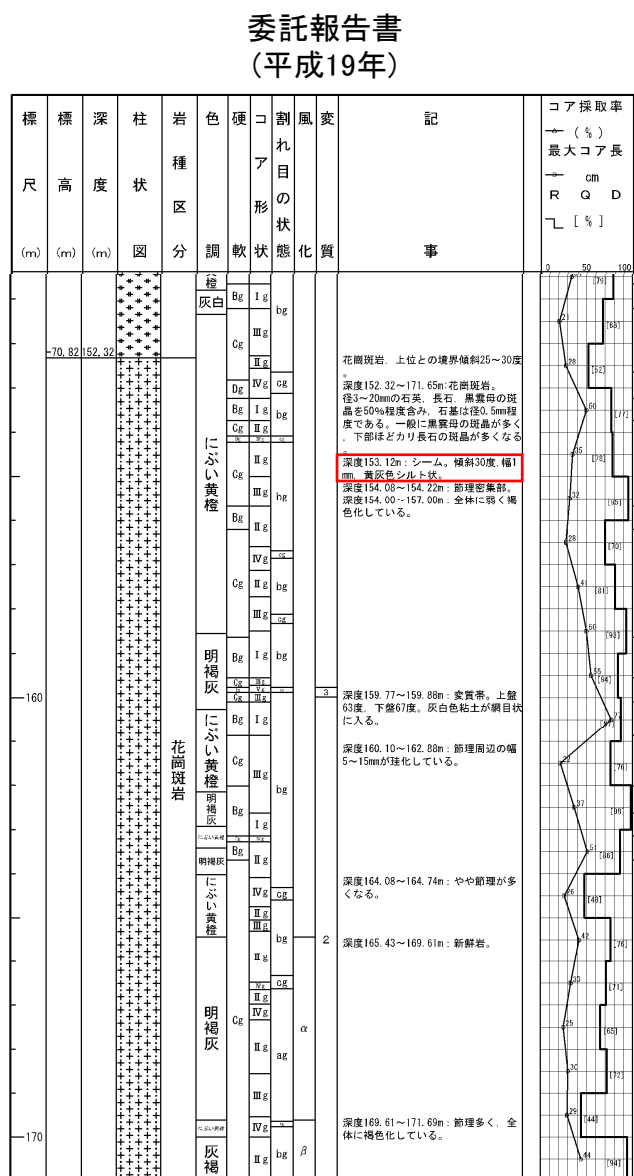


凡例
← : シーム

0 5 cm

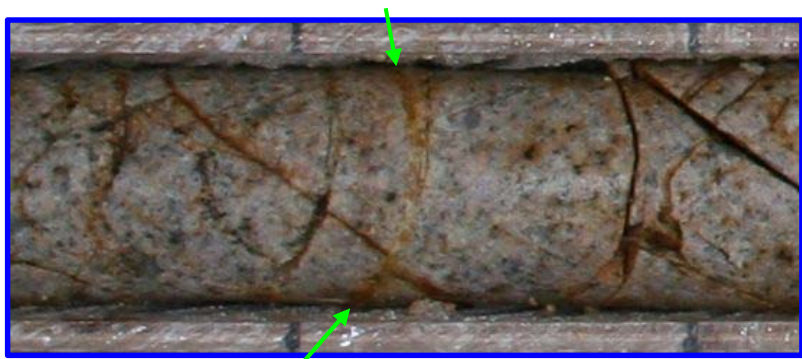
柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.4孔 深度153.12m)

・シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しい。また、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
<p>152.32~171.65m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は25°~30°である。 154.08~154.22m ・割れ目が密集する。 <p>158.60~160.85m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・硬質な新鮮部を主体とする。 ・割れ目が少なく、長柱状を呈する。 159.77~159.88m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は67°である。 160.10~162.88m ・割れ目周辺の幅5~15mmが珪化している。 <p>165.43~169.61m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新鮮である。 ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。 	<p>152.32~171.65m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は25°~30°である。 154.08~154.22m ・割れ目が密集する。 <p>158.60~160.85m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・硬質な新鮮部を主体とする。 ・割れ目が少なく、長柱状を呈する。 159.77~159.88m ・変質している。 ・灰白色粘土が網目状に分布する。 ・上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は67°である。 160.10~162.88m ・割れ目周辺の幅5~15mmが珪化している。 <p>165.43~169.61m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新鮮である。 ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。 	<p>152.32~171.65m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は25°~30°である。 154.08~154.22m ・割れ目が多い。 <p>158.60~160.85m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・硬質な新鮮部を主体とする。 ・割れ目が少なく、長柱状を呈する。 ● 159.77~159.88m (f-12-10破碎帯) ・破碎部である。 ・灰白色の固結塊状部からなる。 ・走向・傾斜はN15° E87° Wである。 ・上端境界の傾斜は63°、下端境界の傾斜は67°である。 160.10~162.88m ・割れ目周辺の幅5~15mmが珪化している。 <p>165.43~169.61m</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新鮮である。 ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度153.12m: シーム。傾斜30度、幅1mm、黄灰色シルト状。	記載なし	記載なし	記載なし



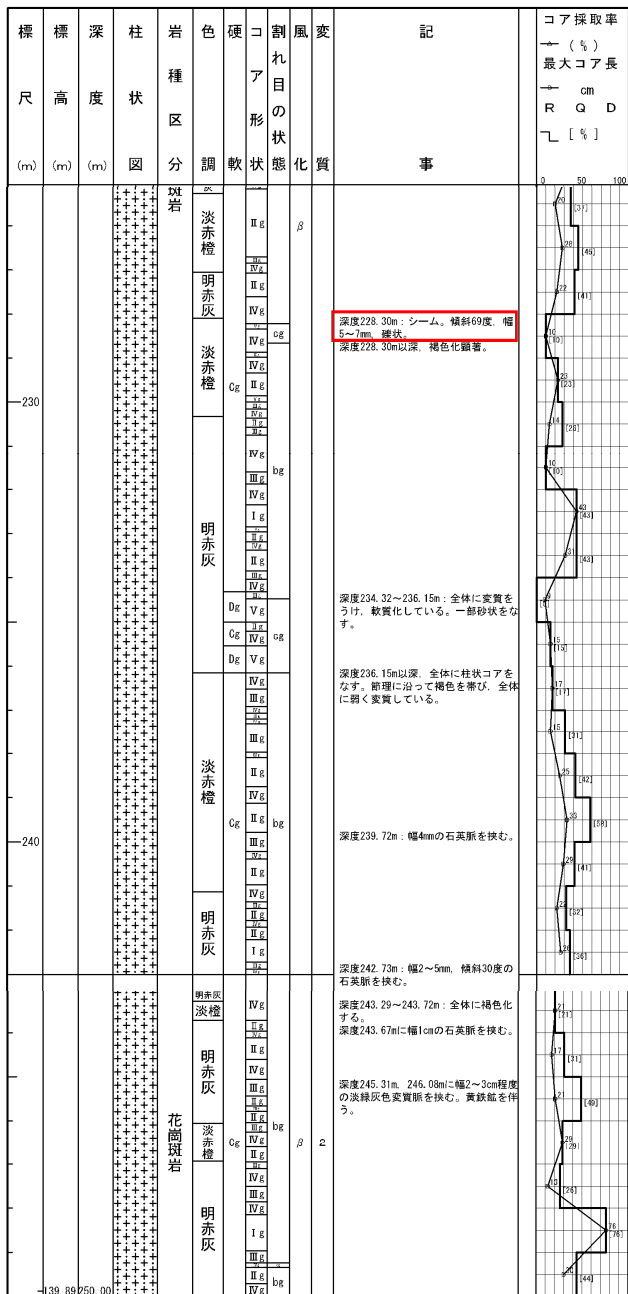
凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.4孔 深度228.30m)

- ・礫状を呈するが礫に定向配列は認められず、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。
- ・上盤側の岩盤は機械割れにより乱れている。

委託報告書 (平成19年)



設置許可申請書案

記事
234.32~236.15m ・変質している。一部砂状を呈する。 236.15~250.00m ・柱状~長柱状を呈する。
239.72m ・幅4mmの石英脈を挟む。
242.73m ・傾斜30°、幅2~5mmの石英脈を挟む。
243.67m ・幅10mmの石英脈を挟む。
245.31m、246.08m ・幅20~30mm程度の淡緑灰色変質脈を挟む。 黄鉄鉱を伴っている。

設置許可申請書 (平成27年11月)

記事
234.32~236.15m ・変質している。一部砂状を呈する。 236.15~250.00m ・柱状~長柱状を呈する。
239.72m ・幅4mmの石英脈を挟む。
242.73m ・傾斜30°、幅2~5mmの石英脈を挟む。
243.67m ・幅10mmの石英脈を挟む。
245.31m、246.08m ・幅20~30mm程度の淡緑灰色変質脈を挟む。 黄鉄鉱を伴っている。

審査資料 (平成29年12月22日)

記事
●234.32~236.15m (f-6-2破碎帯) ・破碎部である。 ・明赤灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN28° W88° Wである。 236.15~250.00m ・柱状~長柱状を呈する。
239.72m ・幅4mmの石英脈を挟む。
242.73m ・傾斜30°、幅2~5mmの石英脈を挟む。
243.67m ・幅10mmの石英脈を挟む。
245.31m、246.08m ・幅20~30mm程度の淡緑灰色変質脈を挟む。 黄鉄鉱を伴う。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度228.30m: シーム。傾斜69度、幅5~7mm、礫状。	記載なし	記載なし	記載なし

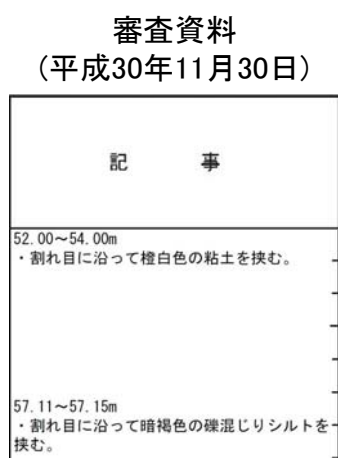
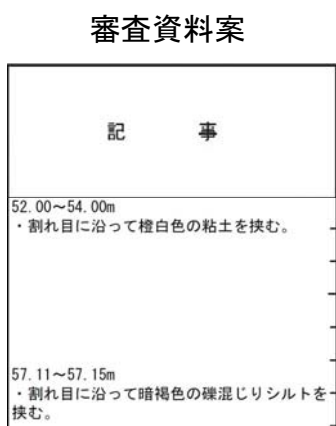
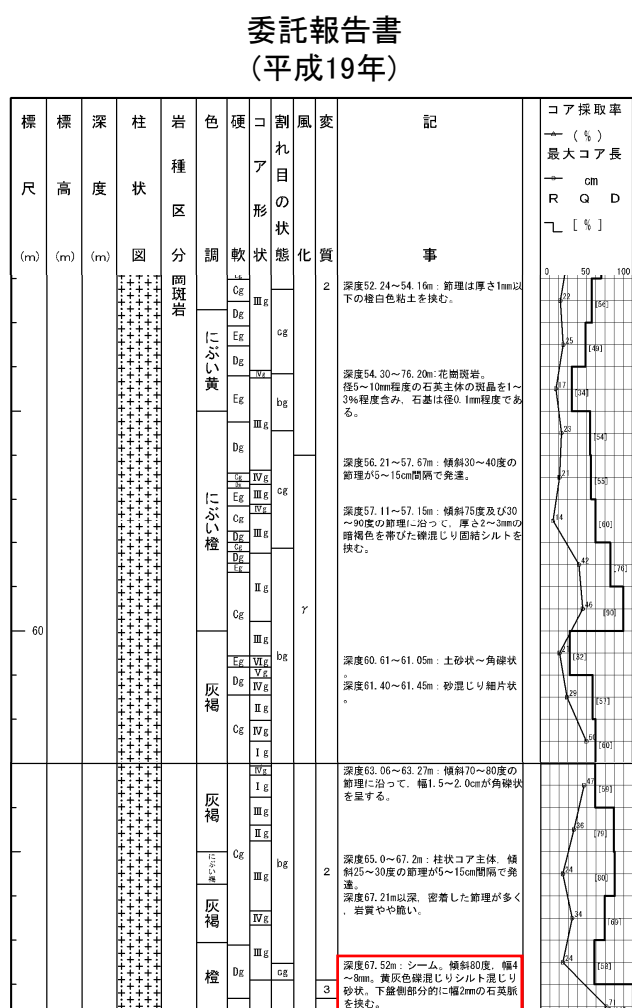


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.5孔 深度67.52m)

・礫混じりシルト混じり砂状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度67.52m: シーム。傾斜80度、幅4~8mm。黄灰色礫混じりシルト混じり砂状。下盤側部分的に幅2mmの石英脈を挟む。	記載なし	記載なし

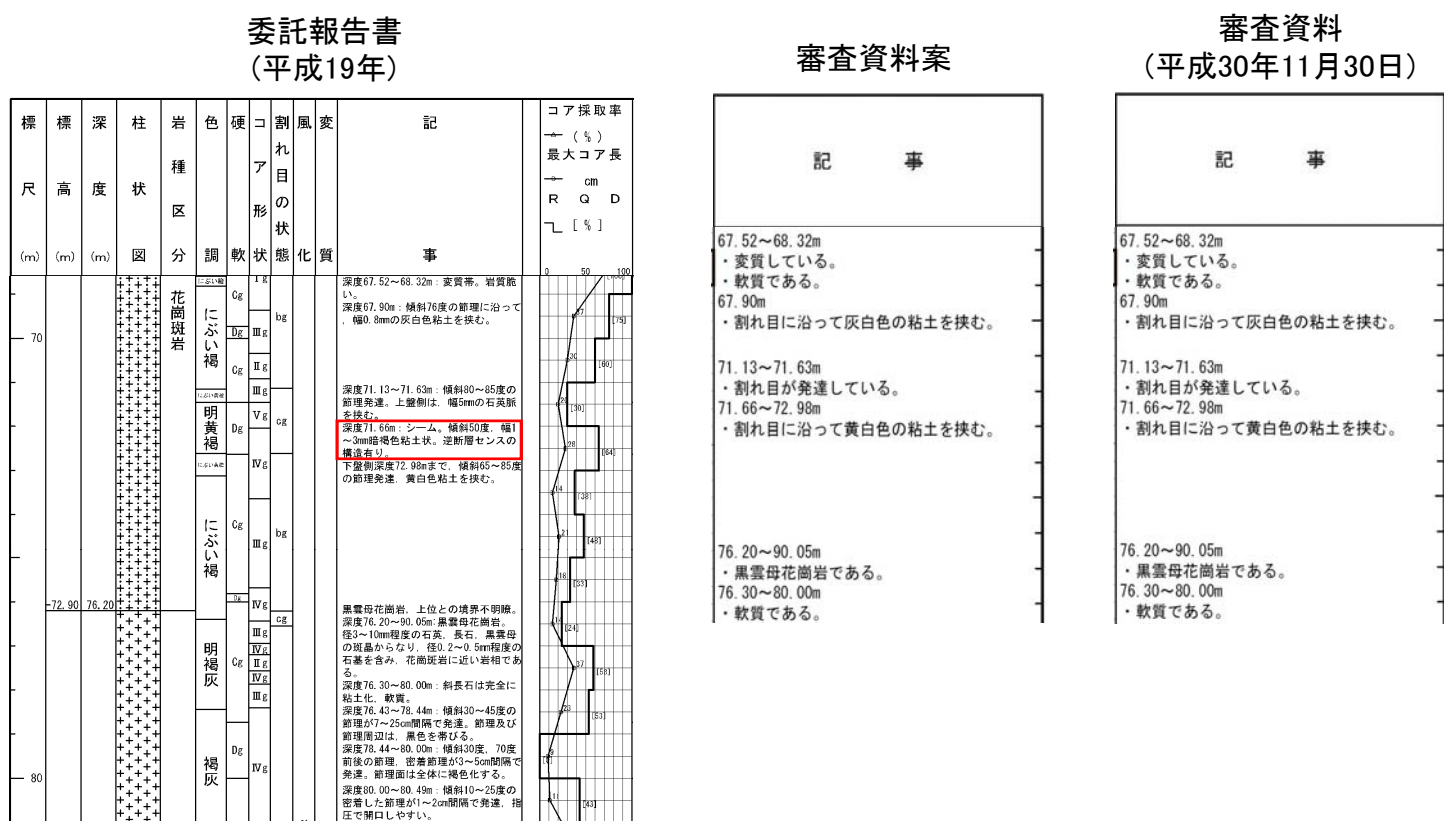


凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.5孔 深度71.66m)

・粘土状を呈するが、その分布は湾曲し直線性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度71.66m:シーム。傾斜50度。幅1~3mm暗褐色粘土状。逆断層センスの構造有り。	記載なし	記載なし

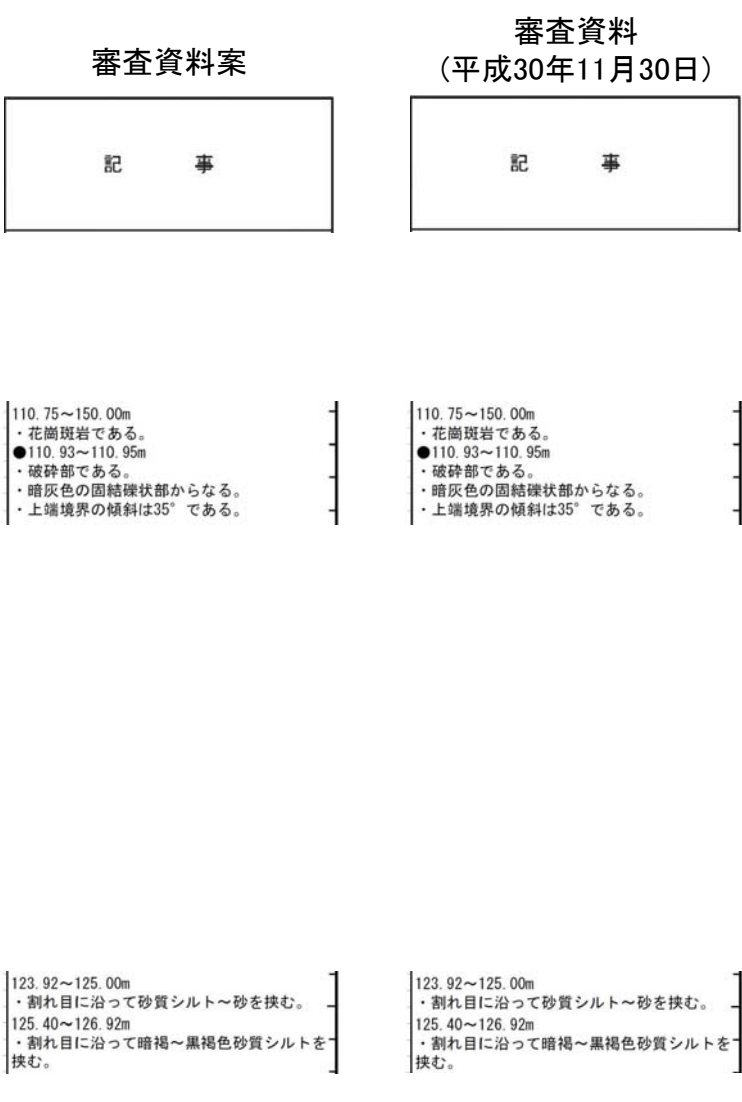
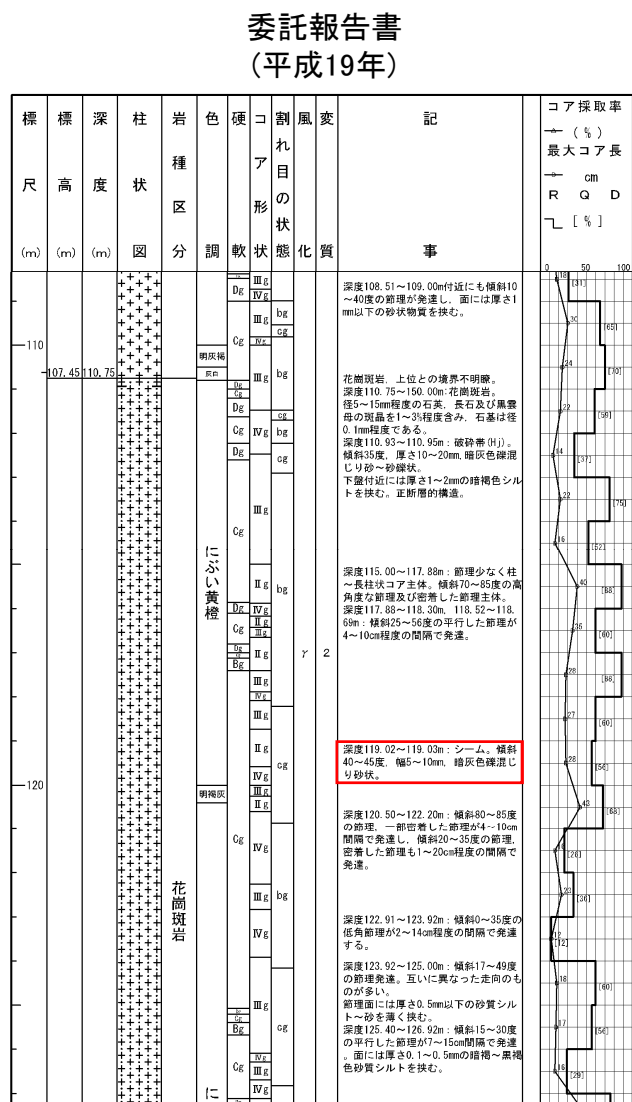


凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.5孔 深度119.02~119.03m)

・礫混じり砂状を呈するが礫に定向配列は認められず、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度119.02~119.03m: シーム。傾斜40~45度、幅5~10mm、暗灰色礫混じり砂状。	記載なし	記載なし

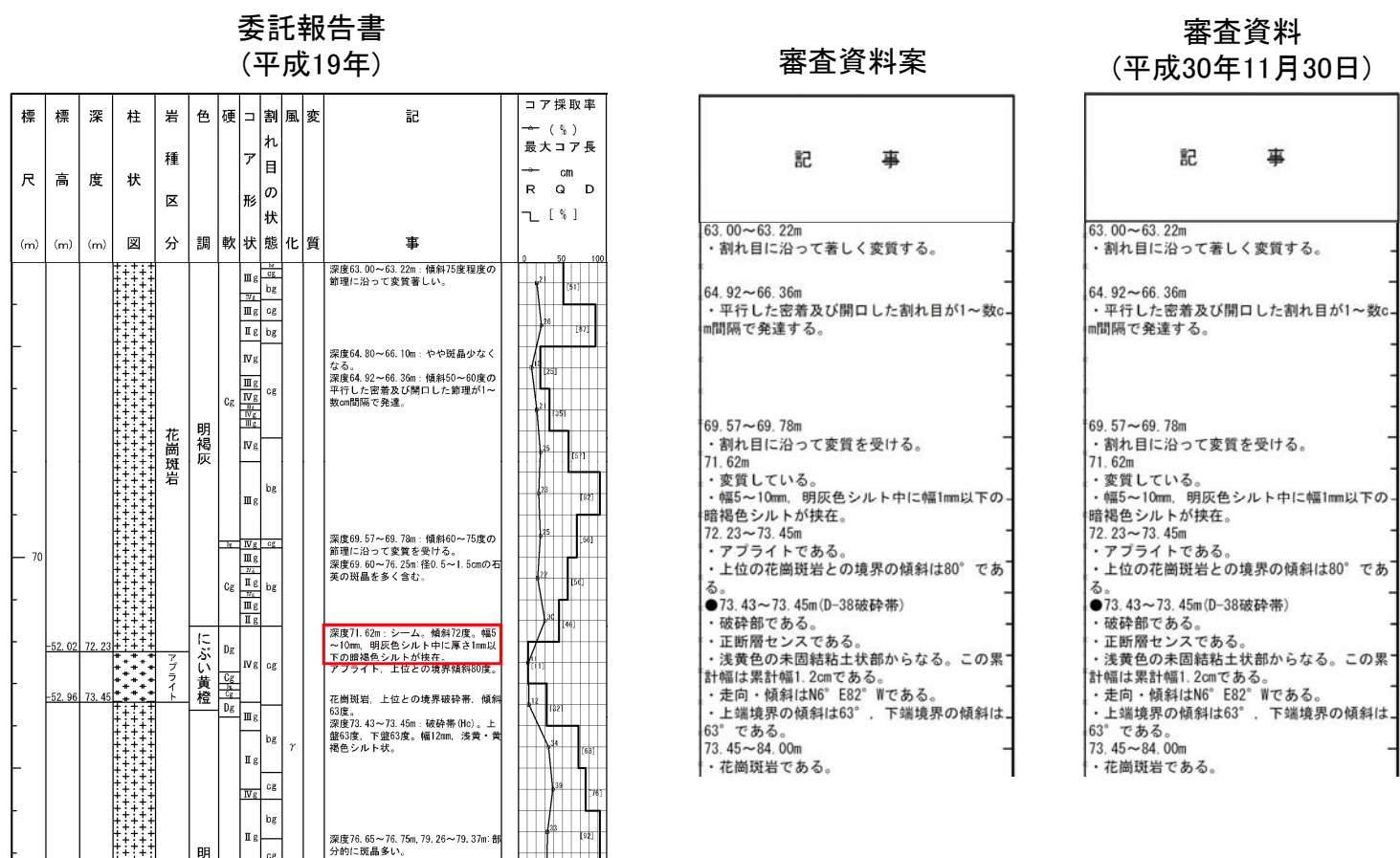


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.6孔 深度71.62m)

・シルト状を呈するがその分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度71.62m: シーム。傾斜72度。幅5~10mm。明灰色シルト中に厚さ1mm以下の暗褐色シルトが挟在。	71.62m ・変質している。 ・幅5~10mm, 明灰色シルト中に幅1mm以下の暗褐色シルトが挟在。	71.62m ・変質している。 ・幅5~10mm, 明灰色シルト中に幅1mm以下の暗褐色シルトが挟在。

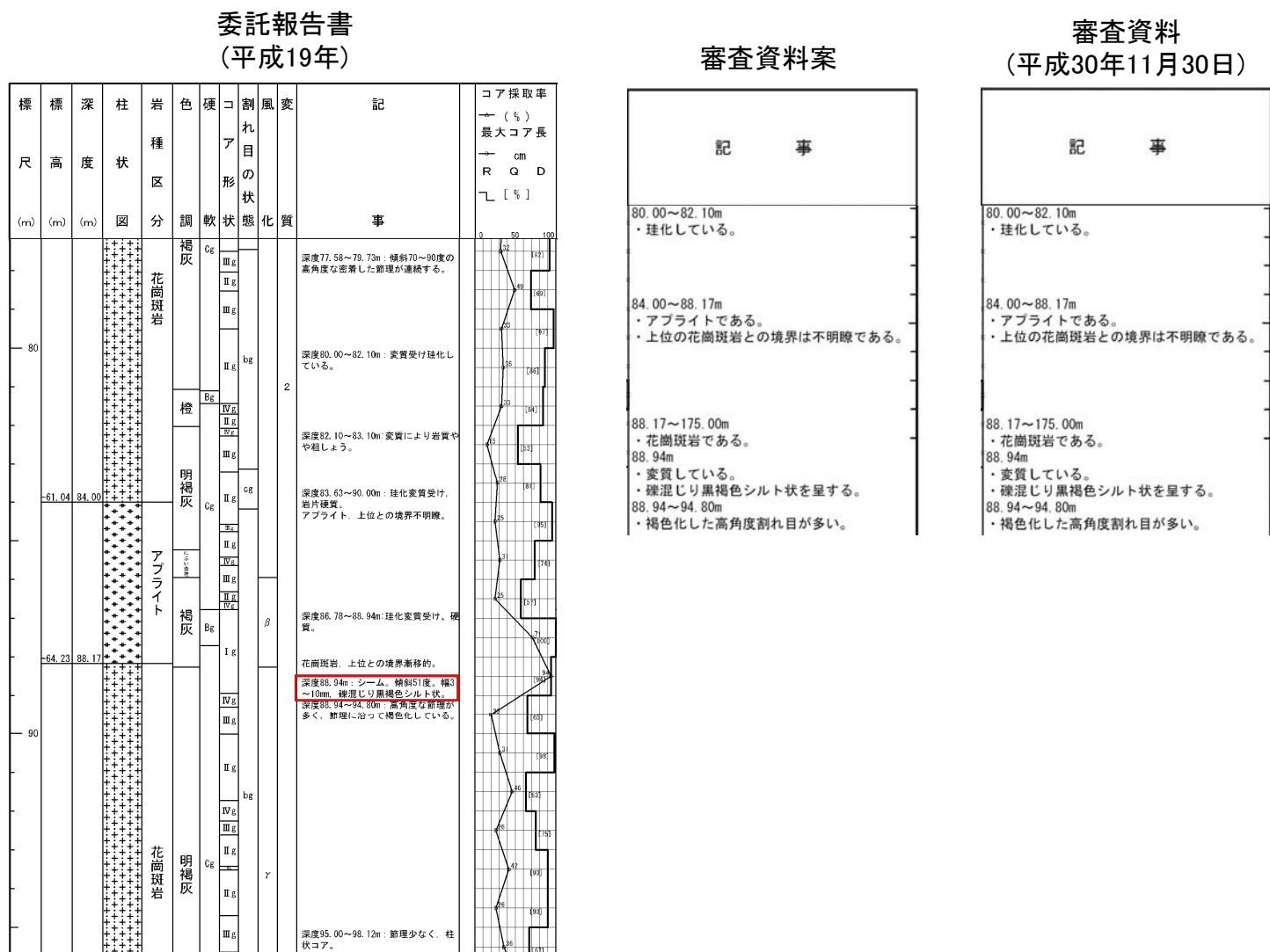


凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.6孔 深度88.94m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度88.94m: シーム。傾斜51度。幅3~10mm。礫混じり黒褐色シルト状。	88.94m ・変質している。 ・礫混じり黒褐色シルト状を呈する。	88.94m ・変質している。 ・礫混じり黒褐色シルト状を呈する。



凡例
← : シーム

0 5 cm

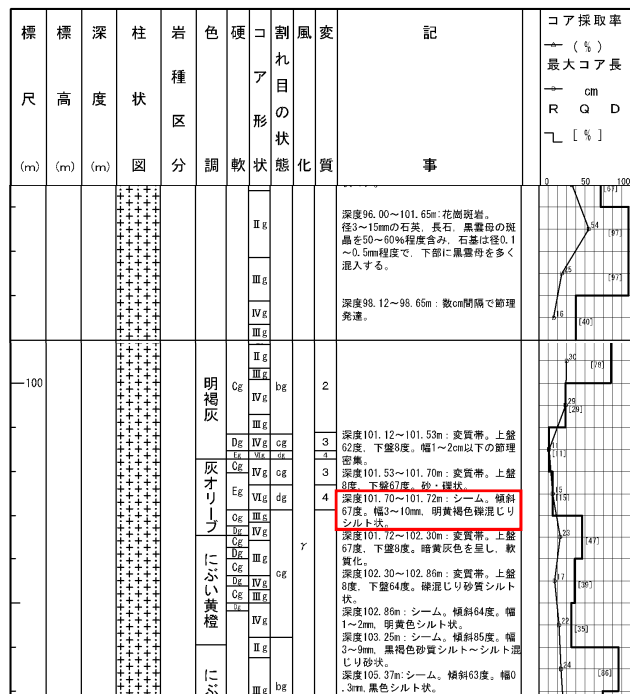
柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.6孔 深度101.70~101.72m)

・シルト状を呈するがその分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)

審査資料案

審査資料 (平成30年11月30日)



記事	
101.12~105.37m	・変質している。 ・シルト状を呈する。

記事	
101.12~105.37m	・変質している。 ・シルト状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度101.12~101.53m: 変質帯。上盤62度, 下盤8度。幅1~2cm以下の節理密集。 深度101.53~101.70m: 変質帯。上盤8度, 下盤67度。砂・礫状。 深度101.70~101.72m: シーム。傾斜67度。幅3~10mm。明黄褐色礫混じりシルト状。 深度101.72~102.30m: 変質帯。上盤67度, 下盤8度。暗黄灰色を呈し, 軟質化。 深度102.30~102.86m: 変質帯。上盤8度, 下盤64度。礫混じり砂質シルト状。 深度102.86m: シーム。傾斜64度。幅1~2mm, 明黄色シルト状。 深度103.25m: シーム。傾斜85度。幅3~9mm, 黒褐色砂質シルト~シルト混じり砂状。 深度105.37m: シーム。傾斜63度。幅0.3mm, 黒色シルト状。	101.12~105.37m ・変質している。 ・シルト状を呈する。	101.12~105.37m ・変質している。 ・シルト状を呈する。



凡例
← : シーム

0 5 cm

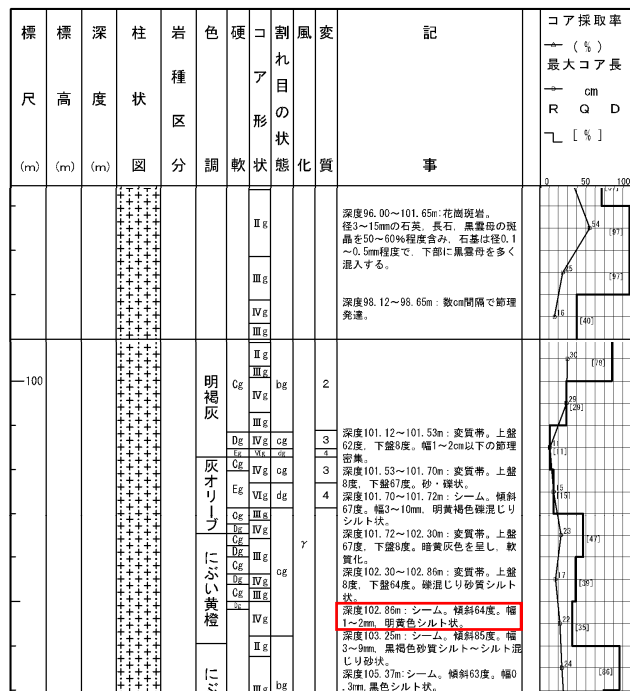
柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.6孔 深度102.86m)

・シルト状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)

審査資料案

審査資料 (平成30年11月30日)



記事	
101.12~105.37m	・変質している。 ・シルト状を呈する。

記事	
101.12~105.37m	・変質している。 ・シルト状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度101.12~101.53m: 変質帯。上盤62度, 下盤8度。幅1~2cm以下の節理密集。 深度101.53~101.70m: 変質帯。上盤8度, 下盤67度。砂・礫状。 深度101.70~101.72m: シーム。傾斜67度。幅3~10mm, 明黄褐色礫混じりシルト状。 深度101.72~102.30m: 変質帯。上盤67度, 下盤8度。暗黄灰色を呈し, 軟質化。 深度102.30~102.86m: 変質帯。上盤8度, 下盤64度。礫混じり砂質シルト状。 深度102.86m: シーム。傾斜64度。幅1~2mm, 明黄色シルト状。 深度103.25m: シーム。傾斜85度。幅3~9mm, 黒褐色砂質シルト~シルト混じり砂状。 深度105.37m: シーム。傾斜63度。幅0.3mm, 黒色シルト状。	101.12~105.37m ・変質している。 ・シルト状を呈する。	101.12~105.37m ・変質している。 ・シルト状を呈する。



凡例
← : シーム

0 5 cm

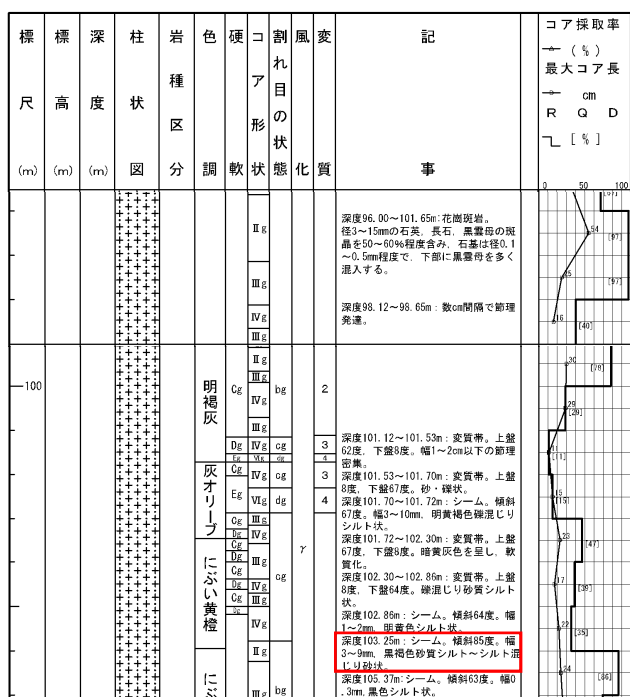
柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.6孔 深度103.25m)

・シルト状を呈するが、網目状の分布を示し連続性や直線性に乏しい。
 また、一部で礫状となるが礫に定向配列は認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)

審査資料案

審査資料 (平成30年11月30日)



記事
101.12~105.37m ・変質している。 ・シルト状を呈する。

記事
101.12~105.37m ・変質している。 ・シルト状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度101.12~101.53m: 変質帯。上盤62度, 下盤8度。幅1~2cm以下の節理密集。 深度101.53~101.70m: 変質帯。上盤8度, 下盤67度。砂・礫状。 深度101.70~101.72m: シーム。傾斜67度。幅3~10mm, 明黄褐色礫混じりシルト状。 深度101.72~102.30m: 変質帯。上盤67度, 下盤8度。暗黄灰色を呈し, 軟質化。 深度102.30~102.86m: 変質帯。上盤8度, 下盤64度。礫混じり砂質シルト状。 深度102.86m: シーム。傾斜64度。幅1~2mm, 明黄色シルト状。 深度103.25m: シーム。傾斜85度。幅3~9mm, 黒褐色砂質シルト~シルト混じり砂状。 深度105.37m: シーム。傾斜63度。幅0.3mm, 黒色シルト状。	101.12~105.37m ・変質している。 ・シルト状を呈する。	101.12~105.37m ・変質している。 ・シルト状を呈する。



凡例
 ← :シーム

0 5 cm

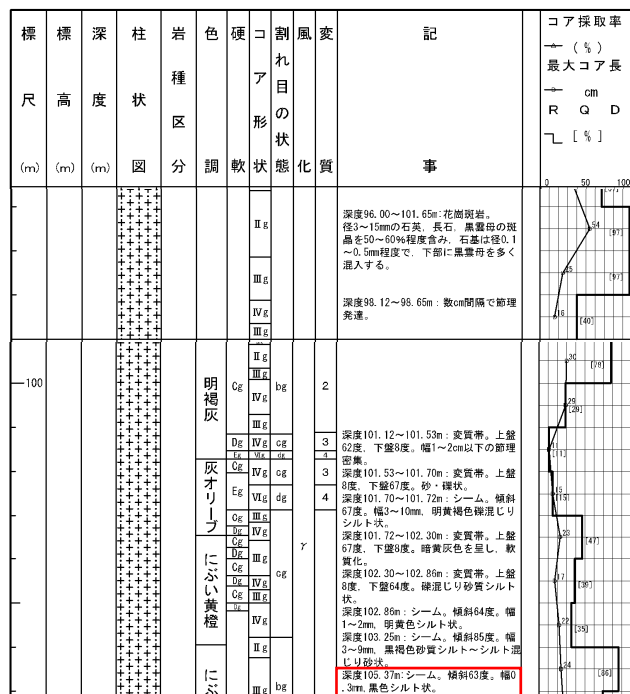
柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.6孔 深度105.37m)

・シルト状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)

審査資料案

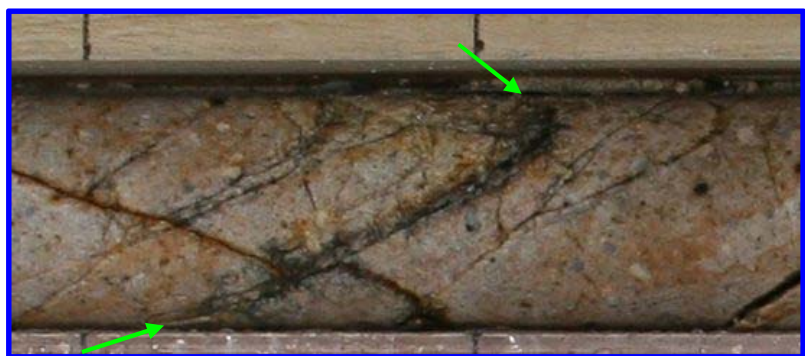
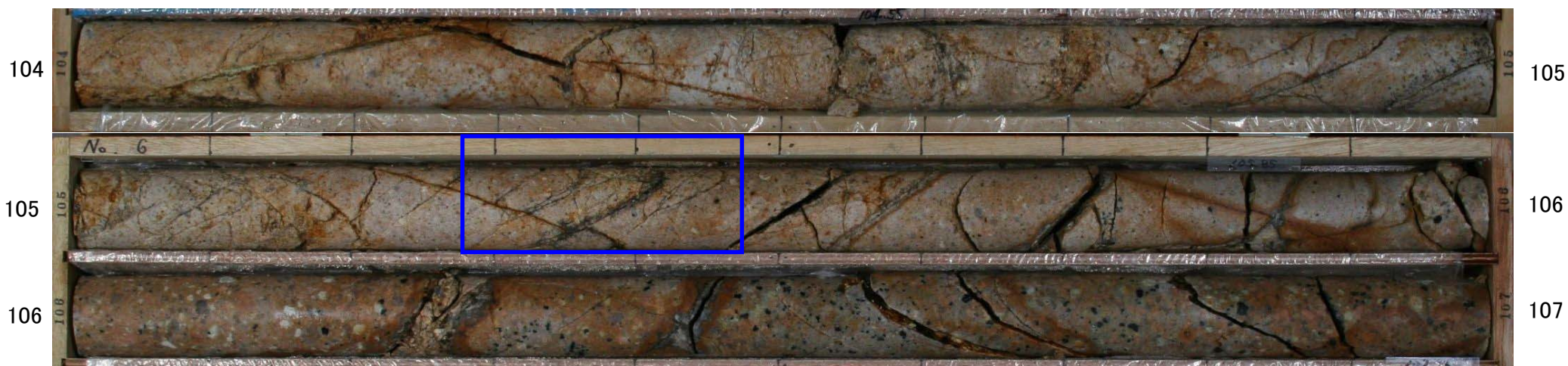
審査資料 (平成30年11月30日)



記事
101.12~105.37m
・変質している。
・シルト状を呈する。

記事
101.12~105.37m
・変質している。
・シルト状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度101.12~101.53m: 変質帯。上盤62度、下盤8度。幅1~2cm以下の節理密集。 深度101.53~101.70m: 変質帯。上盤8度、下盤67度。砂・礫状。 深度101.70~101.72m: シーム。傾斜67度。幅3~10mm。明黄褐色礫混じりシルト状。 深度101.72~102.30m: 変質帯。上盤67度、下盤8度。暗黄灰色を呈し、軟質化。 深度102.30~102.86m: 変質帯。上盤8度、下盤64度。礫混じり砂質シルト状。 深度102.86m: シーム。傾斜64度。幅1~2mm。明黄色シルト状。 深度103.25m: シーム。傾斜85度。幅3~9mm。黒褐色砂質シルト~シルト混じり砂状。 深度105.37m: シーム。傾斜63度。幅0.3mm。黒色シルト状。	101.12~105.37m ・変質している。 ・シルト状を呈する。	101.12~105.37m ・変質している。 ・シルト状を呈する。

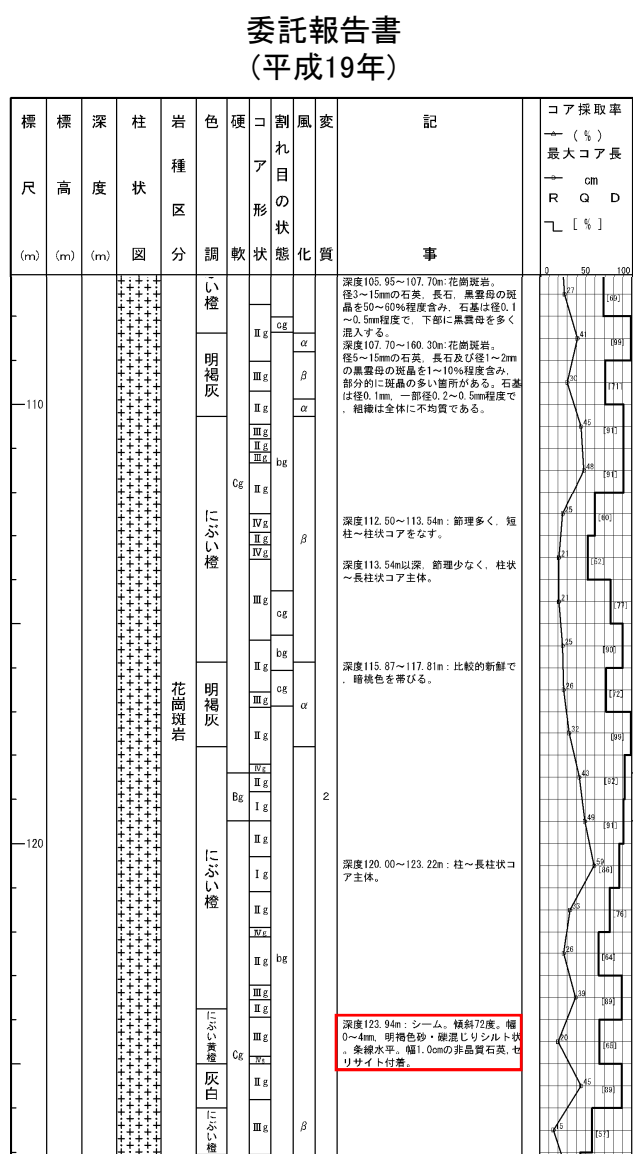


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.6孔 深度123.94m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記事
123.94m ・変質している。 ・明褐色砂・礫混じりシルト状を呈する。

審査資料
(平成30年11月30日)

記事
123.94m ・変質している。 ・明褐色砂・礫混じりシルト状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度123.94m: シーム。傾斜72度。幅0~4mm。明褐色砂・礫混じりシルト状。条線水平。幅1.0cmの非晶質石英・セリサイト付着。	123.94m ・変質している。 ・明褐色砂・礫混じりシルト状を呈する。	123.94m ・変質している。 ・明褐色砂・礫混じりシルト状を呈する。

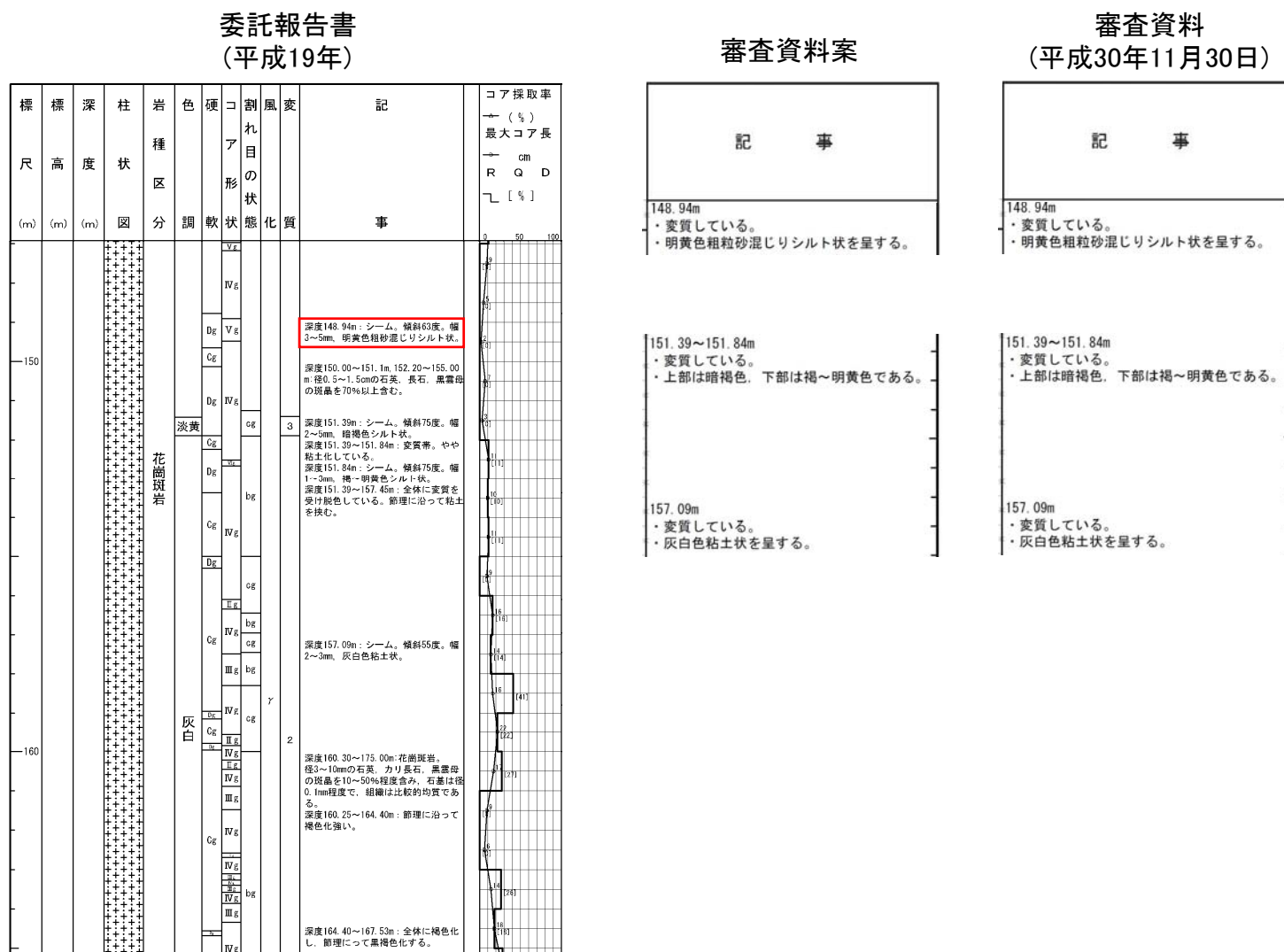


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.6孔 深度148.94m)

・シルト状を呈するがその分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度148.94m: シーム。傾斜63度。幅3~5mm。明黄色粗粒混じりシルト状。	148.94m ・変質している。 ・明黄色粗粒混じりシルト状を呈する。	148.94m ・変質している。 ・明黄色粗粒混じりシルト状を呈する。

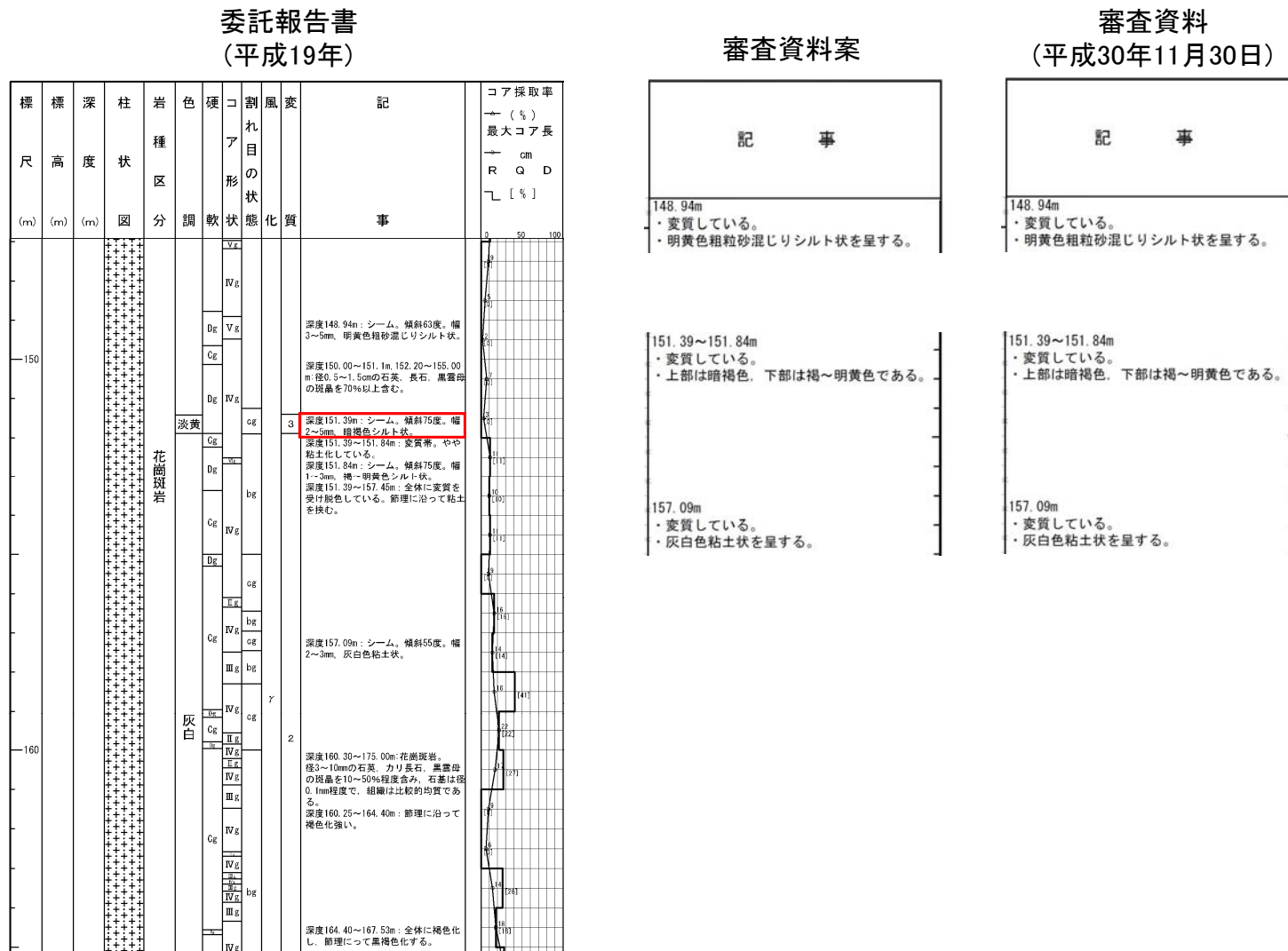


凡例
← : シーム

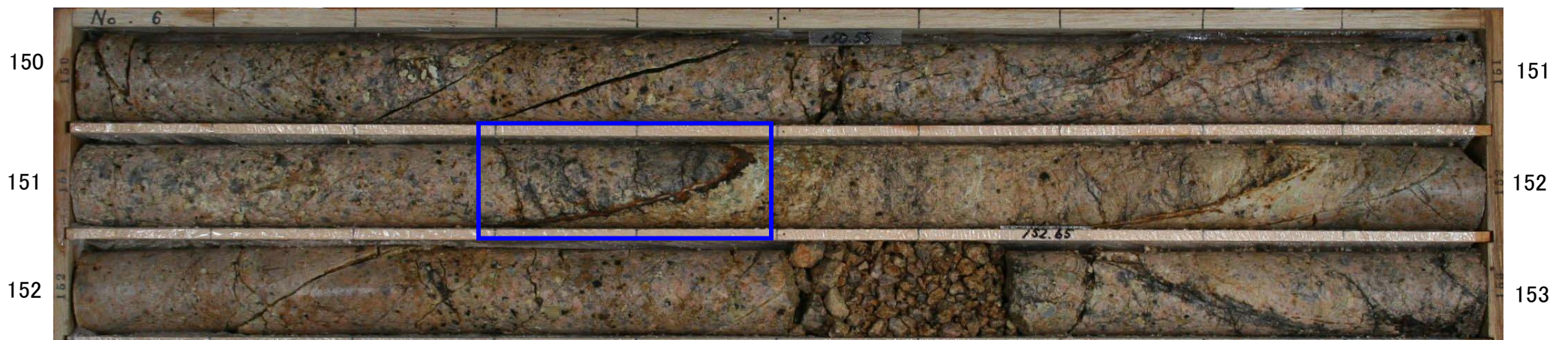
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.6孔 深度151.39m)

・シルト状を呈するがその分布は湾曲し直線性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度151.39m: シーム。傾斜75度。幅2~5mm。暗褐色シルト状。 深度151.39~151.84m: 変質帯。やや粘土化している。 深度151.84m: シーム。傾斜75度。幅1~3mm。褐~明黄色シルト状。	151.39~151.84m ・変質している。 ・上部は暗褐色、下部は褐~明黄色である。	151.39~151.84m ・変質している。 ・上部は暗褐色、下部は褐~明黄色である。

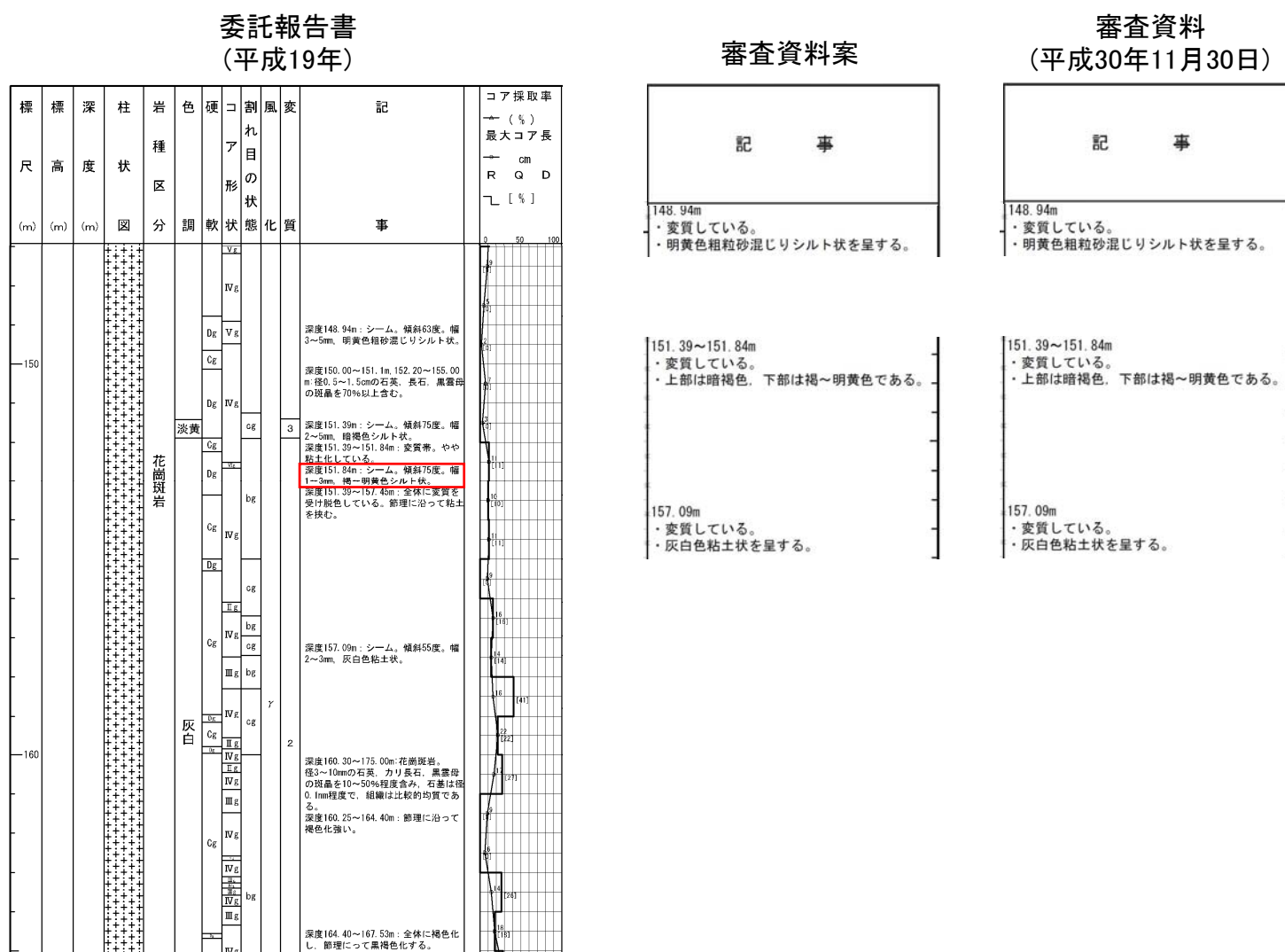


凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.6孔 深度151.84m)

・シルト状を呈するがその分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度151.39m: シーム。傾斜75度。幅2~5mm, 暗褐色シルト状。 深度151.39~151.84m: 変質帯。やや粘土化している。 深度151.84m: シーム。傾斜75度。幅1~3mm, 褐~明黄色シルト状。	151.39~151.84m ・変質している。 ・上部は暗褐色, 下部は褐~明黄色である。	151.39~151.84m ・変質している。 ・上部は暗褐色, 下部は褐~明黄色である。

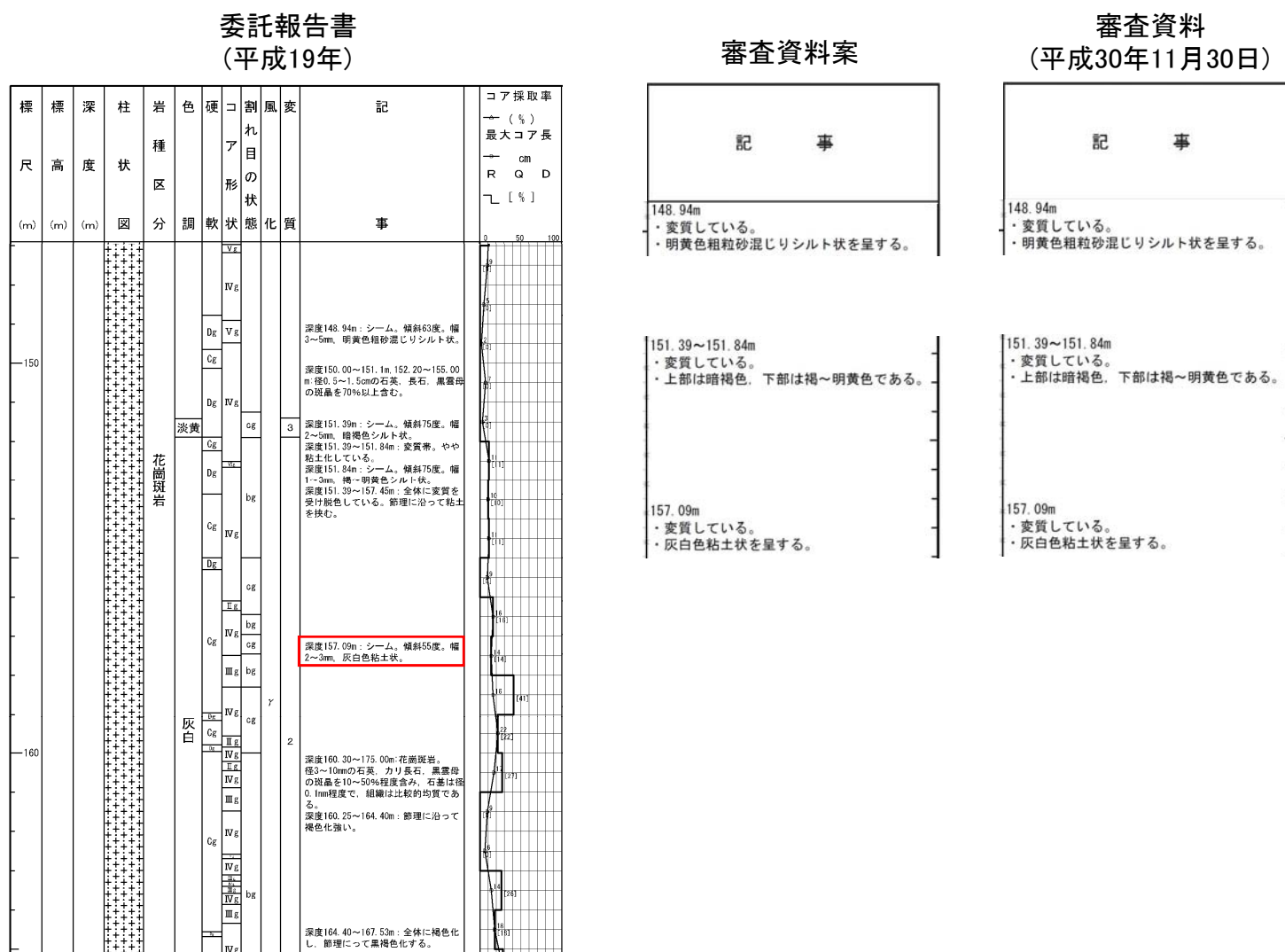


凡例
← : シーム

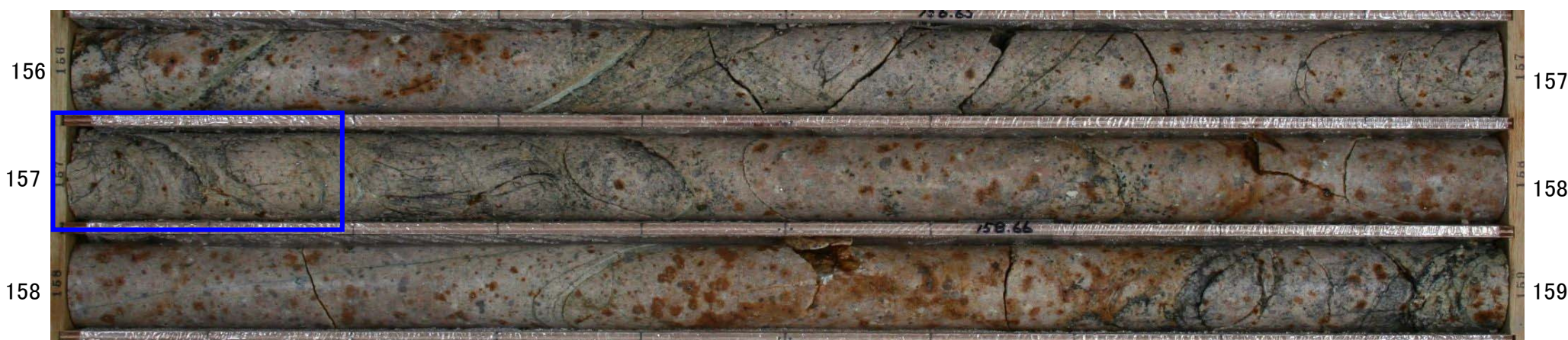
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.6孔 深度157.09m)

・粘土状を呈するがその分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度157.09m: シーム、傾斜55度、幅2~3mm、灰白色粘土状。	157.09m ・変質している。 ・灰白色粘土状を呈する。	157.09m ・変質している。 ・灰白色粘土状を呈する。



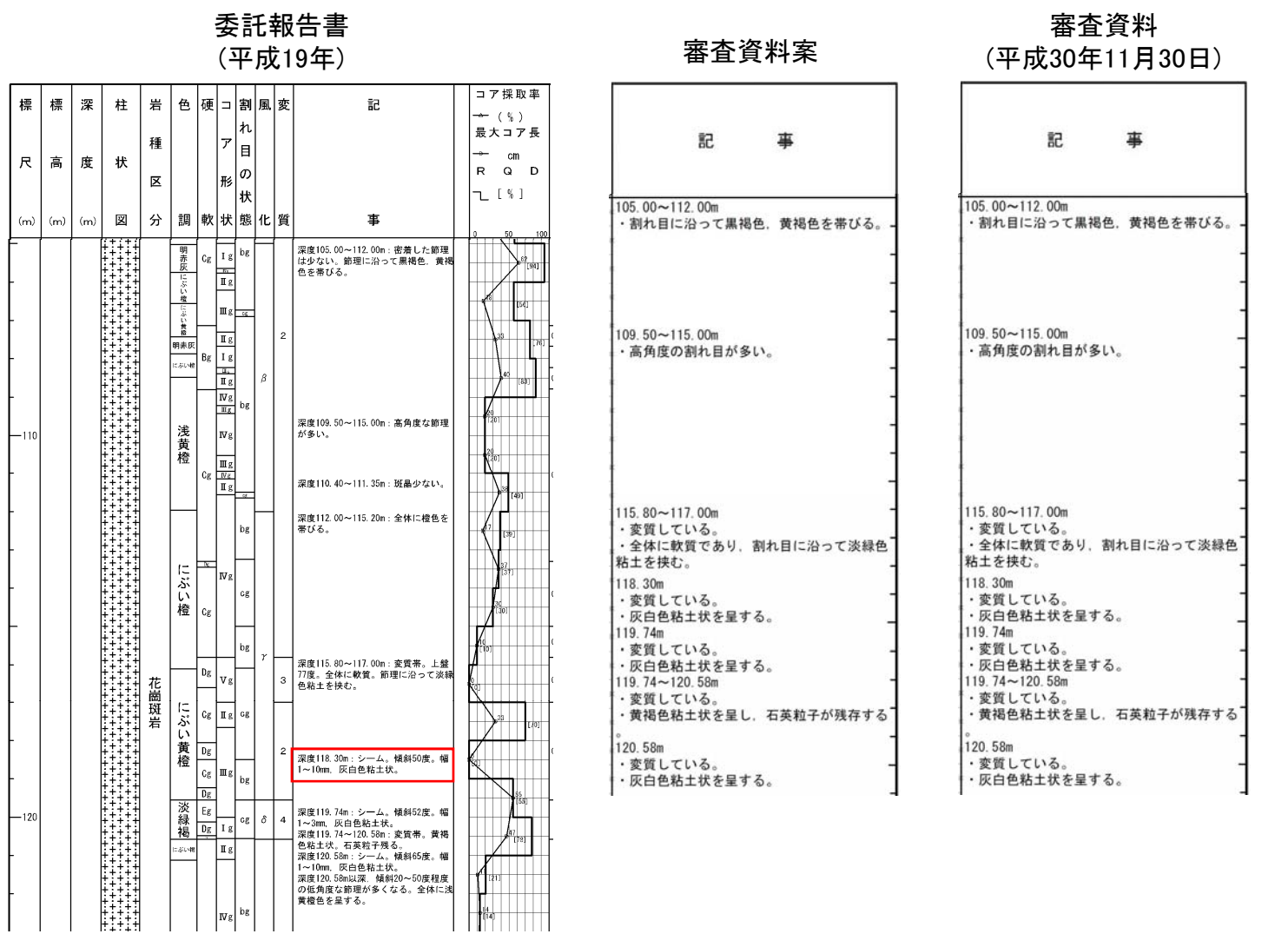
凡例

← : シーム

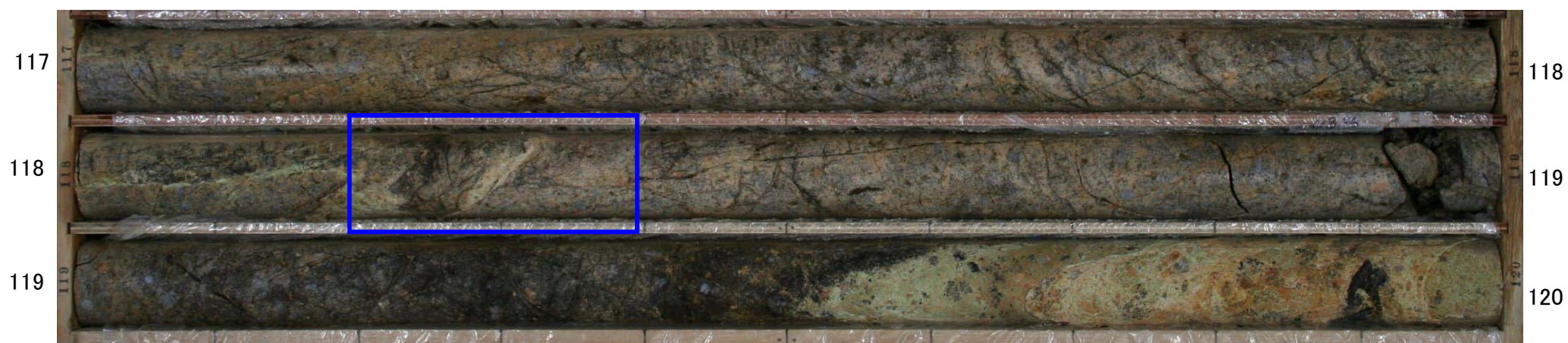
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.7孔 深度118.30m)

・粘土状を呈するがその分布は膨縮し連続性・直線性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
<p>深度118.30m: シーム。傾斜50度。幅1~10mm。灰白色粘土状。</p>	<p>118.30m ・変質している。 ・灰白色粘土状を呈する。</p>	<p>118.30m ・変質している。 ・灰白色粘土状を呈する。</p>

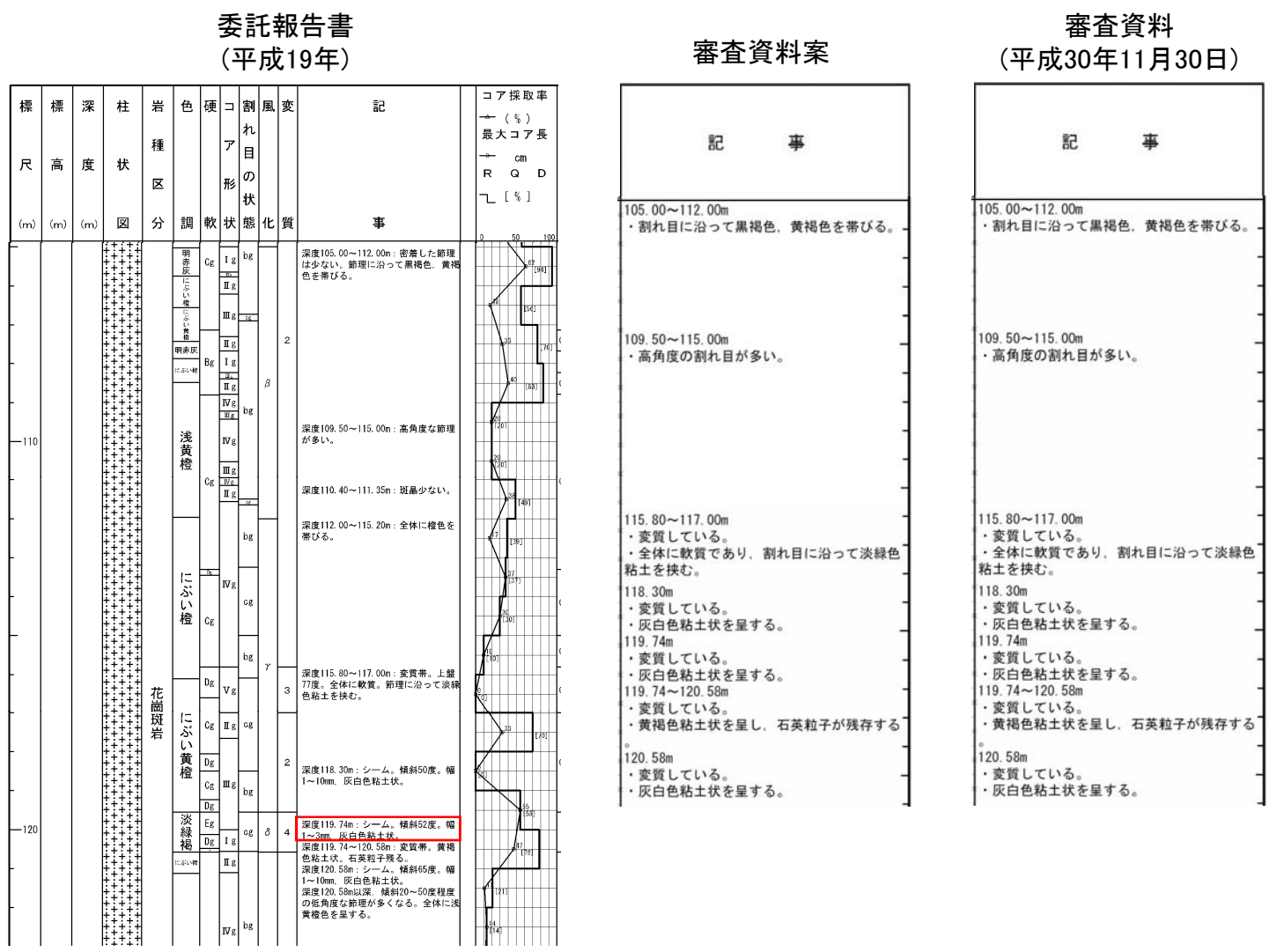


凡例
← :シーム

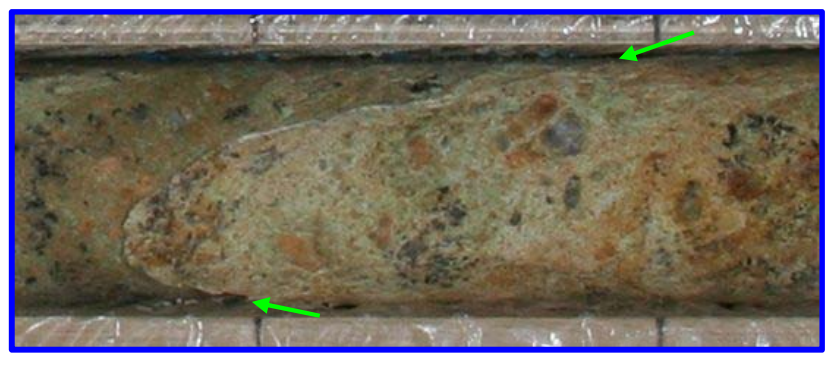
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.7孔 深度119.74m)

・粘土状を呈するがその分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度119.74m: シーム。傾斜52度。幅1~3mm。灰白色粘土状。	119.74m ・変質している。 ・灰白色粘土状を呈する。	119.74m ・変質している。 ・灰白色粘土状を呈する。

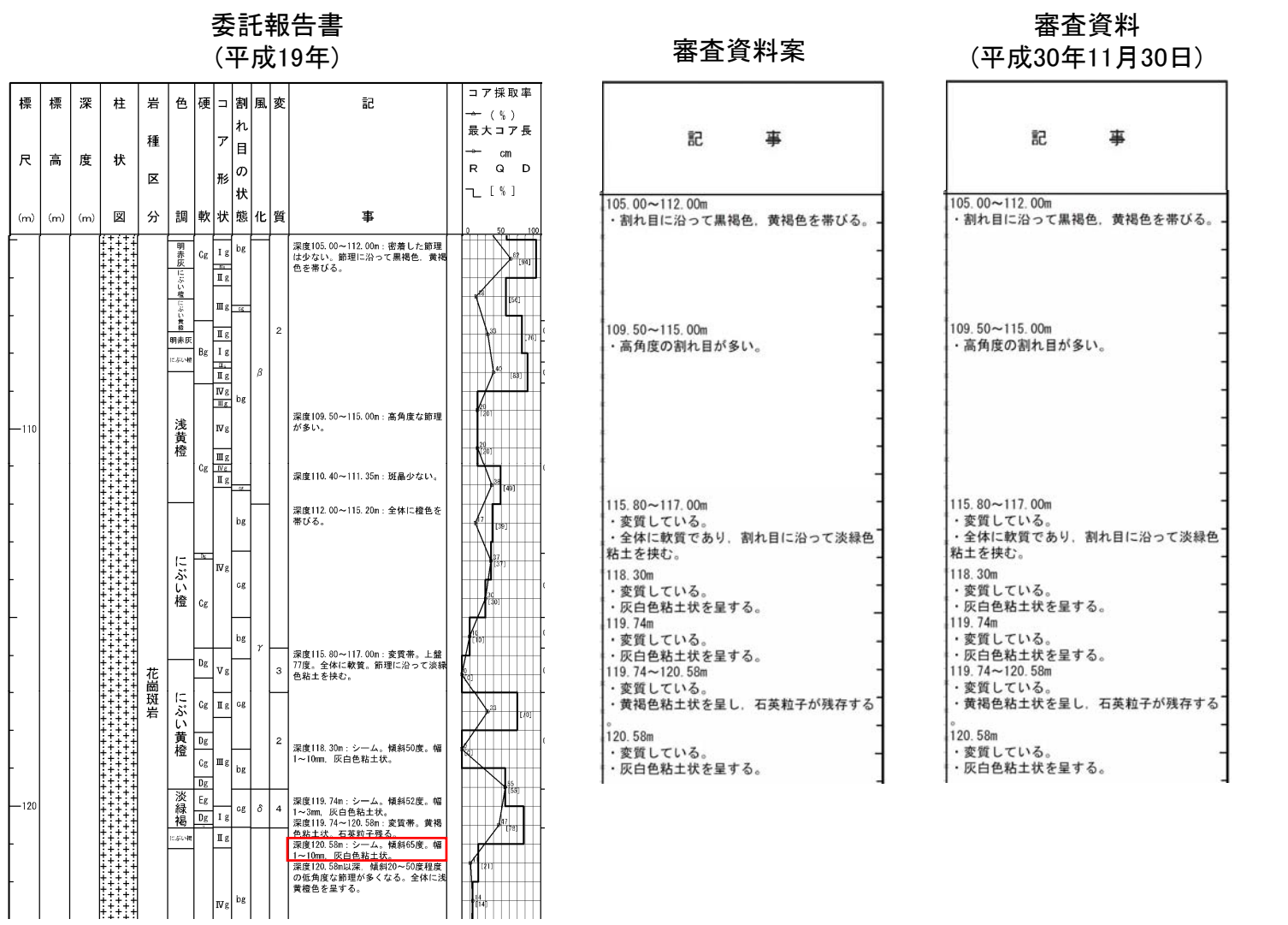


凡例
← : シーム

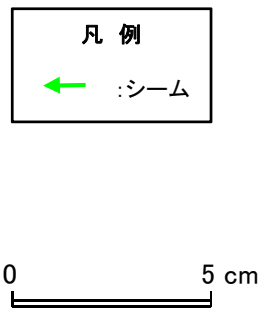
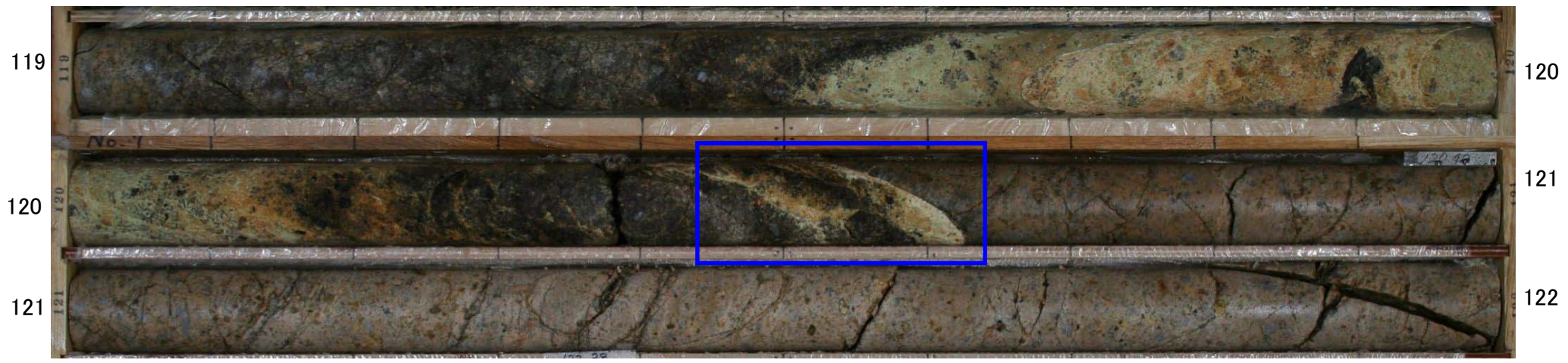
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.7孔 深度120.58m)

・粘土状部は割れ目に沿って網目状に分布しており、熱水変質作用によるものと考えられる120.49m付近の粘土状部と同様の分布形状を示すことから、破碎部ではないと判断した。

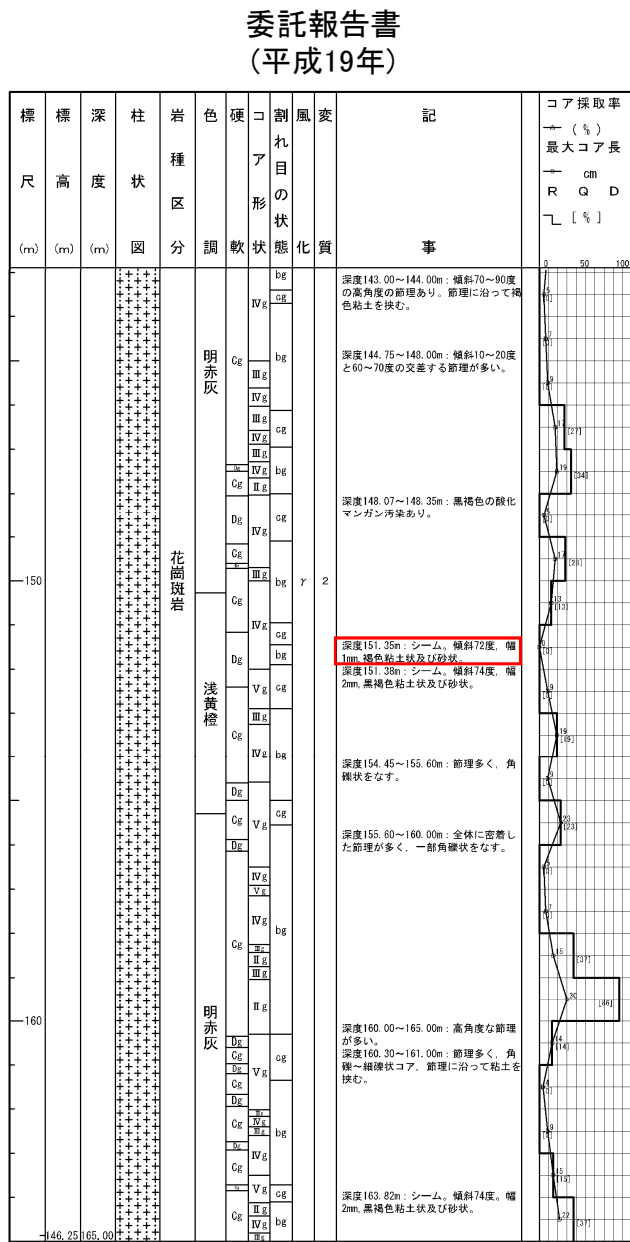


委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度120.58m: シーム。傾斜65度。幅1~10mm。灰白色粘土状。	120.58m ・変質している。 ・灰白色粘土状を呈する。	120.58m ・変質している。 ・灰白色粘土状を呈する。



柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.7孔 深度151.35m)

・2本の同系統の割れ目に挟まれた区間に礫混じり砂状部が分布していることから、破碎部として認定した。
直線的・連続的な粘土状部の分布が認められないことから、カタクレーサイトであると判断した(平成20年破碎部再観察結果)。



審査資料案	
記事	
143.00~144.00m	・高角度の割れ目によって褐色粘土を挟む。
148.07~148.35m	・黒褐色の酸化マンガン汚染がみられる。
●151.35~151.38m (f-8-11破碎帯)	<ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN15° E86° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。
154.45~155.60m	・割れ目が多く、角礫状を呈する。
155.60~160.00m	・全体に密着した割れ目が多く、一部角礫状を呈する。
163.82m	<ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・黒褐色粘土状及び砂状を呈する。

審査資料 (平成30年11月30日)	
記事	
143.00~144.00m	・高角度の割れ目によって褐色粘土を挟む。
148.07~148.35m	・黒褐色の酸化マンガン汚染がみられる。
●151.35~151.38m (f-8-11破碎帯)	<ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN15° E86° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。
154.45~155.60m	・割れ目が多く、角礫状を呈する。
155.60~160.00m	・全体に密着した割れ目が多く、一部角礫状を呈する。
163.82m	<ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・黒褐色粘土状及び砂状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度151.35m: シーム。傾斜72度。幅1mm褐色粘土状及び砂状。 深度151.38m: シーム。傾斜74度。幅2mm黒褐色粘土状及び砂状。	●151.35~151.38m (f-8-11破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN15° E86° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。	●151.35~151.38m (f-8-11破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN15° E86° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。

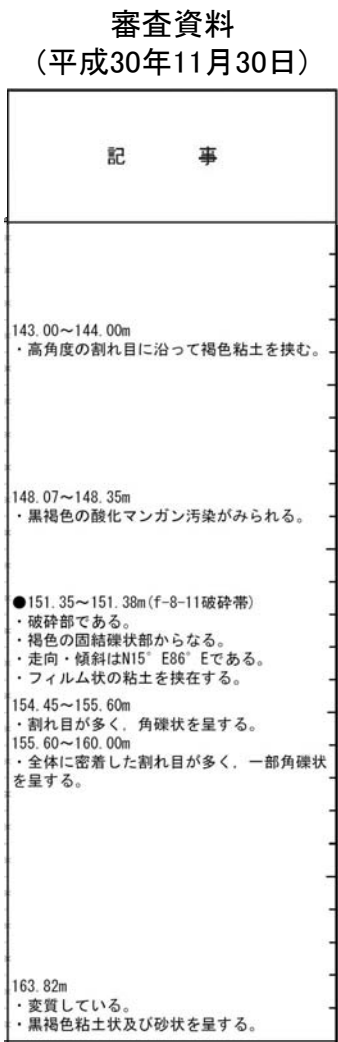
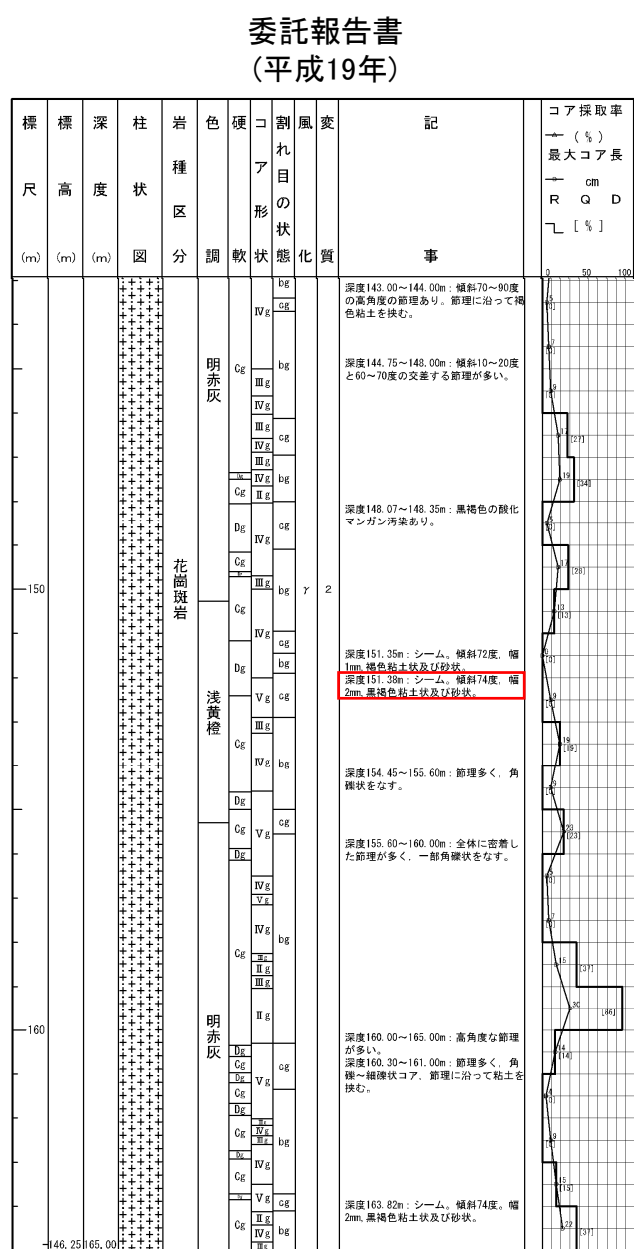


凡例
← : シーム

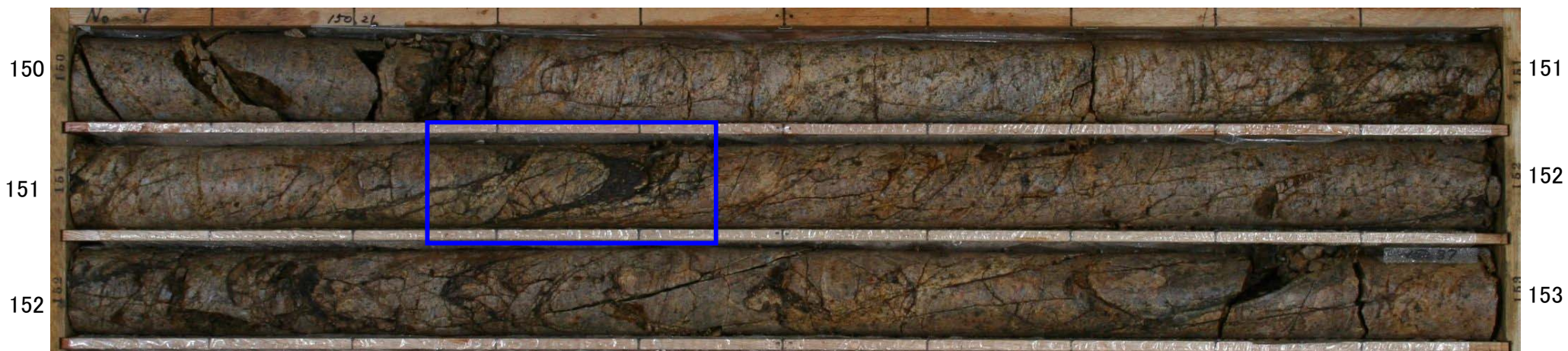
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.7孔 深度151.38m)

・2本の同系統の割れ目に挟まれた区間に礫混じり砂状部が分布していることから、破碎部として認定した。
直線的・連続的な粘土状部の分布が認められないことから、カタクレーサイトであると判断した(平成20年破碎部再観察結果)。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度151.35m: シーム、傾斜72度、幅1mm、褐色粘土状及び砂状。 深度151.38m: シーム、傾斜74度、幅2mm、黒褐色粘土状及び砂状。	●151.35~151.38m (f-8-11破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN15° E86° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。	●151.35~151.38m (f-8-11破碎帯) ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN15° E86° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。



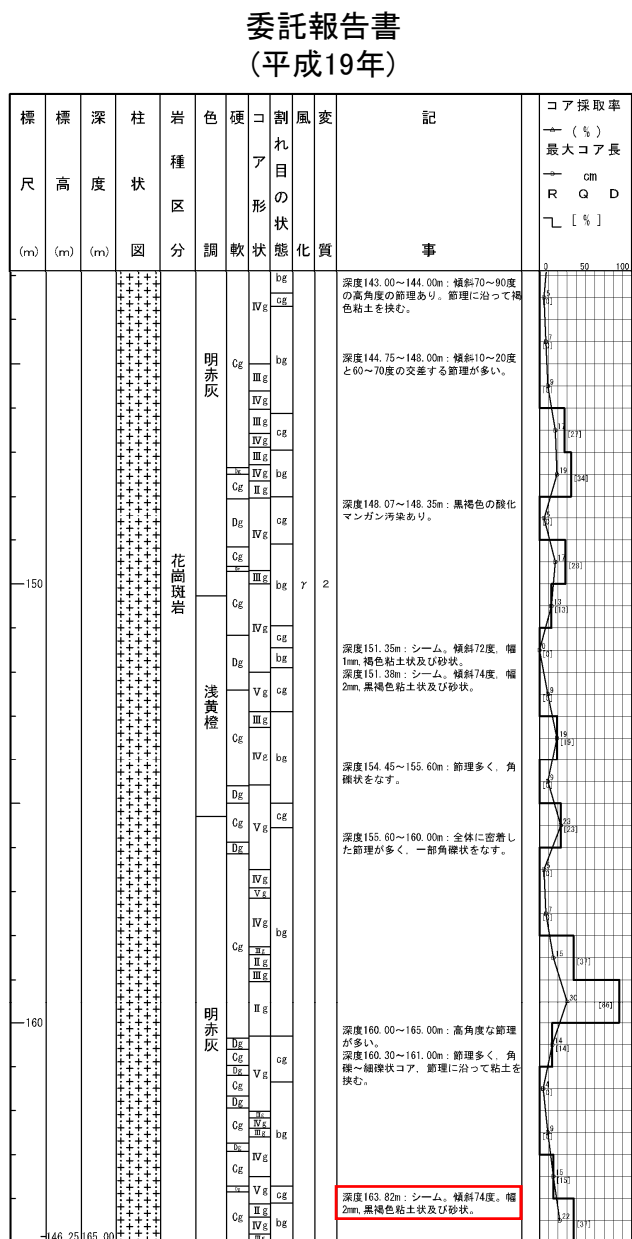
凡 例

← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.7孔 深度163.82m)

・粘土状及び砂状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案	
記 事	
143.00~144.00m	・高角度の割れ目に沿って褐色粘土を挟む。
148.07~148.35m	・黒褐色の酸化マンガン汚染がみられる。
●151.35~151.38m (f-8-11 破碎帯)	<ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN15° E86° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟む。
154.45~155.60m	・割れ目が多く、角礫状を呈する。
155.60~160.00m	・全体に密着した割れ目が多く、一部角礫状を呈する。
163.82m	<ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・黒褐色粘土状及び砂状を呈する。

審査資料 (平成30年11月30日)	
記 事	
143.00~144.00m	・高角度の割れ目に沿って褐色粘土を挟む。
148.07~148.35m	・黒褐色の酸化マンガン汚染がみられる。
●151.35~151.38m (f-8-11 破碎帯)	<ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・褐色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN15° E86° Eである。 ・フィルム状の粘土を挟む。
154.45~155.60m	・割れ目が多く、角礫状を呈する。
155.60~160.00m	・全体に密着した割れ目が多く、一部角礫状を呈する。
163.82m	<ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・黒褐色粘土状及び砂状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度163.82m: シーム、傾斜74度、幅2mm、黒褐色粘土状及び砂状。	163.82m ・変質している。 ・黒褐色粘土状及び砂状を呈する。	163.82m ・変質している。 ・黒褐色粘土状及び砂状を呈する。

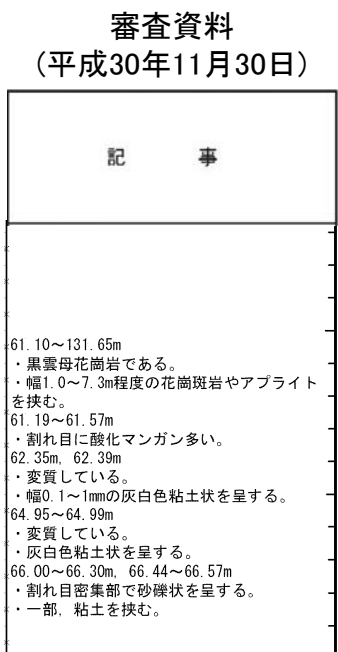
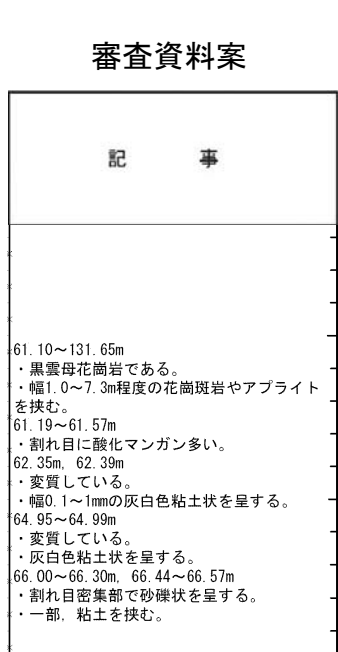
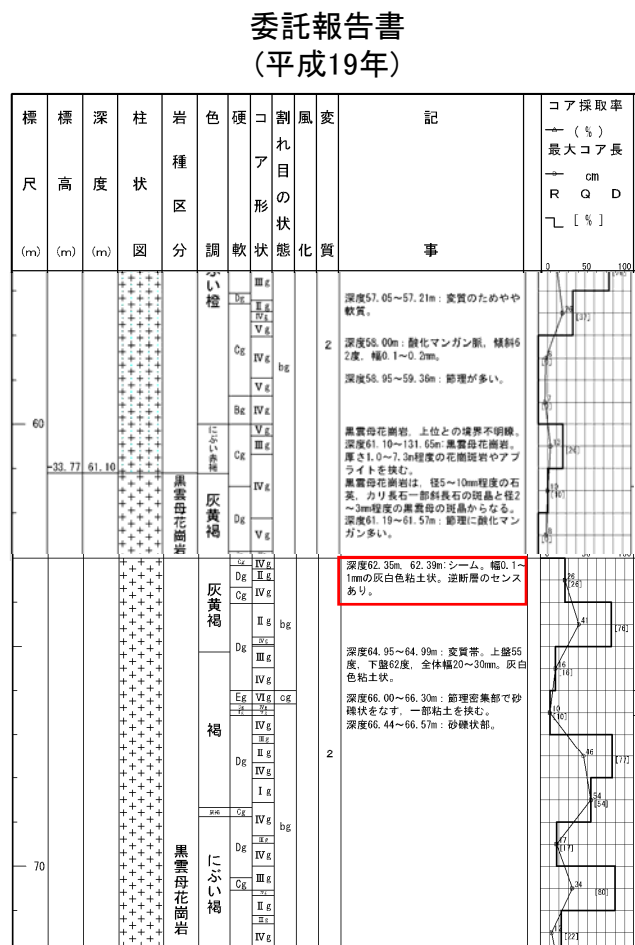


凡 例
← : シーム

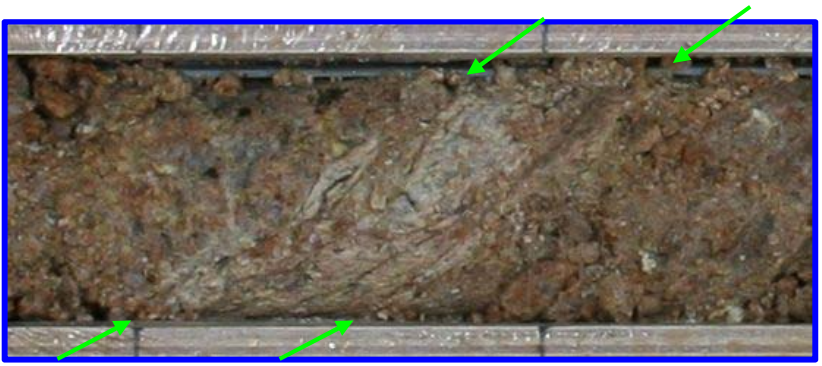
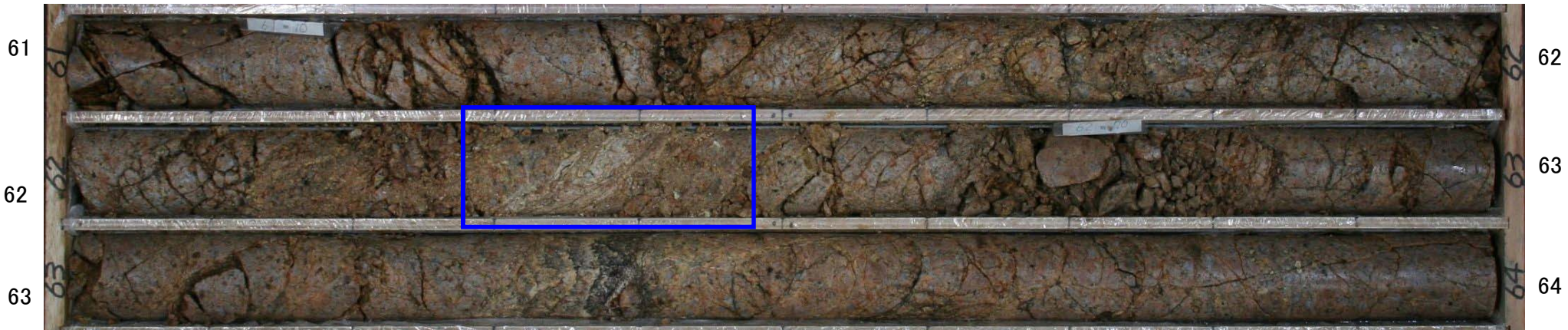
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.8孔 深度62.35m, 62.39m)

・粘土状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度62.35m, 62.39m: シーム。幅0.1~1mmの灰白色粘土状。逆断層のセンスあり。	62.35m, 62.39m ・変質している。 ・幅0.1~1mmの灰白色粘土状を呈する。	62.35m, 62.39m ・変質している。 ・幅0.1~1mmの灰白色粘土状を呈する。



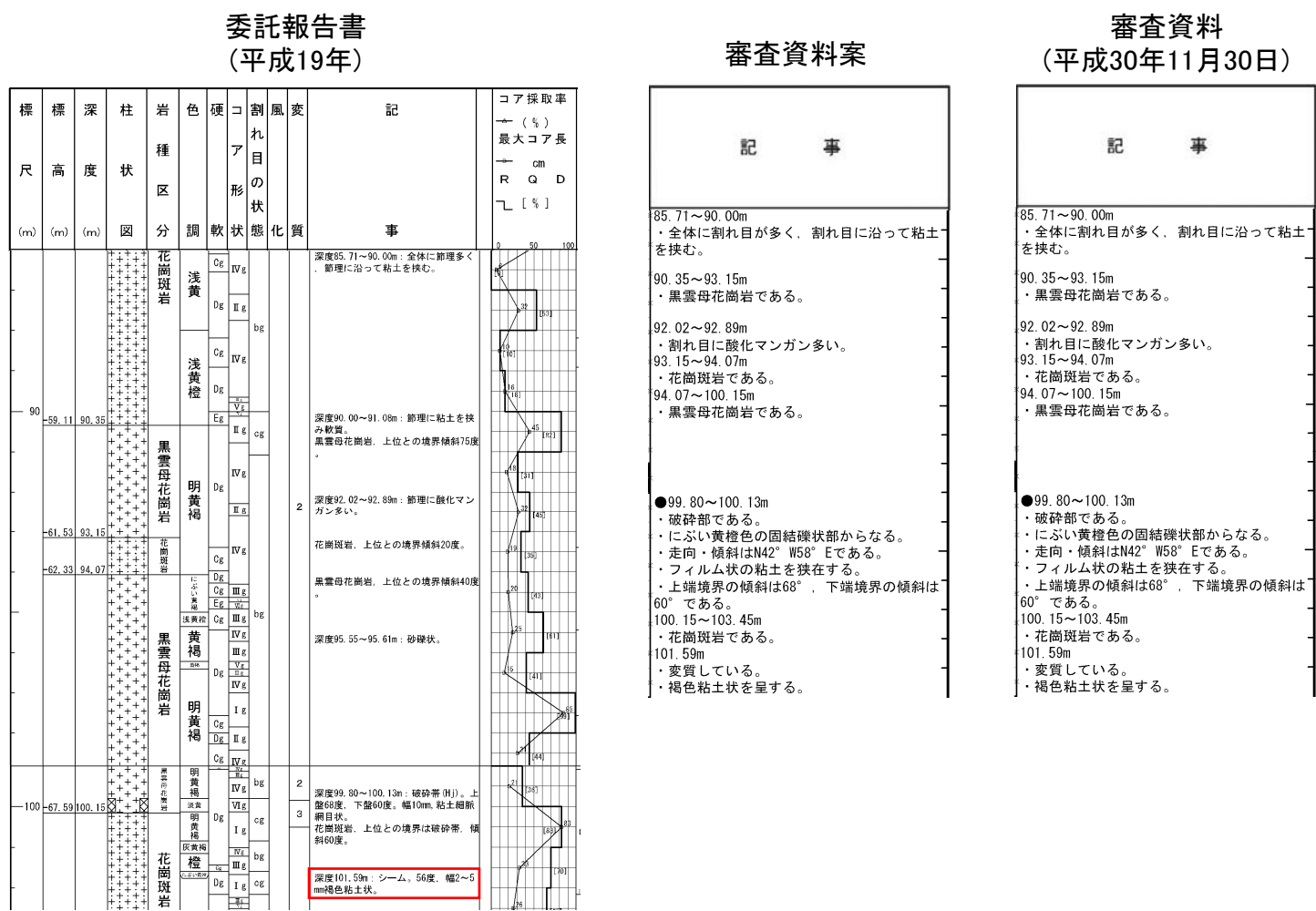
凡例

← : シーム

0 ─────────── 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.8孔 深度101.59m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度101.59m: シーム。56度。幅2~5mm褐色粘土状。	101.59m ・変質している。 ・褐色粘土状を呈する。	101.59m ・変質している。 ・褐色粘土状を呈する。

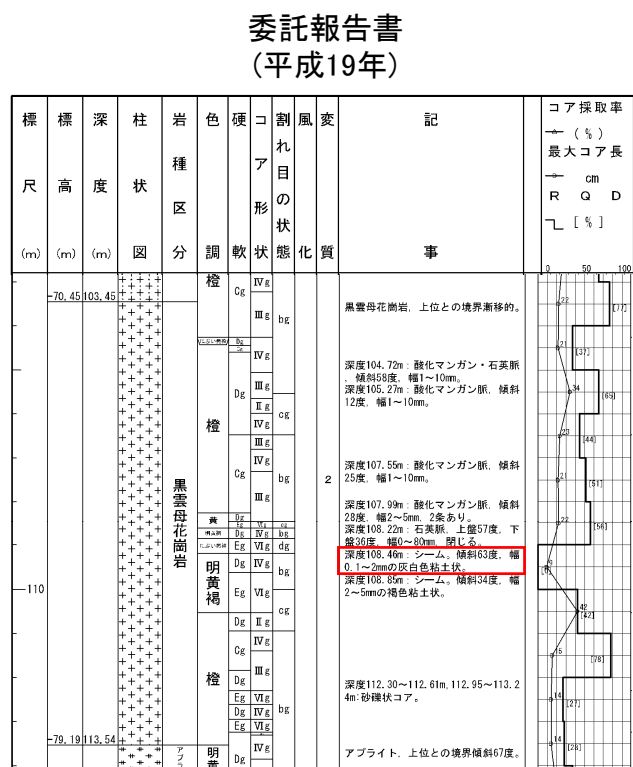


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.8孔 深度108.46m)

・粘土状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



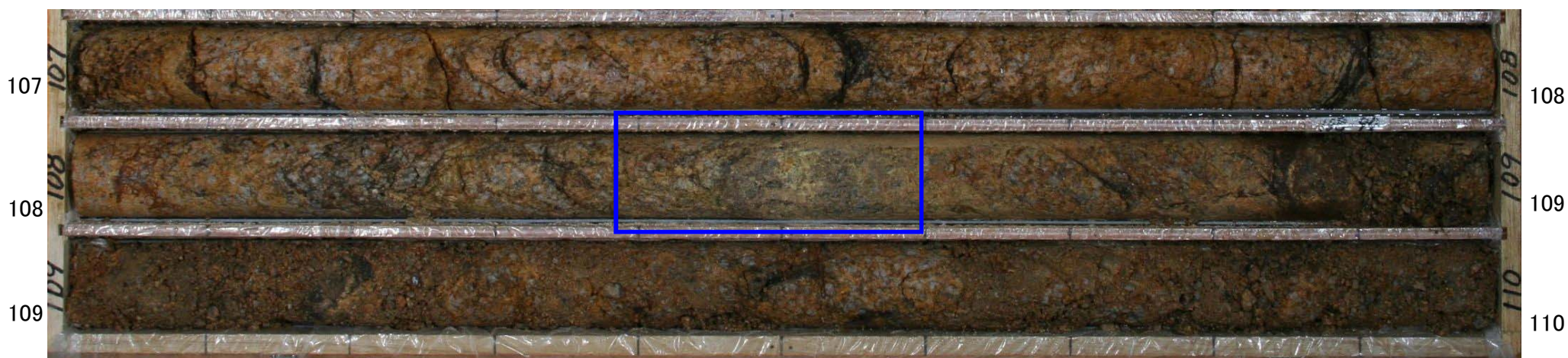
審査資料案

記事
103.45~113.54m ・黒雲母花崗岩である。
112.30~112.61m, 112.95~113.24m ・砂礫状を呈する。 113.54~114.47m ・アブライトである。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
103.45~113.54m ・黒雲母花崗岩である。
112.30~112.61m, 112.95~113.24m ・砂礫状を呈する。 113.54~114.47m ・アブライトである。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度108.46m: シーム。傾斜63度、幅0.1~2mmの灰白色粘土状。	記載なし	記載なし

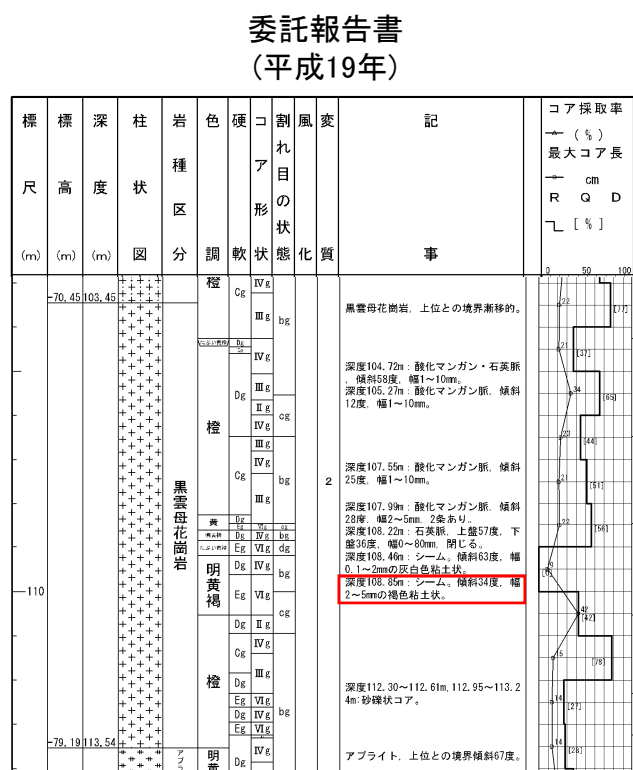


凡例
← シーム

0 5 cm

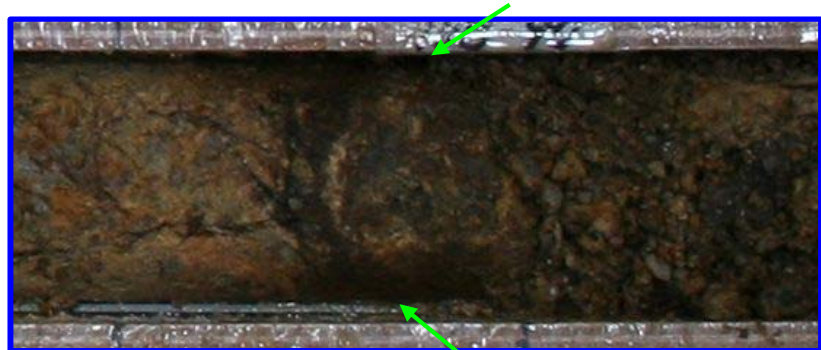
柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.8孔 深度108.85m)

・粘土状を呈するがその分布は湾曲し直線性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
<p>103.45~113.54m ・黒雲母花崗岩である。</p> <p>112.30~112.61m, 112.95~113.24m ・砂礫状を呈する。 113.54~114.47m ・アブライトである。</p>	<p>103.45~113.54m ・黒雲母花崗岩である。</p> <p>112.30~112.61m, 112.95~113.24m ・砂礫状を呈する。 113.54~114.47m ・アブライトである。</p>

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度108.85m: シーム。傾斜34度。幅2~5mmの褐色粘土状。	記載なし	記載なし



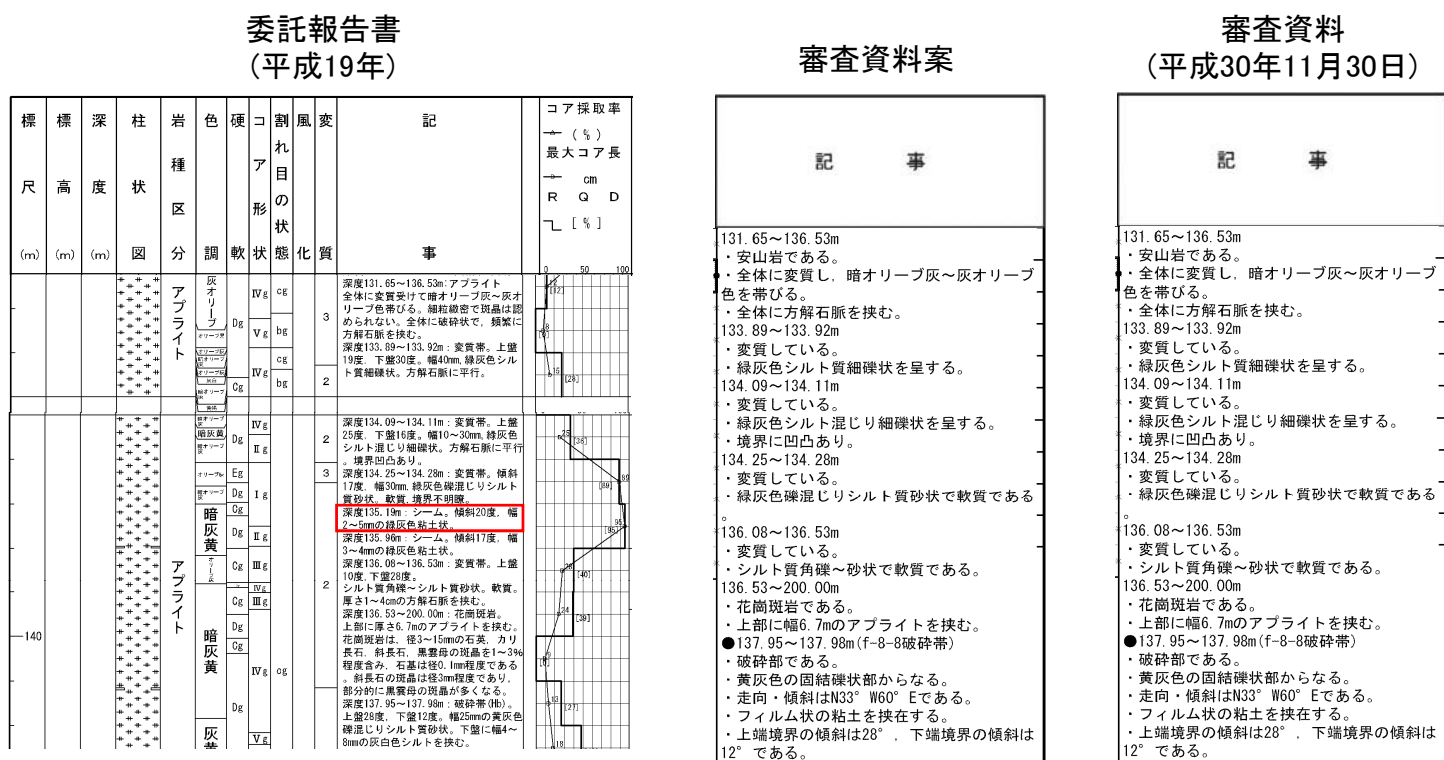
凡例

← : シーム

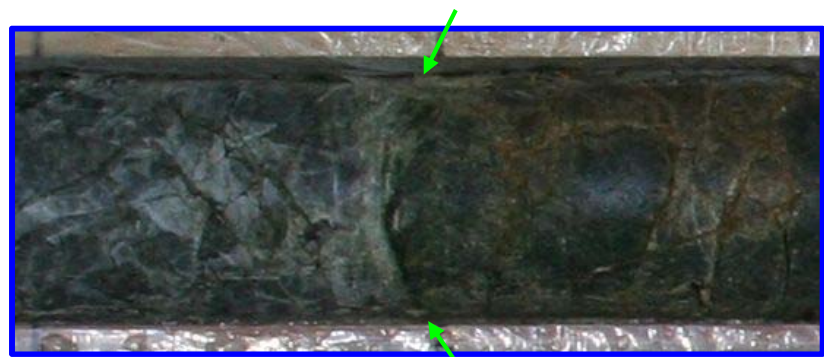
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.8孔 深度135.19m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度135.19m: シーム。傾斜20度。幅2~5mmの緑灰色粘土状。	記載なし	記載なし

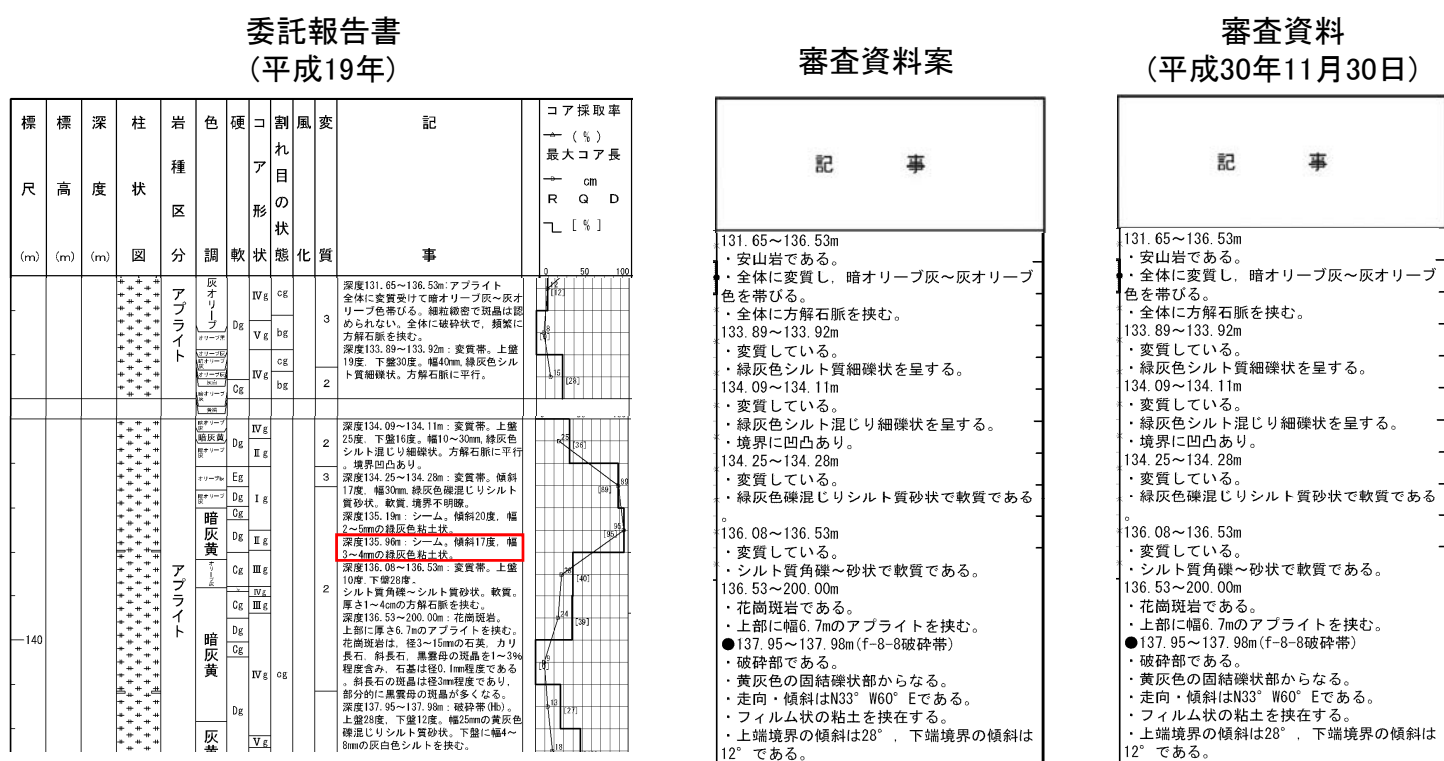


凡例
← : シーム

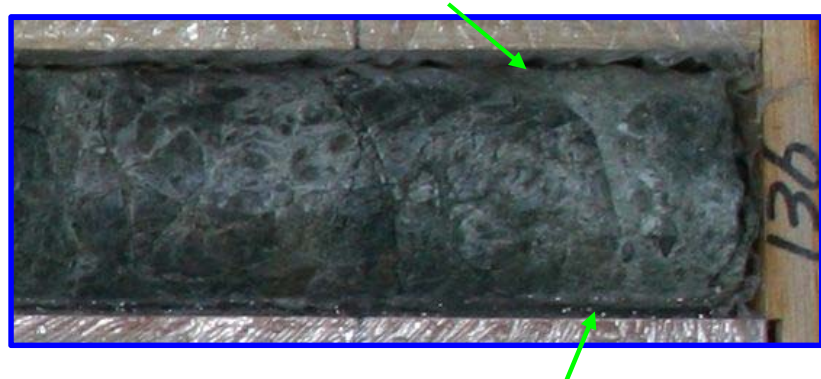
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.8孔 深度135.96m)

・粘土状を呈するがその分布は膨縮し直線性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
<p>深度135.96m: シーム。傾斜17度、幅3~4mmの緑灰色粘土状。</p>	<p>記載なし</p>	<p>記載なし</p>



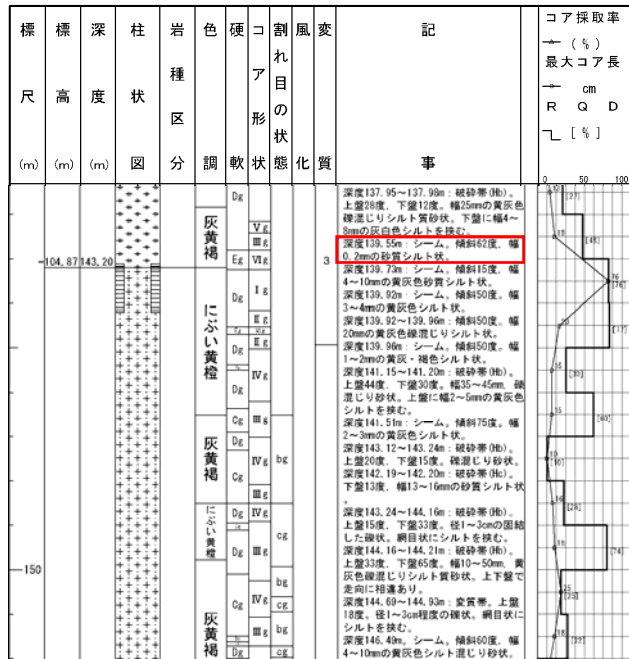
凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.8孔 深度139.55m)

・シルト状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)



審査資料案

記事
<ul style="list-style-type: none"> ●141.15~141.20m <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・暗灰黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN76° E26° Sである。 ・上端境界の傾斜は44°、下端境界の傾斜は30°である。 ●143.12~144.21m(D-34破碎帯) <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・主ににぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・黄灰色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN39° W64° Eである。 ・下端境界の傾斜は13°である。

審査資料

(平成30年11月30日)

記事
<ul style="list-style-type: none"> ●141.15~141.20m <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・暗灰黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN76° E26° Sである。 ・上端境界の傾斜は44°、下端境界の傾斜は30°である。 ●143.12~144.21m(D-34破碎帯) <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・主ににぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・黄灰色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN39° W64° Eである。 ・下端境界の傾斜は13°である。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度139.55m:シーム。傾斜62度、幅0.2mmの砂質シルト状。	記載なし	記載なし

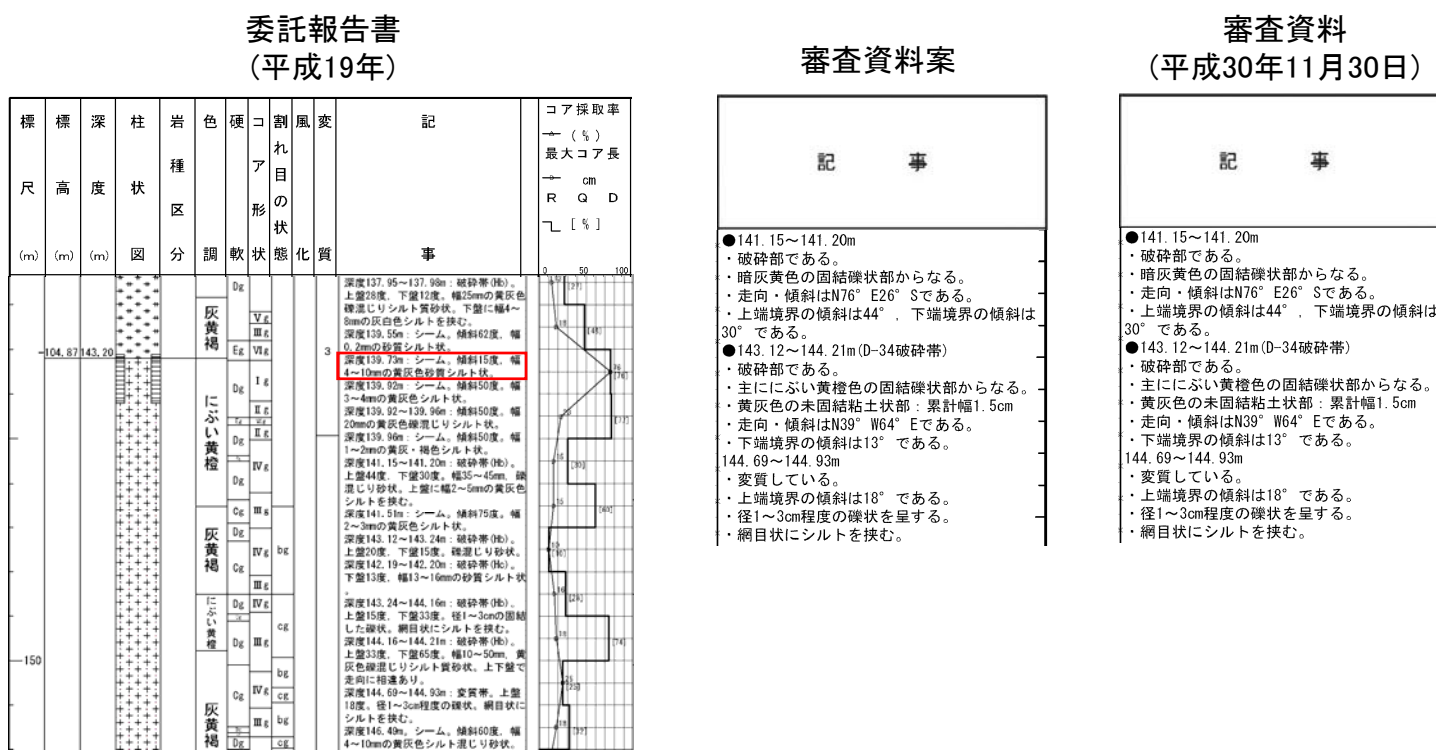


凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.8孔 深度139.73m)

・シルト状を呈するがその分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度139.73m: シーム。傾斜15度。幅4~10mmの黄灰色砂質シルト状。	記載なし	記載なし

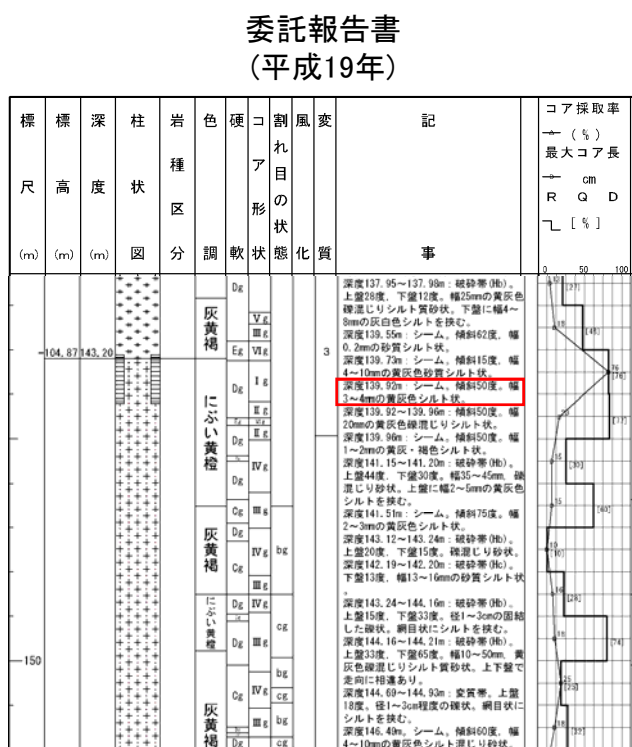


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.8孔 深度139.92m)

・シルト状を呈するがその分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記 事

- 141.15~141.20m
 - ・破碎部である。
 - ・暗灰黄色の固結礫状部からなる。
 - ・走向・傾斜はN76° E26° Sである。
 - ・上端境界の傾斜は44°、下端境界の傾斜は30°である。
- 143.12~144.21m(D-34破碎帯)
 - ・破碎部である。
 - ・主ににぶい黄褐色の固結礫状部からなる。
 - ・黄灰色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm
 - ・走向・傾斜はN39° W64° Eである。
 - ・下端境界の傾斜は13°である。
- 144.69~144.93m
 - ・変質している。
 - ・上端境界の傾斜は18°である。
 - ・径1~3cm程度の礫状を呈する。
 - ・網目状にシルトを挟む。

**審査資料
(平成30年11月30日)**

記 事

- 141.15~141.20m
 - ・破碎部である。
 - ・暗灰黄色の固結礫状部からなる。
 - ・走向・傾斜はN76° E26° Sである。
 - ・上端境界の傾斜は44°、下端境界の傾斜は30°である。
- 143.12~144.21m(D-34破碎帯)
 - ・破碎部である。
 - ・主ににぶい黄褐色の固結礫状部からなる。
 - ・黄灰色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm
 - ・走向・傾斜はN39° W64° Eである。
 - ・下端境界の傾斜は13°である。
- 144.69~144.93m
 - ・変質している。
 - ・上端境界の傾斜は18°である。
 - ・径1~3cm程度の礫状を呈する。
 - ・網目状にシルトを挟む。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度139.92m: シーム。傾斜50度。幅3~4mmの黄灰色シルト状。	記載なし	記載なし



凡 例

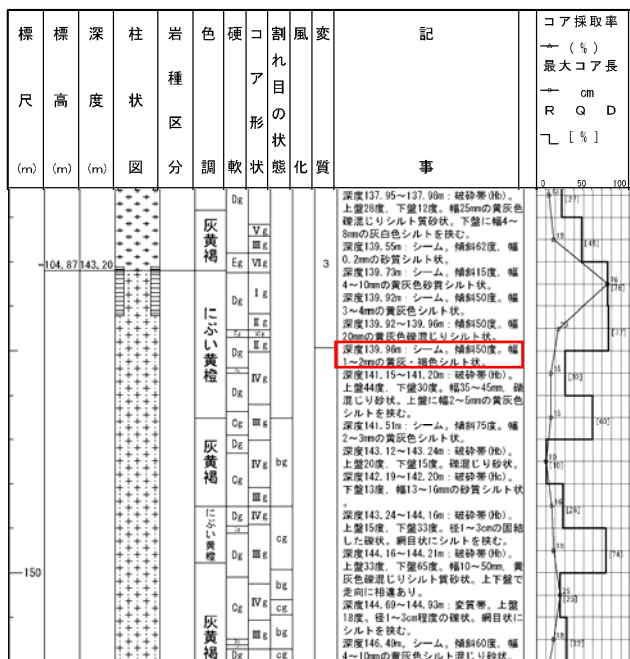
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.8孔 深度139.96m)

・シルト状を呈するがその分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)



審査資料案

記事
<ul style="list-style-type: none"> ●141.15~141.20m <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・暗灰黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN76° E26° Sである。 ・上端境界の傾斜は44°、下端境界の傾斜は30°である。 ●143.12~144.21m(D-34破碎帯) <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・主ににぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・黄灰色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN39° W64° Eである。 ・下端境界の傾斜は13°である。 144.69~144.93m <ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・上端境界の傾斜は18°である。 ・径1~3cm程度の礫状を呈する。 ・網目状にシルトを挟む。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
<ul style="list-style-type: none"> ●141.15~141.20m <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・暗灰黄色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN76° E26° Sである。 ・上端境界の傾斜は44°、下端境界の傾斜は30°である。 ●143.12~144.21m(D-34破碎帯) <ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・主ににぶい黄褐色の固結礫状部からなる。 ・黄灰色の未固結粘土状部：累計幅1.5cm ・走向・傾斜はN39° W64° Eである。 ・下端境界の傾斜は13°である。 144.69~144.93m <ul style="list-style-type: none"> ・変質している。 ・上端境界の傾斜は18°である。 ・径1~3cm程度の礫状を呈する。 ・網目状にシルトを挟む。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度139.96m:シーム。傾斜50度。幅1~2mmの黄灰・褐色シルト状。	記載なし	記載なし

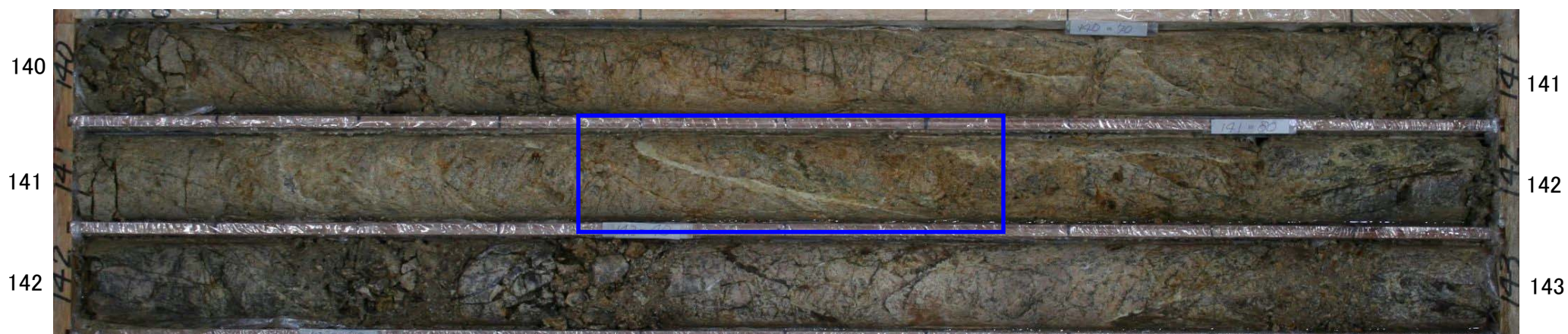
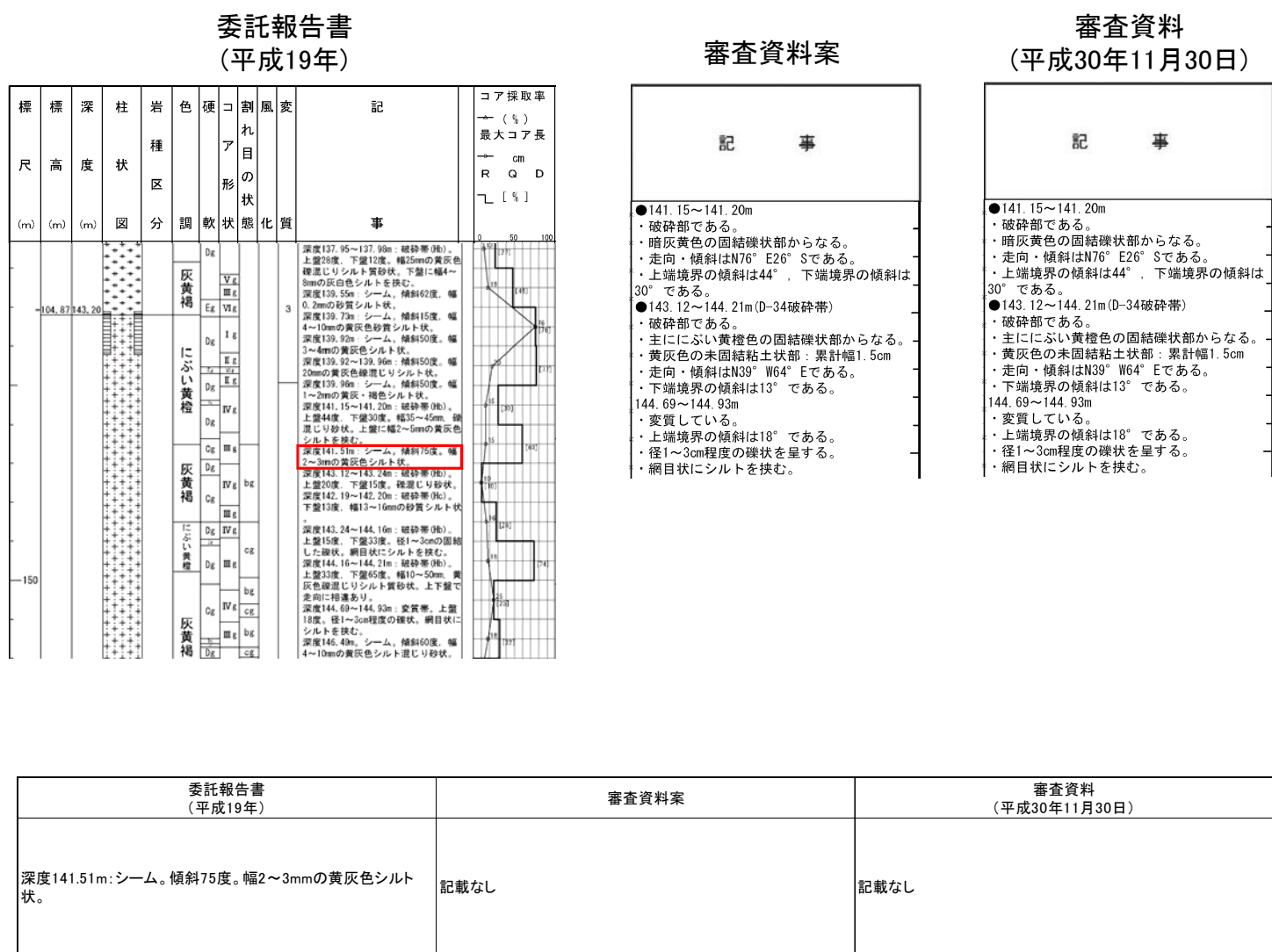


凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.8孔 深度141.51m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

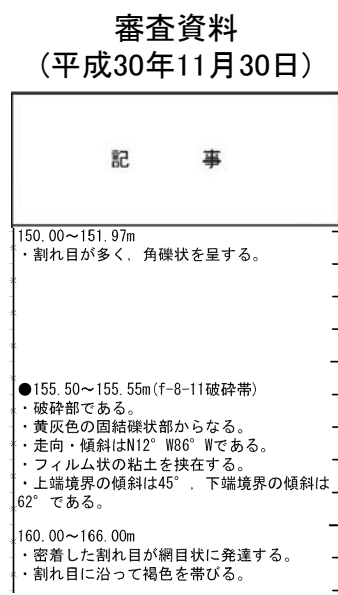
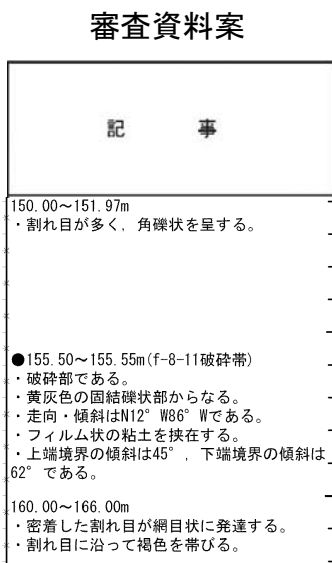
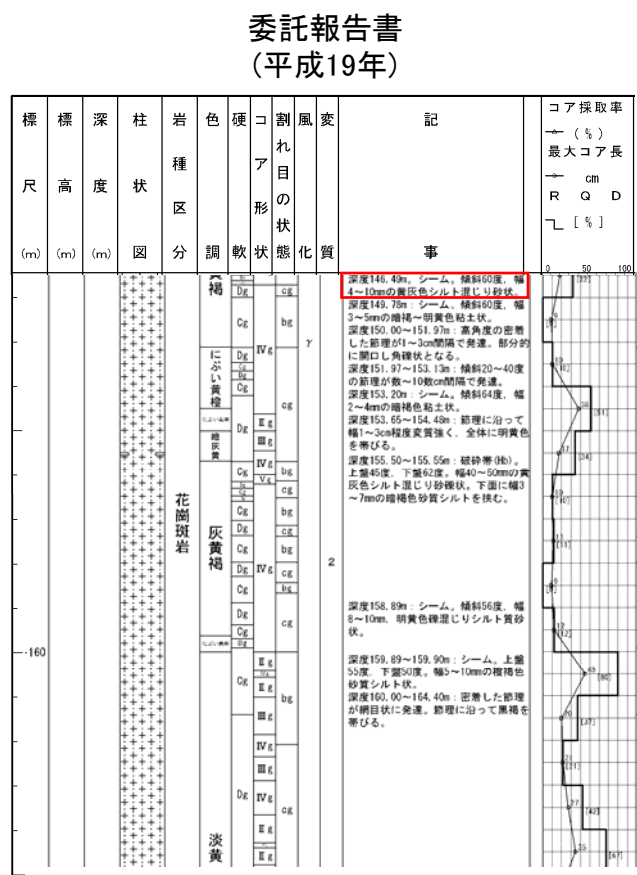


凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.8孔 深度146.49m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度146.49m。シーム。傾斜60度。幅4~10mmの黄灰色シルト混じり砂状。	記載なし	記載なし



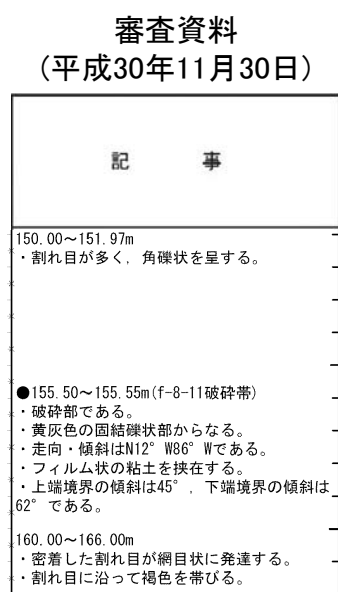
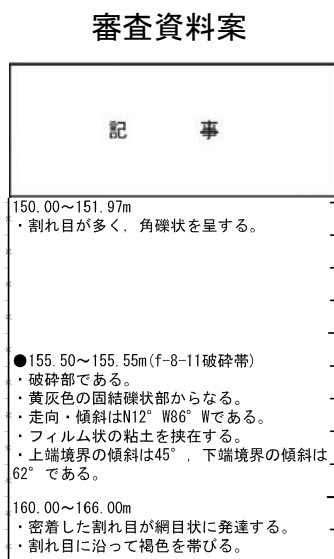
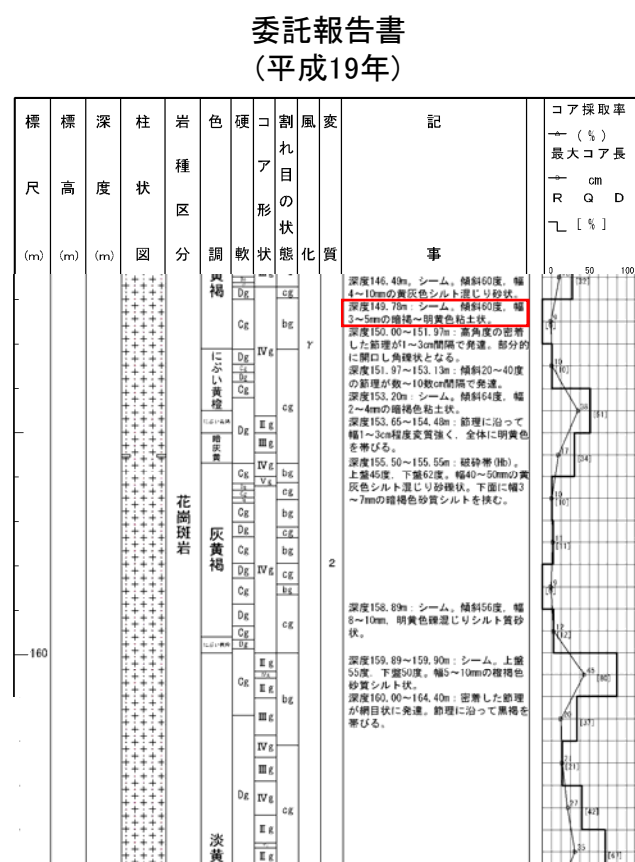
凡例

← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.8孔 深度149.78m)

・粘土状を呈するがその分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度149.78m: シーム。傾斜60度、幅3~5mmの暗褐~明黄色粘土状。	記載なし	記載なし

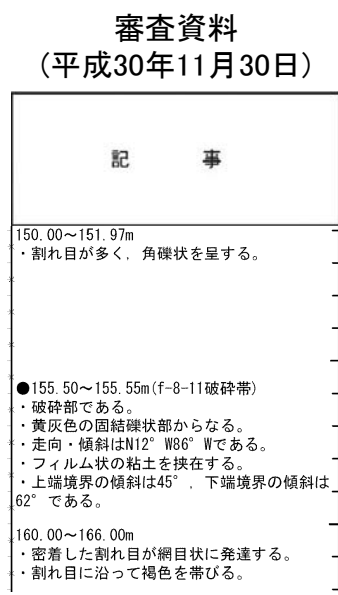
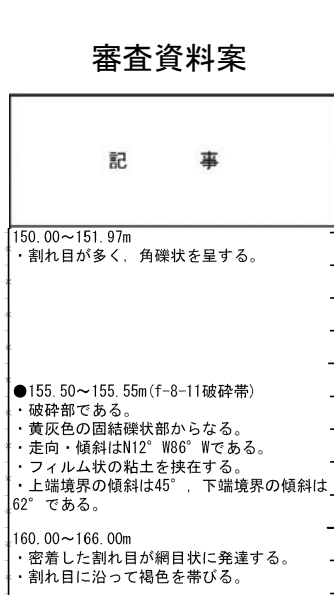
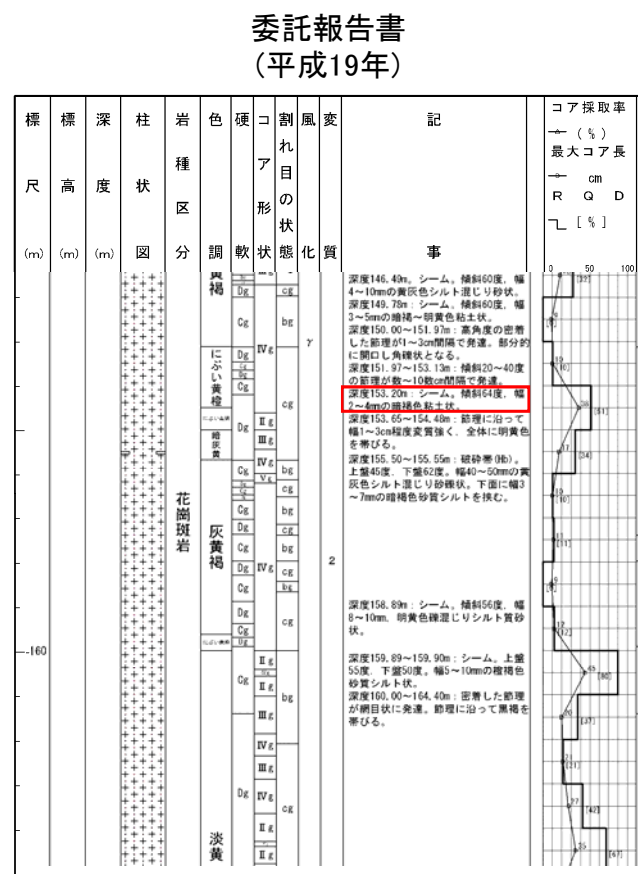


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.8孔 深度153.20m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度153.20m: シーム。傾斜64度。幅2~4mmの暗褐色粘土状。	記載なし	記載なし

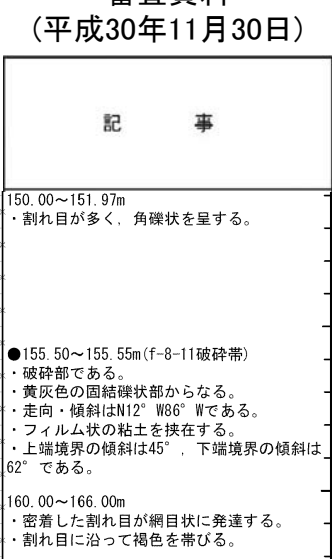
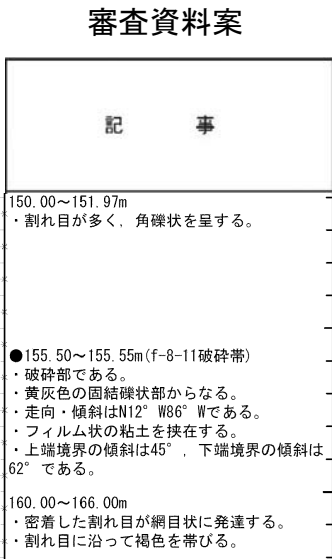
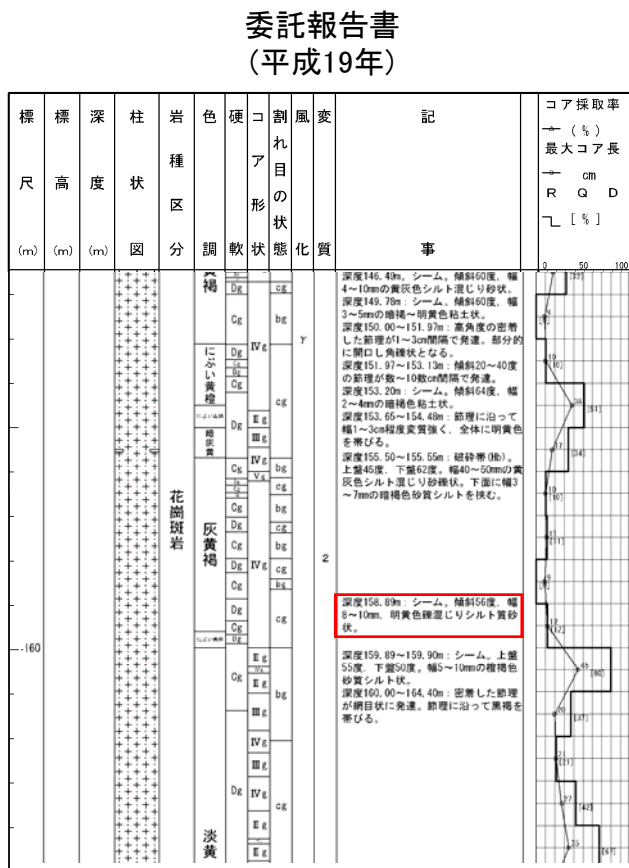


凡例
← : シーム

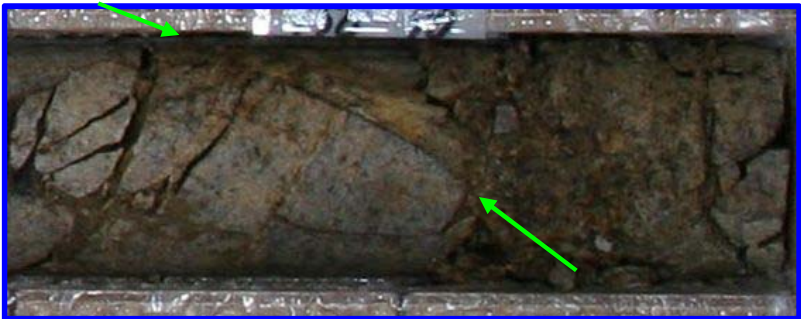
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.8孔 深度158.89m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度158.89m: シーム, 傾斜56度, 幅8~10mm, 明黄色塊混じりシルト質砂状。	記載なし	記載なし

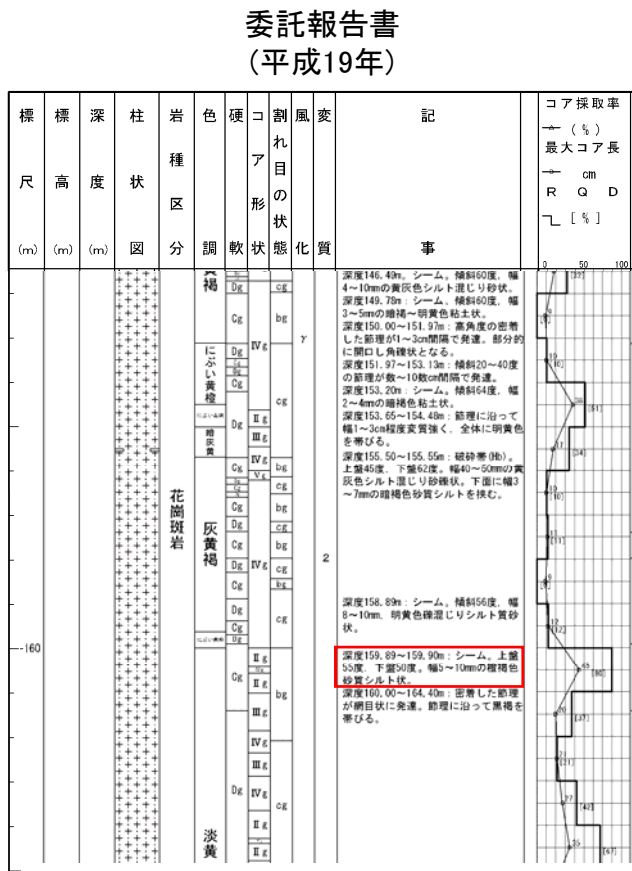


凡 例
 ← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.8孔 深度159.89~159.90m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案	
記事	
150.00~151.97m	・割れ目が多く、角礫状を呈する。
●155.50~155.55m (f-8-11破碎帯)	<ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・黄灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN12° W86° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は62°である。
160.00~166.00m	<ul style="list-style-type: none"> ・密着した割れ目が網目状に発達する。 ・割れ目によって褐色を帯びる。

審査資料 (平成30年11月30日)	
記事	
150.00~151.97m	・割れ目が多く、角礫状を呈する。
●155.50~155.55m (f-8-11破碎帯)	<ul style="list-style-type: none"> ・破碎部である。 ・黄灰色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN12° W86° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟在する。 ・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は62°である。
160.00~166.00m	<ul style="list-style-type: none"> ・密着した割れ目が網目状に発達する。 ・割れ目によって褐色を帯びる。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度159.89~159.90m: シーム。上盤55度、下盤50度。幅5~10mmの橙褐色砂質シルト状。	記載なし	記載なし

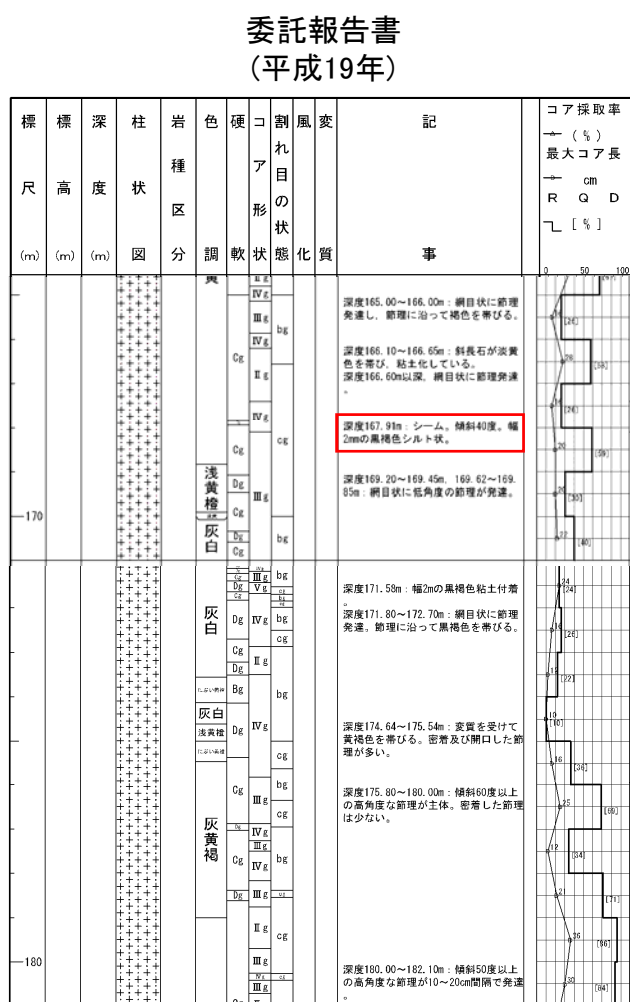


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.8孔 深度167.91m)

・シルト状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記事
166.10~166.65m ・斜長石が淡黄色を帯び、粘土化している。
169.20~169.45m, 169.62~169.85m ・網目状に低角度の割れ目が発達する。
171.80~172.70m ・網目状に割れ目が発達する。 ・割れ目に沿って黒褐色を帯びる。
174.64~175.54m ・変質を受けて黄褐色を帯びており、密着及び開口した割れ目が多い。
180.00~182.10m ・高角度の割れ目が10~20cm間隔で発達する。
185.00~190.00m ・全体に高角度の割れ目が10~20cm間隔で発達する。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
166.10~166.65m ・斜長石が淡黄色を帯び、粘土化している。
169.20~169.45m, 169.62~169.85m ・網目状に低角度の割れ目が発達する。
171.80~172.70m ・網目状に割れ目が発達する。 ・割れ目に沿って黒褐色を帯びる。
174.64~175.54m ・変質を受けて黄褐色を帯びており、密着及び開口した割れ目が多い。
180.00~182.10m ・高角度の割れ目が10~20cm間隔で発達する。
185.00~190.00m ・全体に高角度の割れ目が10~20cm間隔で発達する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度167.91m: シーム。傾斜40度。幅2mmの黒褐色シルト状。	記載なし	記載なし

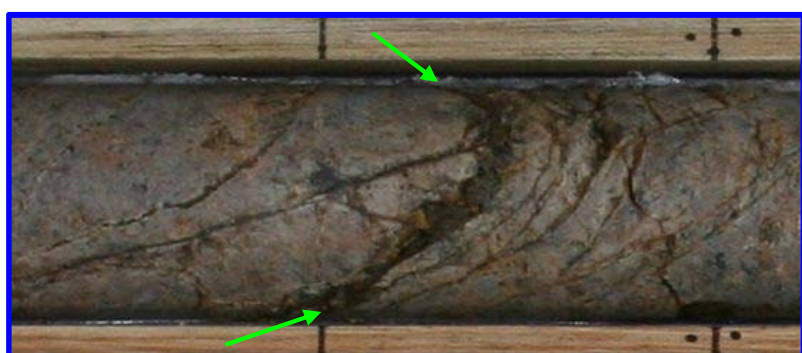
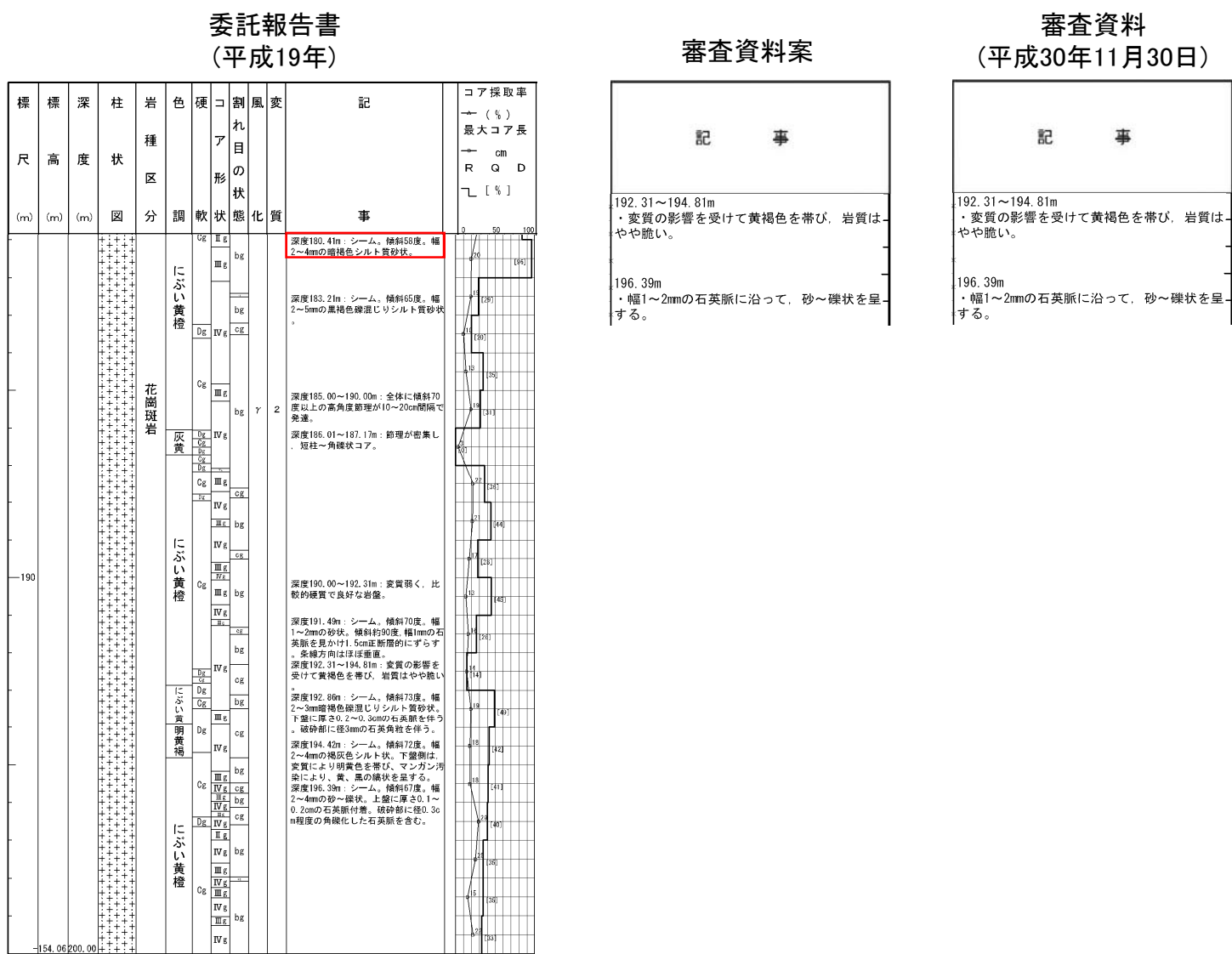


凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.8孔 深度180.41m)

・砂状を呈するがその分布は膨縮し直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

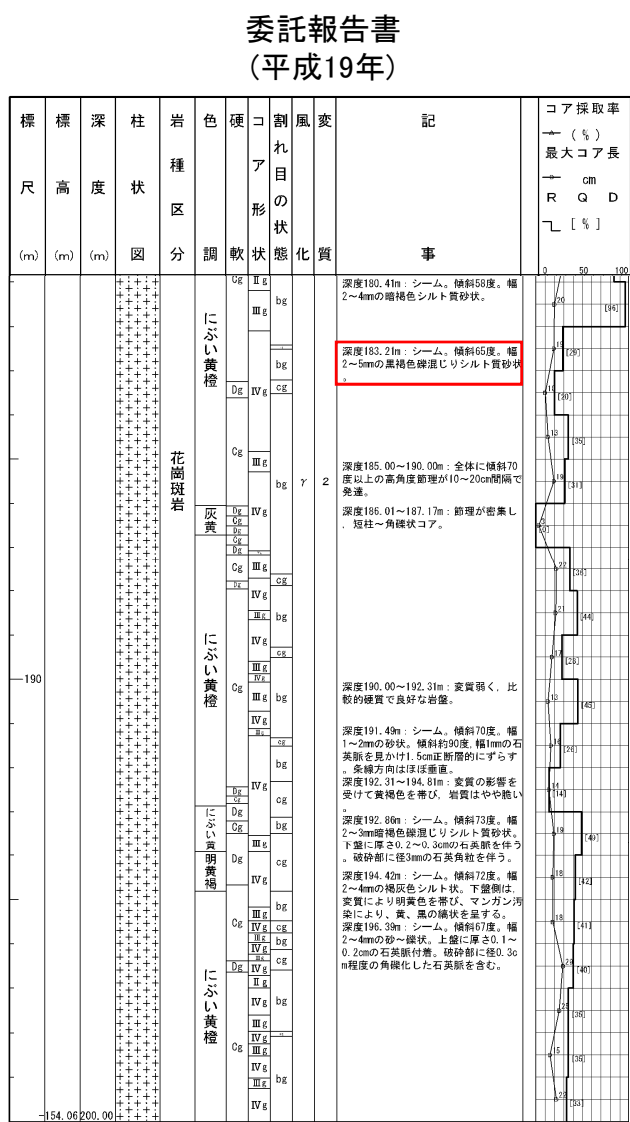


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.8孔 深度183.21m)

・砂状を呈するがその分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記事
192.31~194.81m ・変質の影響を受けて黄褐色を帯び、岩質はやや脆い。
196.39m ・幅1~2mmの石英脈に沿って、砂~礫状を呈する。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
192.31~194.81m ・変質の影響を受けて黄褐色を帯び、岩質はやや脆い。
196.39m ・幅1~2mmの石英脈に沿って、砂~礫状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度183.21m: シーム。傾斜65度。幅2~5mmの黒褐色礫混じりシルト質砂状。	記載なし	記載なし



凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.8孔 深度191.49m)

・砂状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
<p>深度191.49m: シーム。傾斜70度。幅1~2mmの砂状。傾斜約90度。幅1mmの石英脈を見かけ1.5cm正断層的にずらす。条線方向はほぼ垂直。</p>	<p>記載なし</p>	<p>記載なし</p>

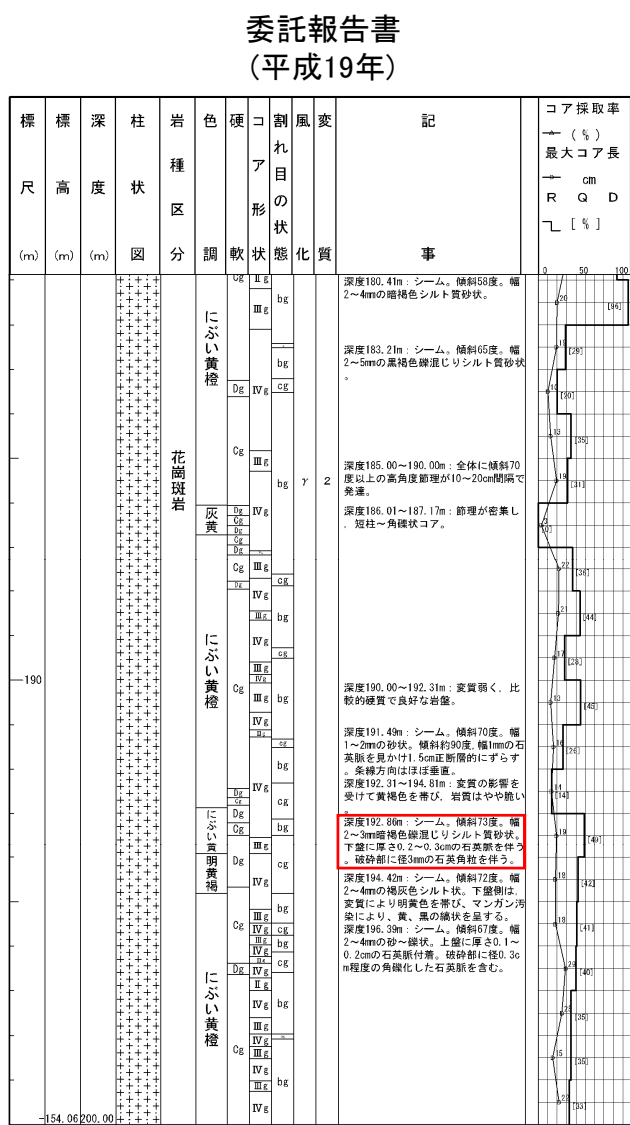


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.8孔 深度192.86m)

・砂状を呈するが、その分布は湾曲し直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記事
192.31~194.81m ・変質の影響を受けて黄褐色を帯び、岩質はやや脆い。
196.39m ・幅1~2mmの石英脈に沿って、砂~礫状を呈する。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
192.31~194.81m ・変質の影響を受けて黄褐色を帯び、岩質はやや脆い。
196.39m ・幅1~2mmの石英脈に沿って、砂~礫状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度192.86m: シーム。傾斜73度。幅2~3mm暗褐色細粒シリルト質砂状。下盤に厚さ0.2~0.3cmの石英脈を伴う。破碎部に径3mmの石英角粒を伴う。	記載なし	記載なし



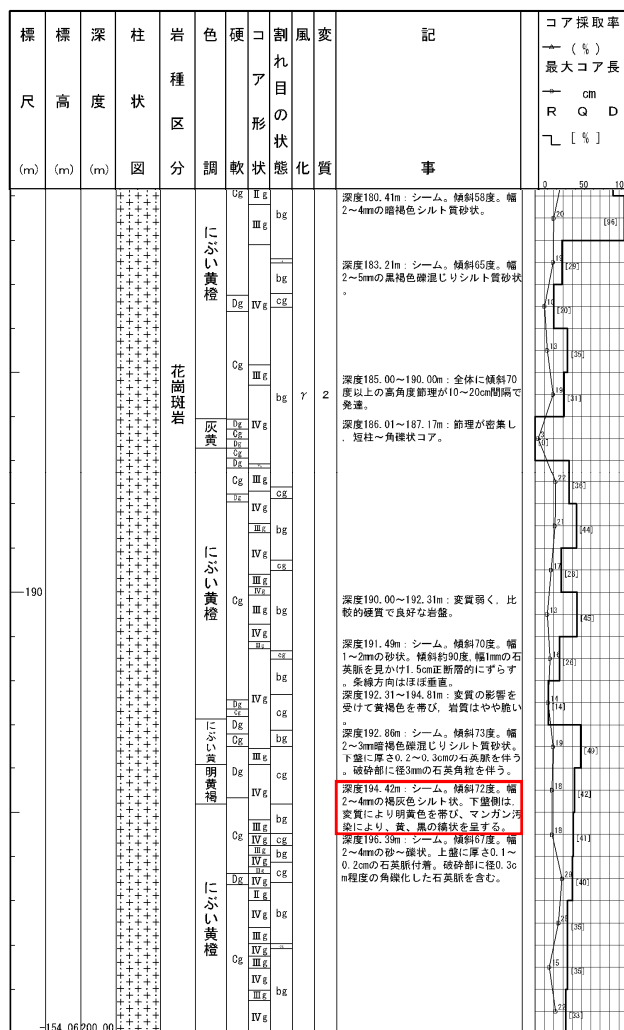
凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.8孔 深度194.42m)

・シルト状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)



審査資料案

記事
192.31~194.81m ・変質の影響を受けて黄褐色を帯び、岩質はやや脆い。
196.39m ・幅1~2mmの石英脈に沿って、砂~礫状を呈する。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
192.31~194.81m ・変質の影響を受けて黄褐色を帯び、岩質はやや脆い。
196.39m ・幅1~2mmの石英脈に沿って、砂~礫状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度194.42m: シーム。傾斜72度。幅2~4mmの褐色シルト状。下盤側は、変質により明黄色を帯び、マンガン汚染により、黄、黒の縞状を呈する。	記載なし	記載なし



凡例
← : シーム

0 5 cm

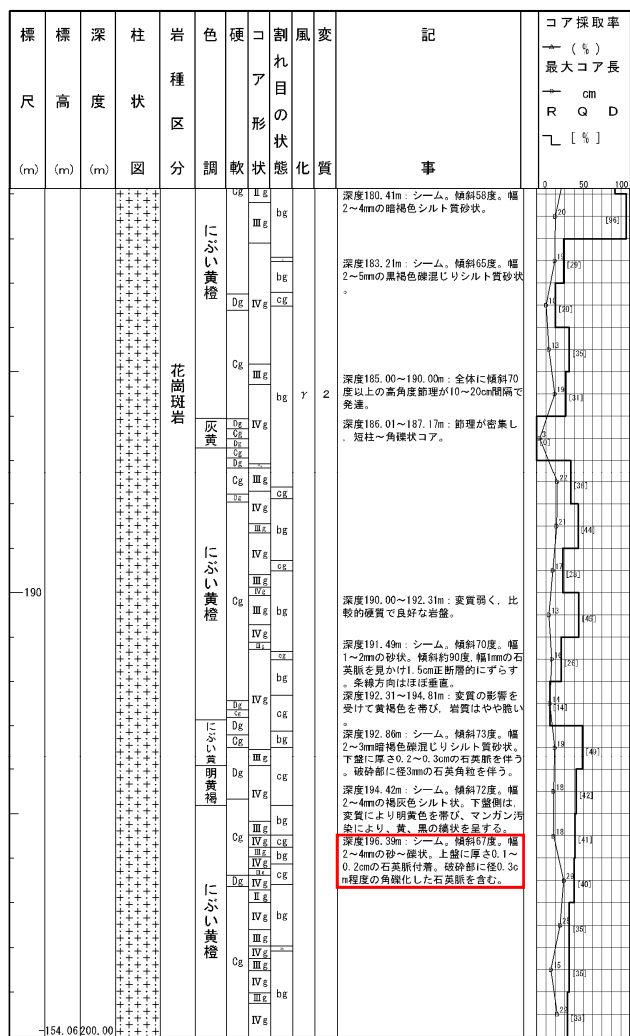
柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.8孔 深度196.39m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)

審査資料案

審査資料 (平成30年11月30日)



記事
192.31~194.81m ・変質の影響を受けて黄褐色を帯び、岩質はやや脆い。
196.39m ・幅1~2mmの石英脈に沿って、砂~礫状を呈する。

記事
192.31~194.81m ・変質の影響を受けて黄褐色を帯び、岩質はやや脆い。
196.39m ・幅1~2mmの石英脈に沿って、砂~礫状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度196.39m: シーム。傾斜67度。幅2~4mmの砂~礫状。上盤に厚さ0.1~0.2cmの石英脈付着。破碎部に径0.3cm程度の角礫化した石英脈を含む。	196.39m ・幅1~2mmの石英脈に沿って、砂~礫状を呈する。	196.39m ・幅1~2mmの石英脈に沿って、砂~礫状を呈する。



凡例
← : シーム

0 5 cm

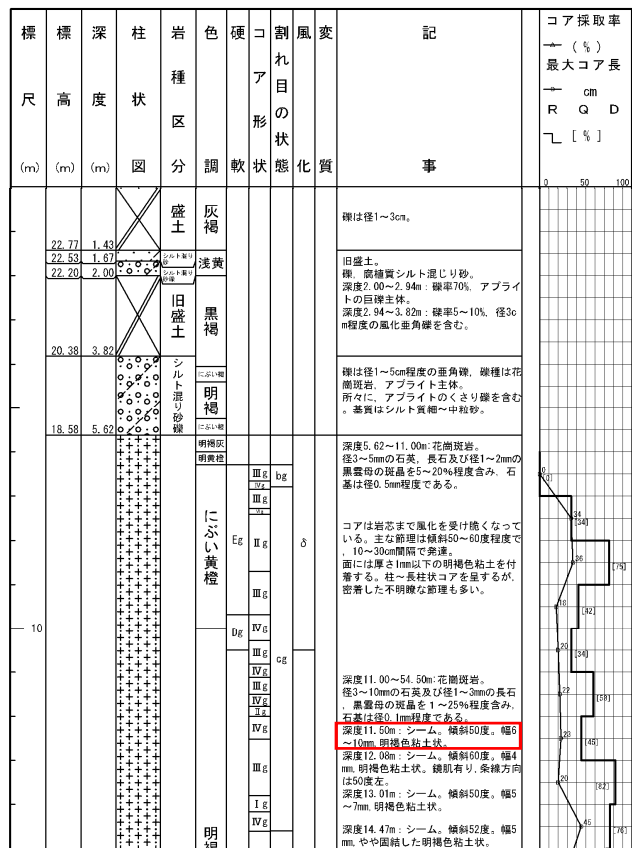
柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.10孔 深度11.50m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)

審査資料案

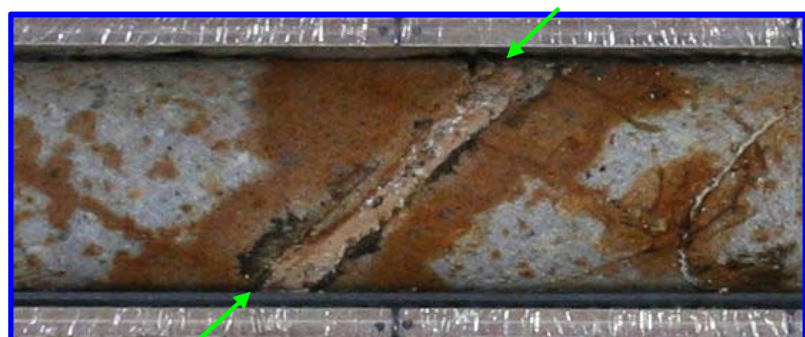
審査資料 (平成30年11月30日)



記事
0.00~1.43m ・盛土である。
1.43~1.67m ・シルト混じり砂である。
1.67~2.00m ・シルト混じり砂礫である。
2.00~3.82m ・旧盛土である。
3.82~5.62m ・シルト混じり砂礫である。
5.62~120.00m ・花崗斑岩である。
11.50~14.47m ・角礫状~明褐色の粘土状を呈する。

記事
0.00~1.43m ・盛土である。
1.43~1.67m ・シルト混じり砂である。
1.67~2.00m ・シルト混じり砂礫である。
2.00~3.82m ・旧盛土である。
3.82~5.62m ・シルト混じり砂礫である。
5.62~120.00m ・花崗斑岩である。
11.50~14.47m ・角礫状~明褐色の粘土状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度11.50m: シーム。傾斜50度。幅6~10mm。明褐色粘土状。 深度12.08m: シーム。傾斜60度。幅4mm。明褐色粘土状。鏡肌有り。条線方向は50度左。 深度13.01m: シーム。傾斜50度。幅5~7mm。明褐色粘土状。 深度14.47m: シーム。傾斜52度。幅5mm。やや固結した明褐色粘土状。	11.50~14.47m ・角礫状~明褐色の粘土状を呈する。	11.50~14.47m ・角礫状~明褐色の粘土状を呈する。

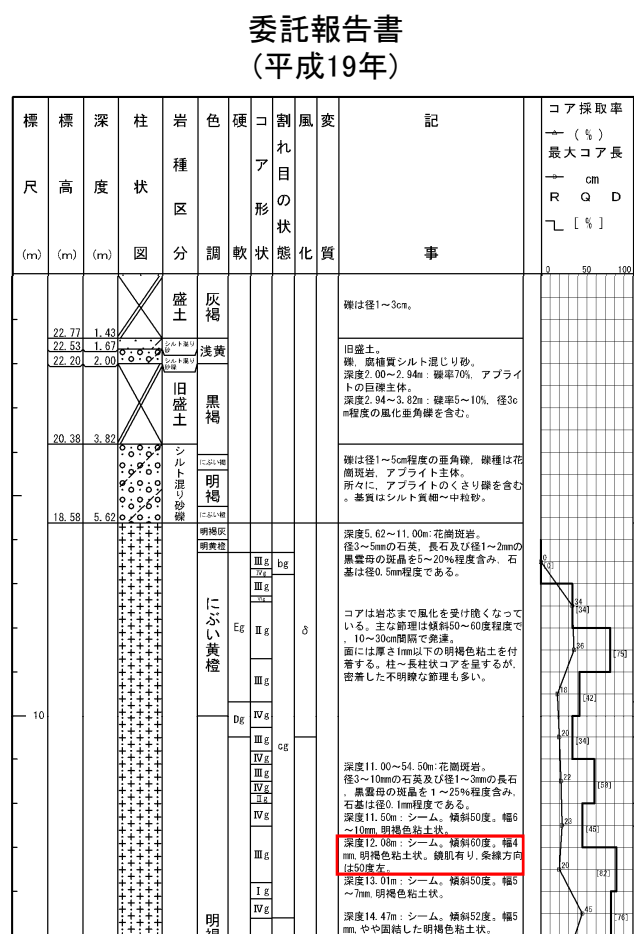


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.10孔 深度12.08m)

一部で礫混じり粘土状を呈するが、礫に定向配列は認められず、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記事
0.00~1.43m ・盛土である。
1.43~1.67m ・シルト混じり砂である。
1.67~2.00m ・シルト混じり砂礫である。
2.00~3.82m ・旧盛土である。
3.82~5.62m ・シルト混じり砂礫である。
5.62~120.00m ・花崗斑岩である。
11.50~14.47m ・角礫状~明褐色の粘土状を呈する。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
0.00~1.43m ・盛土である。
1.43~1.67m ・シルト混じり砂である。
1.67~2.00m ・シルト混じり砂礫である。
2.00~3.82m ・旧盛土である。
3.82~5.62m ・シルト混じり砂礫である。
5.62~120.00m ・花崗斑岩である。
11.50~14.47m ・角礫状~明褐色の粘土状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度11.50m: シーム。傾斜50度。幅6~10mm。明褐色粘土状。 深度12.08m: シーム。傾斜60度。幅4mm。明褐色粘土状。鏡肌有り。条線方向は50度左。 深度13.01m: シーム。傾斜50度。幅5~7mm。明褐色粘土状。 深度14.47m: シーム。傾斜52度。幅5mm。やや固結した明褐色粘土状。	11.50~14.47m ・角礫状~明褐色の粘土状を呈する。	11.50~14.47m ・角礫状~明褐色の粘土状を呈する。



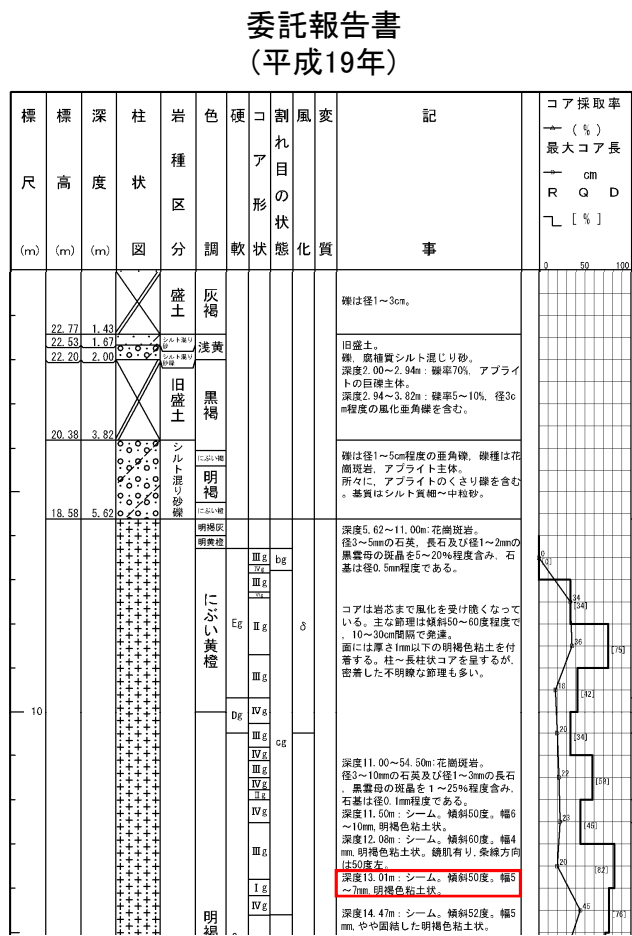
凡例

← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.10孔 深度13.01m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記事
0.00~1.43m ・盛土である。
1.43~1.67m ・シルト混じり砂である。
1.67~2.00m ・シルト混じり砂礫である。
2.00~3.82m ・旧盛土である。
3.82~5.62m ・シルト混じり砂礫である。
5.62~120.00m ・花崗斑岩である。
11.50~14.47m ・角礫状~明褐色の粘土状を呈する。

**審査資料
(平成30年11月30日)**

記事
0.00~1.43m ・盛土である。
1.43~1.67m ・シルト混じり砂である。
1.67~2.00m ・シルト混じり砂礫である。
2.00~3.82m ・旧盛土である。
3.82~5.62m ・シルト混じり砂礫である。
5.62~120.00m ・花崗斑岩である。
11.50~14.47m ・角礫状~明褐色の粘土状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度11.50m: シーム. 傾斜50度. 幅6~10mm. 明褐色粘土状. 深度12.08m: シーム. 傾斜60度. 幅4mm. 明褐色粘土状. 鏡肌有り. 条線方向は50度左. 深度13.01m: シーム. 傾斜50度. 幅5~7mm. 明褐色粘土状. 深度14.47m: シーム. 傾斜52度. 幅5mm. やや固結した明褐色粘土状.	11.50~14.47m ・角礫状~明褐色の粘土状を呈する。	11.50~14.47m ・角礫状~明褐色の粘土状を呈する。



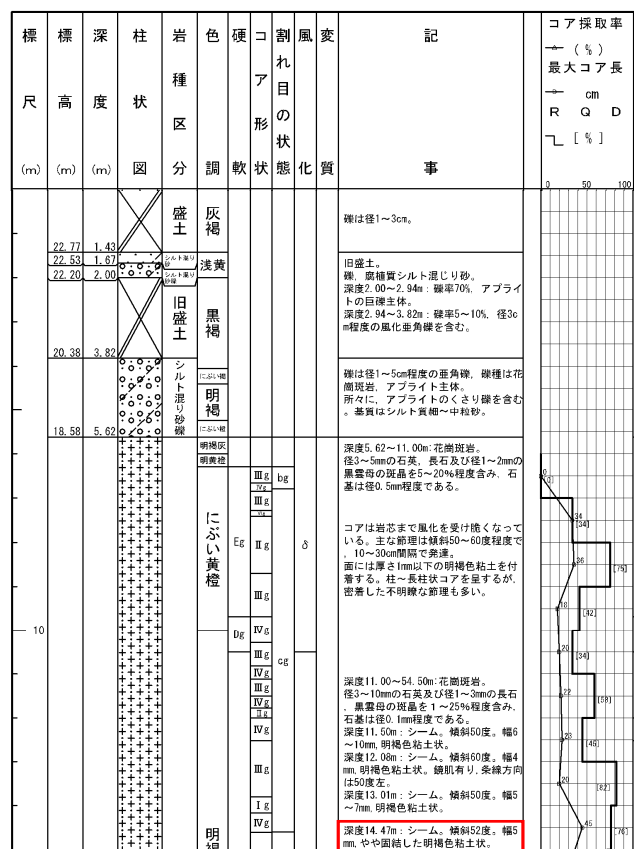
凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.10孔 深度14.47m)

・粘土状を呈するが、その分布は湾曲し直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)



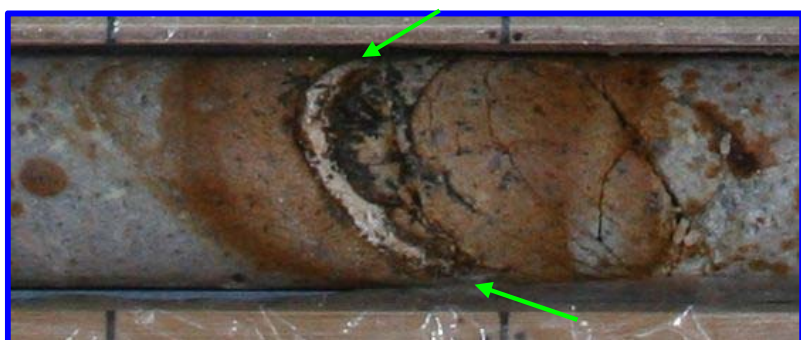
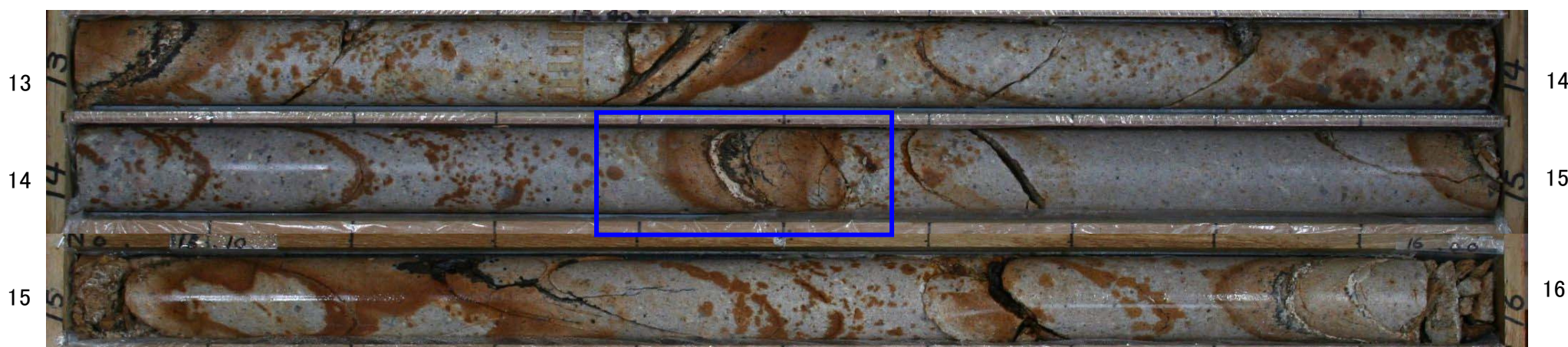
審査資料案

記事
0.00~1.43m ・盛土である。
1.43~1.67m ・シルト混じり砂である。
1.67~2.00m ・シルト混じり砂礫である。
2.00~3.82m ・旧盛土である。
3.82~5.62m ・シルト混じり砂礫である。
5.62~120.00m ・花崗斑岩である。
11.50~14.47m ・角礫状~明褐色の粘土状を呈する。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
0.00~1.43m ・盛土である。
1.43~1.67m ・シルト混じり砂である。
1.67~2.00m ・シルト混じり砂礫である。
2.00~3.82m ・旧盛土である。
3.82~5.62m ・シルト混じり砂礫である。
5.62~120.00m ・花崗斑岩である。
11.50~14.47m ・角礫状~明褐色の粘土状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度11.50m: シーム。傾斜50度。幅6~10mm。明褐色粘土状。 深度12.08m: シーム。傾斜60度。幅4mm。明褐色粘土状。鏡肌有り。条線方向は50度左。 深度13.01m: シーム。傾斜50度。幅5~7mm。明褐色粘土状。 深度14.47m: シーム。傾斜52度。幅5mm。やや固結した明褐色粘土状。	11.50~14.47m ・角礫状~明褐色の粘土状を呈する。	11.50~14.47m ・角礫状~明褐色の粘土状を呈する。

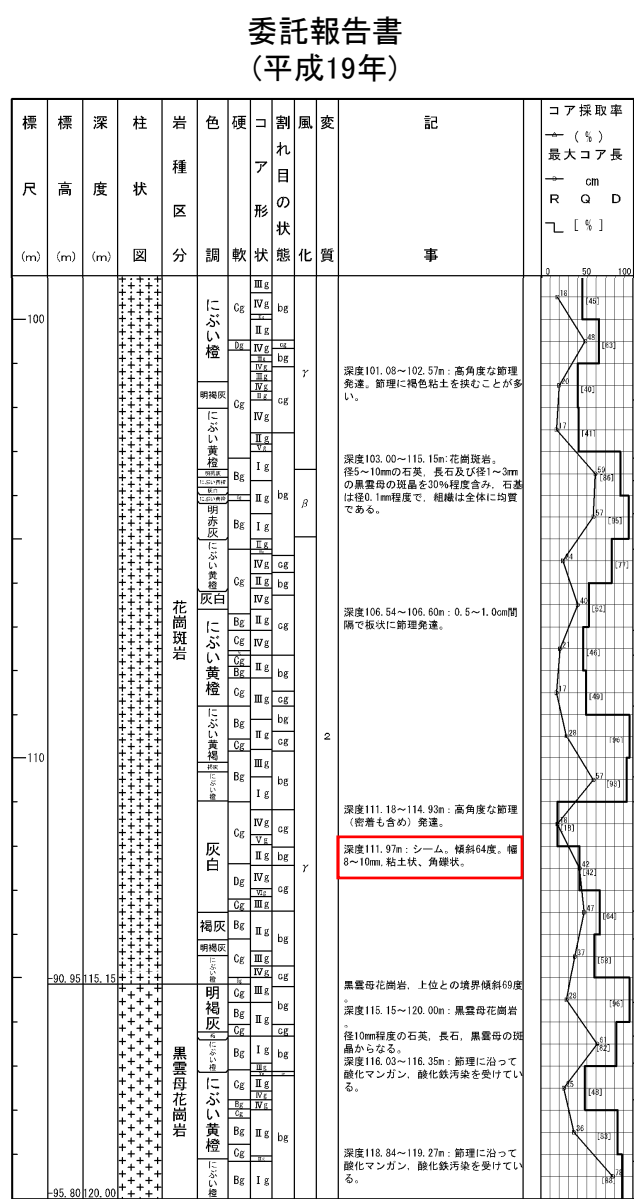


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.10孔 深度111.97m)

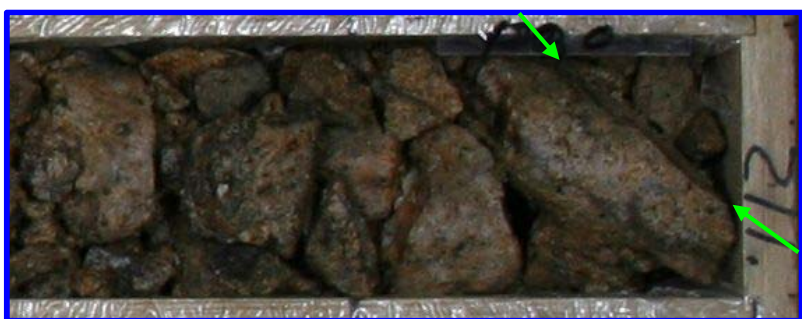
・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



記 事
101.08~102.57m ・高角度の割れ目が発達する。 ・割れ目に沿って褐色の粘土を挟む。
106.54~114.93m ・角礫状~粘土状を呈する。 ・高角度の割れ目が発達する。
115.15~120.00m ・黒雲母花崗岩である。 116.03~119.27m ・割れ目に沿って酸化マンガン、酸化鉄汚染を伴う。

記 事
101.08~102.57m ・高角度の割れ目が発達する。 ・割れ目に沿って褐色の粘土を挟む。
106.54~114.93m ・角礫状~粘土状を呈する。 ・高角度の割れ目が発達する。
115.15~120.00m ・黒雲母花崗岩である。 116.03~119.27m ・割れ目に沿って酸化マンガン、酸化鉄汚染を伴う。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度106.54~106.60m:0.5~1.0cm間隔で板状に節理発達。 深度111.18~114.93m:高角度な節理(密着も含め)発達。 深度111.97m:シーム、傾斜64度、幅8~10mm粘土状、角礫状。	106.54~114.93m ・角礫状~粘土状を呈する。 ・高角度の割れ目が発達する。	106.54~114.93m ・角礫状~粘土状を呈する。 ・高角度の割れ目が発達する。

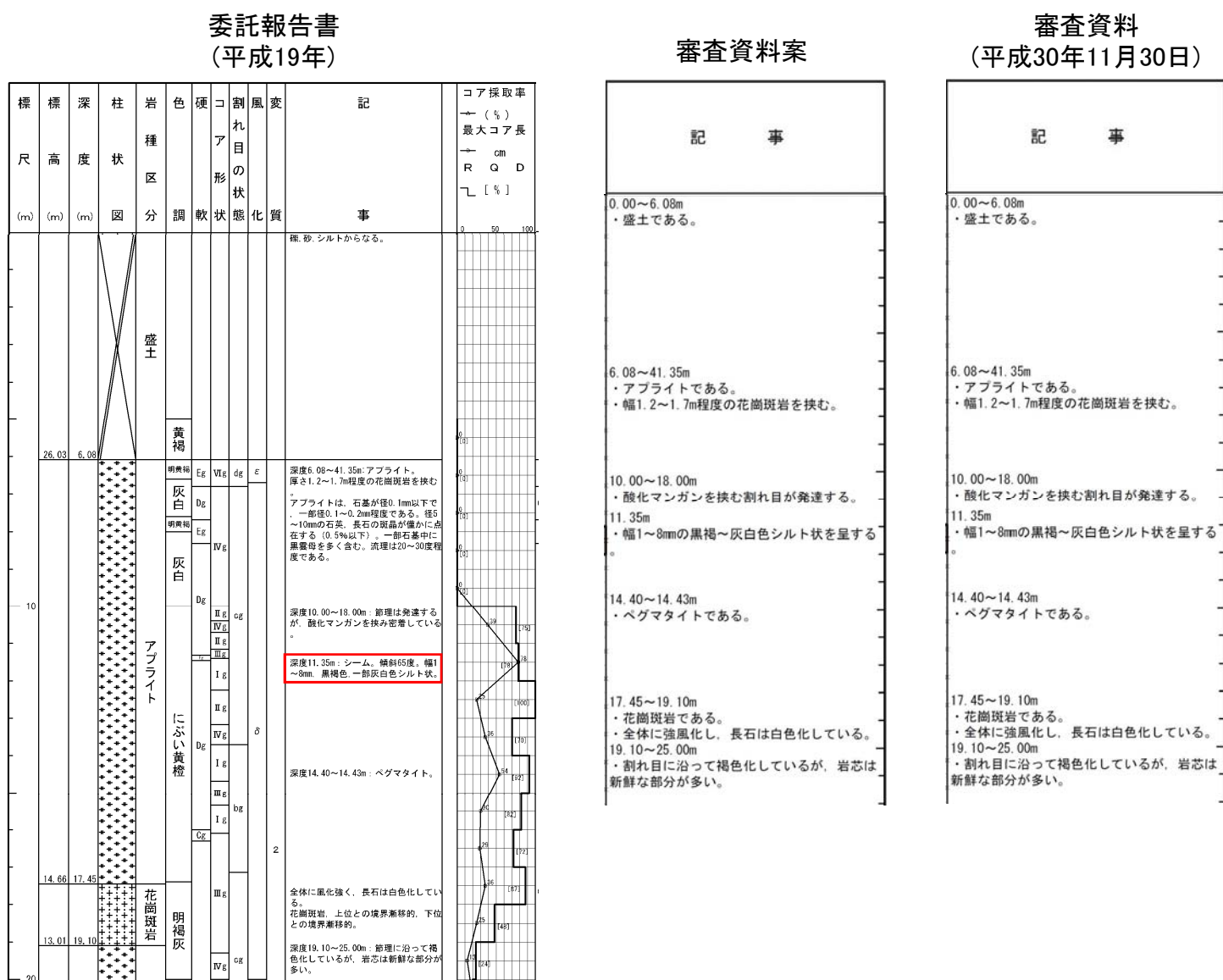


凡 例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.11孔 深度11.35m)

・シルト状を呈するがその分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度11.35m: シーム。傾斜65度。幅1~8mm, 黒褐色、一部灰白色シルト状。	11.35m ・幅1~8mmの黒褐~灰白色シルト状を呈する。	11.35m ・幅1~8mmの黒褐~灰白色シルト状を呈する。

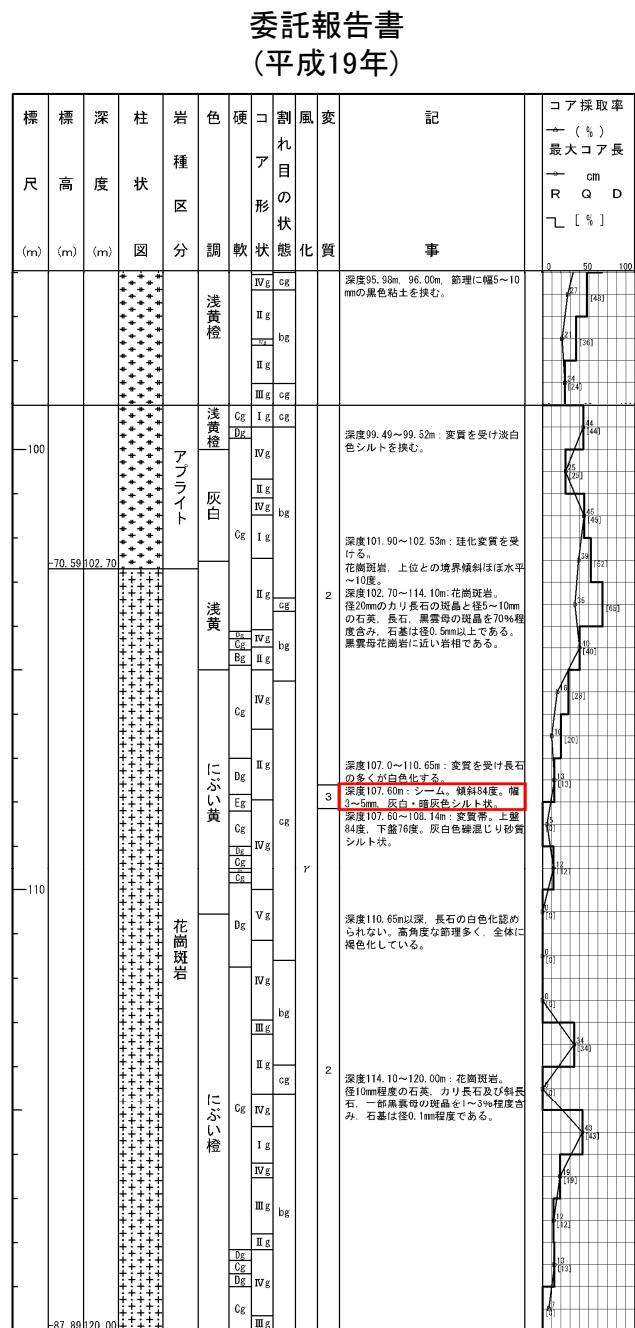


凡 例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.11孔 深度107.60m)

・シルト状を呈するがその分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



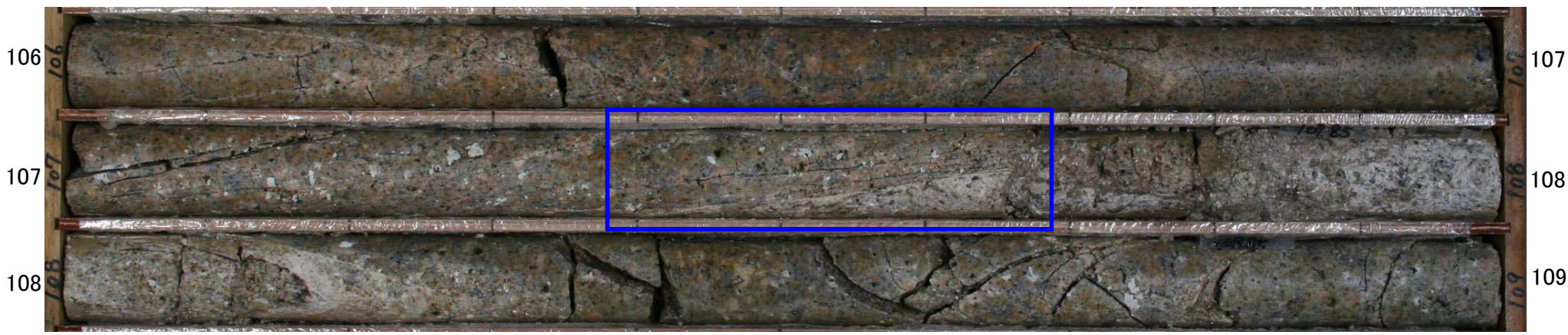
審査資料案

記事
95.98m, 96.00m ・割れ目に幅5~10mmの黒色粘土を挟む。
99.49~99.52m ・変質している。 ・淡白色シルト状を呈する。
101.90~102.53m ・連化変質を受ける。 102.70~120.00m ・花崗斑岩である。
107.60~108.14m ・変質している。 ・灰白色礫混じり砂質シルト状を呈する。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
95.98m, 96.00m ・割れ目に幅5~10mmの黒色粘土を挟む。
99.49~99.52m ・変質している。 ・淡白色シルト状を呈する。
101.90~102.53m ・連化変質を受ける。 102.70~120.00m ・花崗斑岩である。
107.60~108.14m ・変質している。 ・灰白色礫混じり砂質シルト状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度107.60m: シーム。傾斜84度。幅3~5mm, 灰白・暗灰色シルト状。	記載なし	記載なし

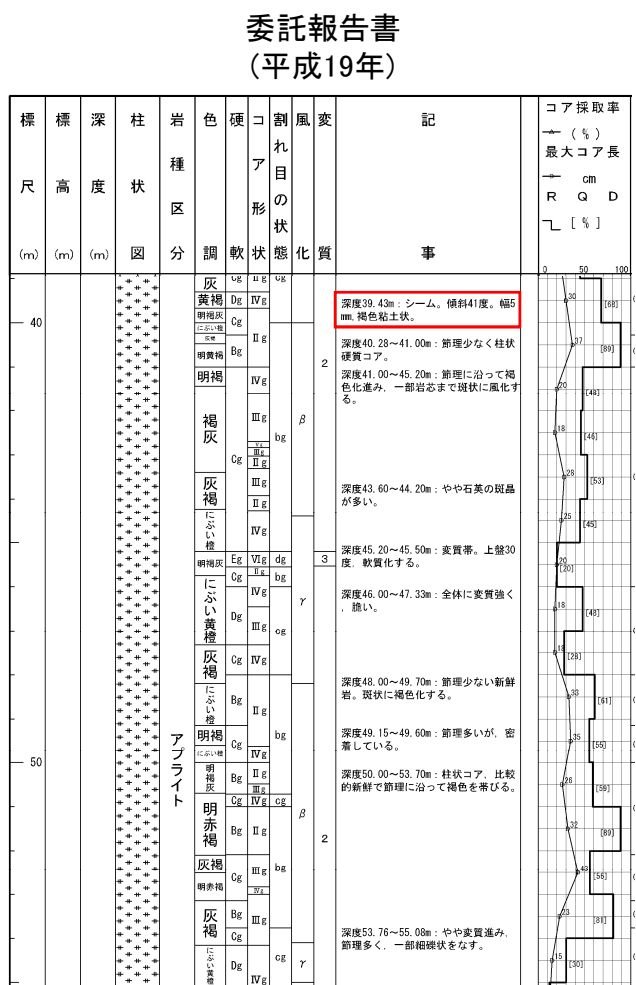


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.12孔 深度39.43m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



設置許可申請書案

記事
40.28~41.00m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
45.20~45.50m ・変質している。 ・明褐色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は30°である。
48.00~49.70m ・新鮮で割れ目が少なく、長柱状を呈する。
50.00~53.70m ・比較的新鮮で割れ目が少なく、柱状を呈する。
53.76~55.08m ・割れ目が多く、一部岩片状を呈する。

設置許可申請書 (平成27年11月)

記事
40.28~41.00m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
45.20~45.50m ・変質している。 ・明褐色を呈し、軟質化している。 ・上端境界の傾斜は30°である。
48.00~49.70m ・新鮮で割れ目が少なく、長柱状を呈する。
50.00~53.70m ・比較的新鮮で割れ目が少なく、柱状を呈する。
53.76~55.08m ・割れ目が多く、一部岩片状を呈する。

審査資料 (平成29年12月22日)

記事
40.28~41.00m ・硬質で割れ目が少なく、柱状を呈する。
45.20~45.50m ・変質している。 ・明褐色を呈し、軟質化している。
48.00~49.70m ・新鮮で割れ目が少なく、長柱状を呈する。
50.00~53.70m ・比較的新鮮で割れ目が少なく、柱状を呈する。
53.76~55.08m ・割れ目が多く、一部岩片状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度39.43m: シーム。傾斜41度。幅5mm。褐色粘土状。	記載なし	記載なし	記載なし



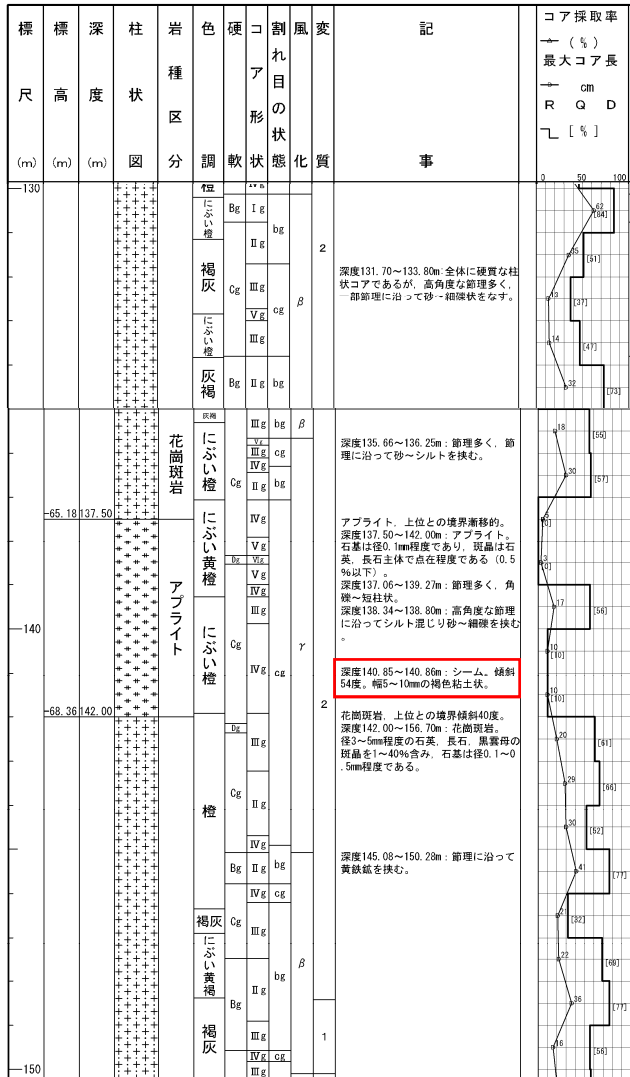
凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.12孔 深度140.85~140.86m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)



設置許可申請書案

記事
131.70~133.80m ・高角度の割れ目が多く、割れ目に沿って一部土砂状~岩片状を呈する。
135.66~136.25m ・割れ目が多く、割れ目に沿って砂~シルトを挟む。
137.50~142.00m ・アプライトである。 ・上端境界、下端境界は漸移的である。
137.06~139.27m ・割れ目が多く、岩片状~短柱状を呈する。
138.34~138.80m ・高角度の割れ目に沿って、シルト混じり砂~細礫を挟む。
142.00~156.70m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は40°である。
145.08~150.28m ・割れ目に沿って、黄鉄鉱を挟む。
147.60~149.50m ・硬質・新鮮である。 ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。

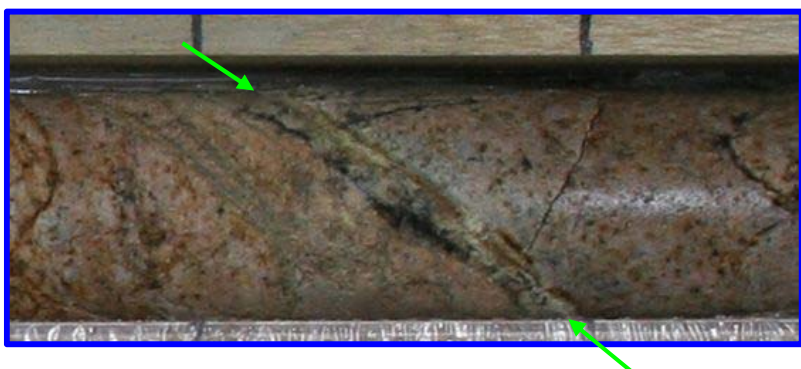
設置許可申請書 (平成27年11月)

記事
131.70~133.80m ・高角度の割れ目が多く、割れ目に沿って一部土砂状~岩片状を呈する。
135.66~136.25m ・割れ目が多く、割れ目に沿って砂~シルトを挟む。
137.50~142.00m ・アプライトである。 ・上端境界、下端境界は漸移的である。
137.06~139.27m ・割れ目が多く、岩片状~短柱状を呈する。
138.34~138.80m ・高角度の割れ目に沿って、シルト混じり砂~細礫を挟む。
142.00~156.70m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は40°である。
145.08~150.28m ・割れ目に沿って、黄鉄鉱を挟む。
147.60~149.50m ・硬質・新鮮である。 ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。

審査資料 (平成29年12月22日)

記事
131.70~133.80m ・高角度の割れ目が多く、割れ目に沿って一部土砂状~岩片状を呈する。
135.66~136.25m ・割れ目が多く、割れ目に沿って砂~シルトを挟む。
137.50~142.00m ・アプライトである。
137.06~139.27m ・割れ目が多く、岩片状~短柱状を呈する。
138.34~138.80m ・高角度の割れ目に沿って、シルト混じり砂~細礫を挟む。
142.00~156.70m ・花崗斑岩である。
145.08~150.28m ・割れ目に沿って、黄鉄鉱を挟む。
147.60~149.50m ・硬質・新鮮である。 ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度140.85~140.86m: シーム。傾斜54度。幅5~10mmの褐色粘土状。	記載なし	記載なし	記載なし



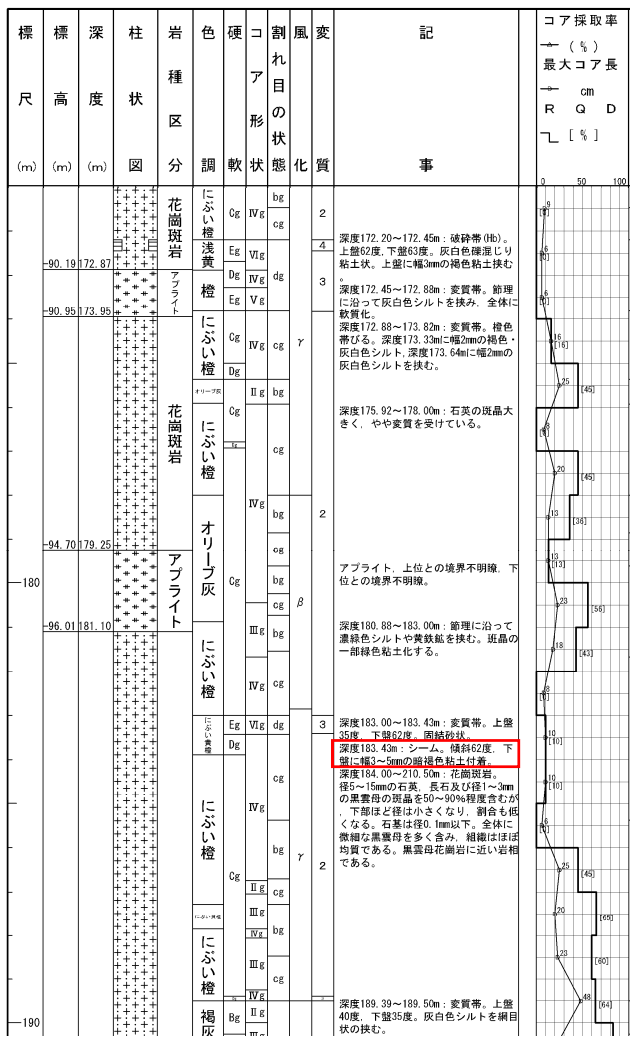
凡例
← : シーム

0 5 cm

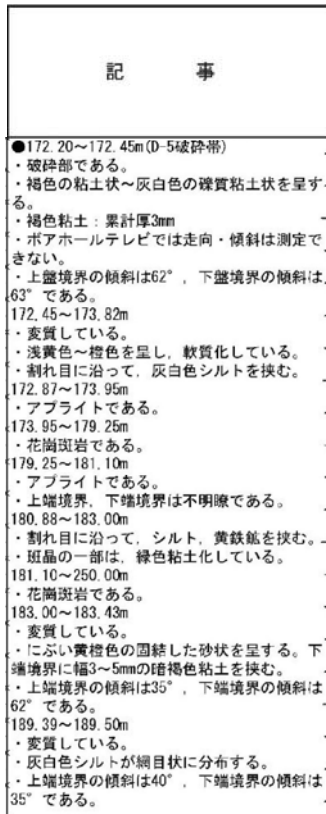
柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.12孔 深度183.43m)

・粘土状部にせん断構造・変形構造が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

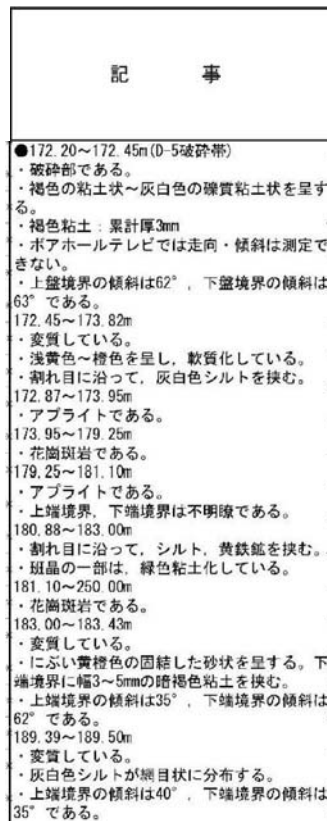
委託報告書 (平成19年)



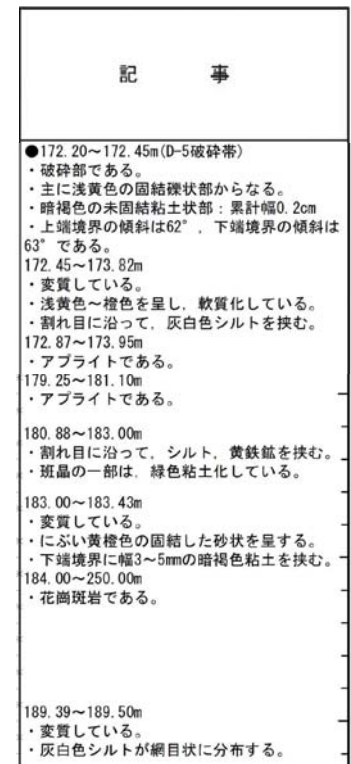
設置許可申請書案



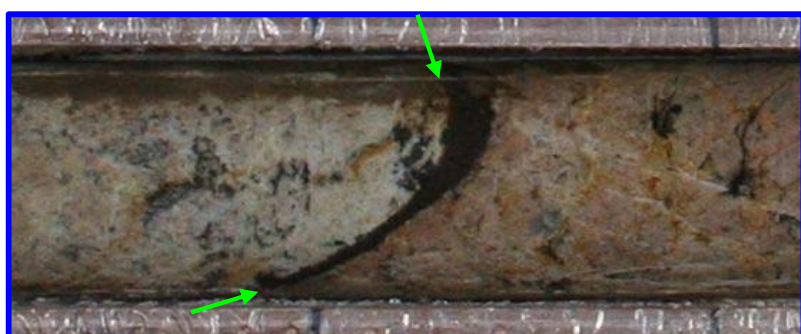
設置許可申請書 (平成27年11月)



審査資料 (平成29年12月22日)



委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度183.00～183.43m: 変質帯。上盤35度, 下盤62度。固結砂状。 深度183.43m: シーム。傾斜62度。下盤に幅3～5mmの暗褐色粘土付着。	183.00～183.43m ・変質している。 ・にぶい黄橙色の固結した砂状を呈する。下端境界に幅3～5mmの暗褐色粘土を挟む。 ・上端境界の傾斜は35°, 下端境界の傾斜は62°である。	183.00～183.43m ・変質している。 ・にぶい黄橙色の固結した砂状を呈する。下端境界に幅3～5mmの暗褐色粘土を挟む。 ・上端境界の傾斜は35°, 下端境界の傾斜は62°である。	183.00～183.43m ・変質している。 ・にぶい黄橙色の固結した砂状を呈する。 ・下端境界に幅3～5mmの暗褐色粘土を挟む。



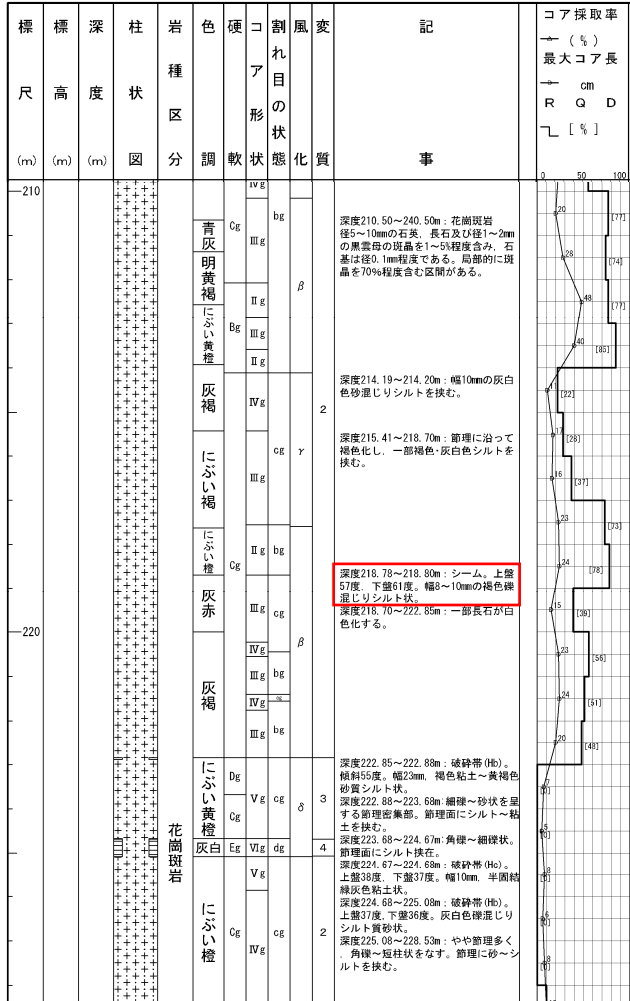
凡例
← シーム

0 5 cm

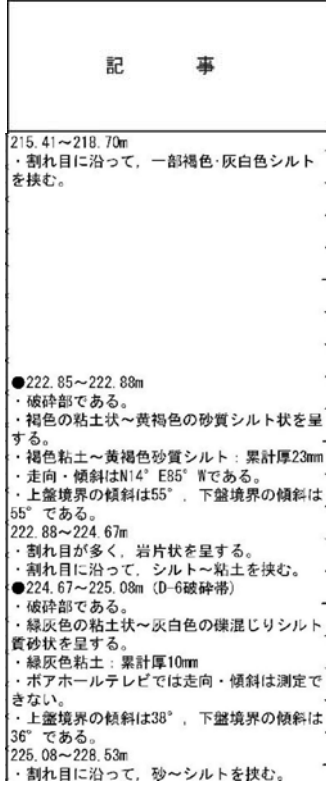
柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.12孔 深度218.78~218.80m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)



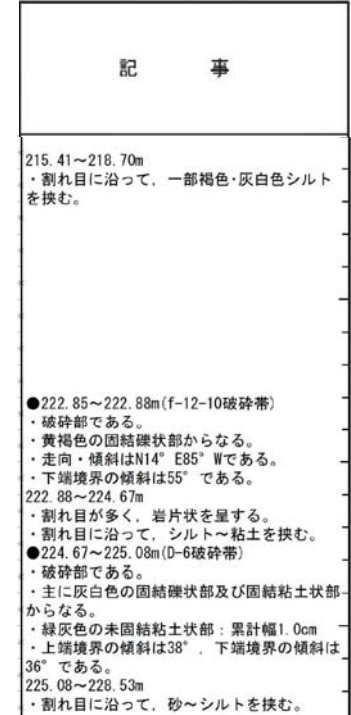
設置許可申請書案



設置許可申請書 (平成27年11月)



審査資料 (平成29年12月22日)



委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度218.78~218.80m: シーム。上盤57度、下盤61度。幅8~10mmの褐色礫混じりシルト状。	記載なし	記載なし	記載なし

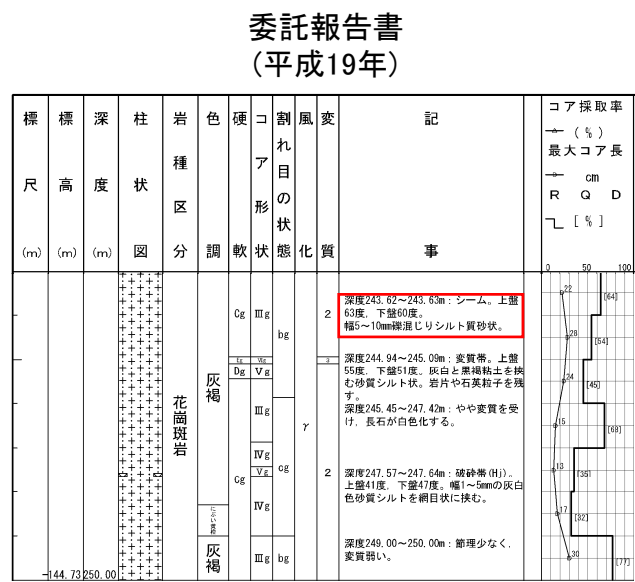


凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.12孔 深度243.62~243.63m)

・砂状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



設置許可申請書案

記事

244.94~245.09m
 ・変質している。
 ・灰褐色の岩片混じり砂質シルト状を呈する。灰白~黒褐色粘土を挟む。
 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は51°である。

●247.57~247.64m
 ・破碎部である。
 ・灰褐色のシルト混じり礫状を呈する。幅1~5mmの灰白色砂質シルトを網目状に挟む。
 ・ポアホールテレビでは走向・傾斜は測定できない。
 ・上盤境界の傾斜は41°、下盤境界の傾斜は47°である。

設置許可申請書 (平成27年11月)

記事

244.94~245.09m
 ・変質している。
 ・灰褐色の岩片混じり砂質シルト状を呈する。灰白~黒褐色粘土を挟む。
 ・上盤境界の傾斜は55°、下盤境界の傾斜は51°である。

●247.57~247.64m
 ・破碎部である。
 ・灰褐色のシルト混じり礫状を呈する。幅1~5mmの灰白色砂質シルトを網目状に挟む。
 ・ポアホールテレビでは走向・傾斜は測定できない。
 ・上盤境界の傾斜は41°、下盤境界の傾斜は47°である。

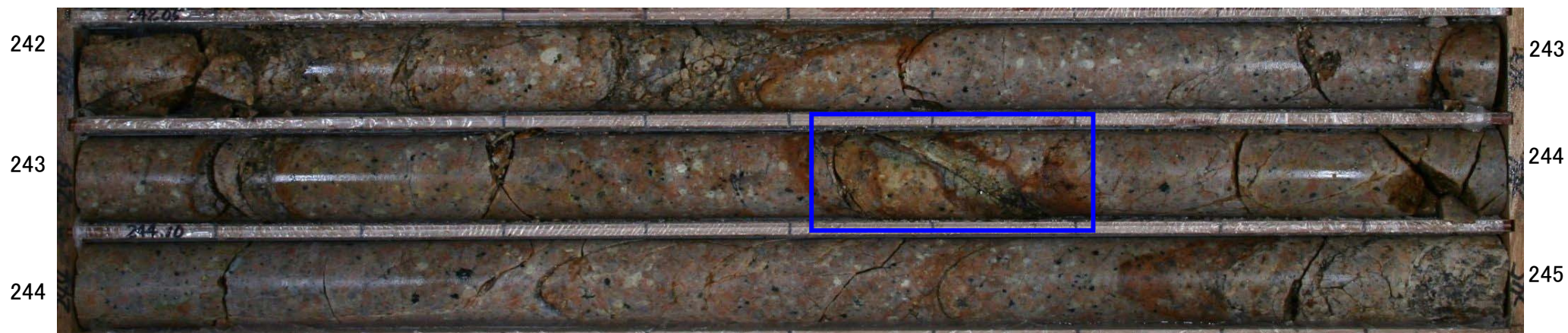
審査資料 (平成29年12月22日)

記事

244.94~245.09m
 ・変質している。
 ・灰褐色の岩片混じり砂質シルト状を呈する。
 ・灰白~黒褐色粘土を挟む。

●247.57~247.64m(D-7破碎帯)
 ・破碎部である。
 ・灰褐色の固結礫状部からなる。
 ・上盤境界の傾斜は41°、下盤境界の傾斜は47°である。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度243.62~243.63m: シーム。上盤63度、下盤60度。幅5~10mm礫混じりシルト質砂状。	記載なし	記載なし	記載なし

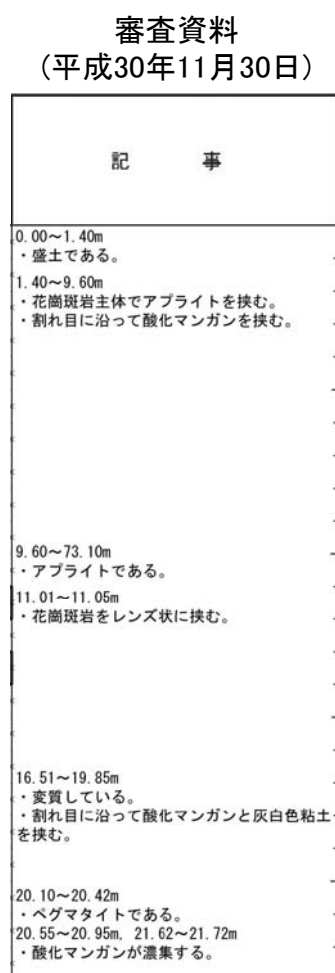
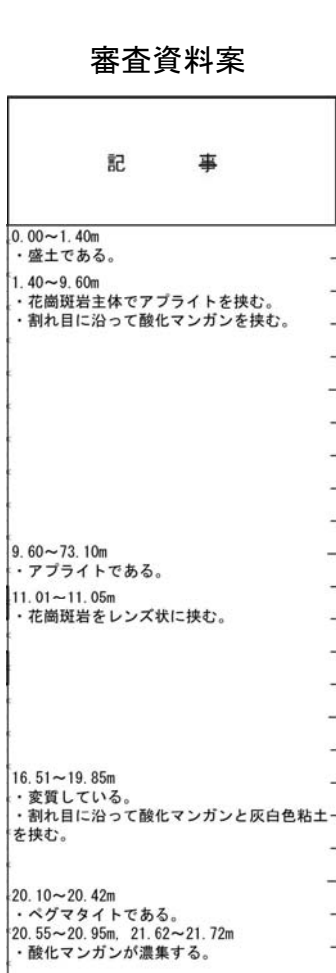
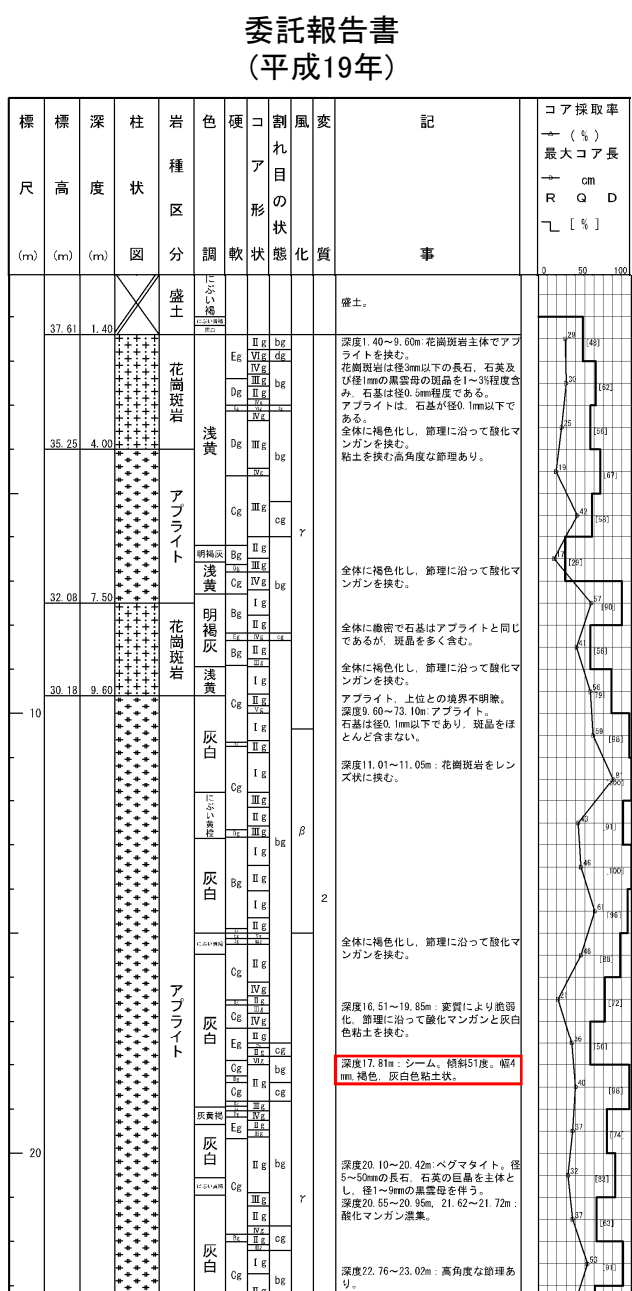


凡例
 ← : シーム

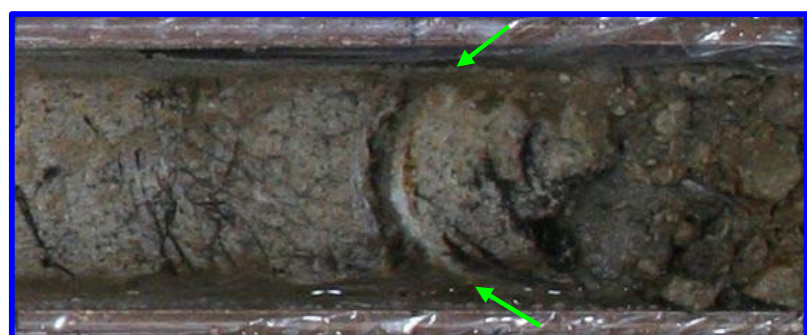
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.13孔 深度17.81m)

・周囲の岩盤にシームと同系統の割れ目が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度17.81m: シーム。傾斜51度。幅4mm、褐色、灰白色粘土状。	記載なし	記載なし

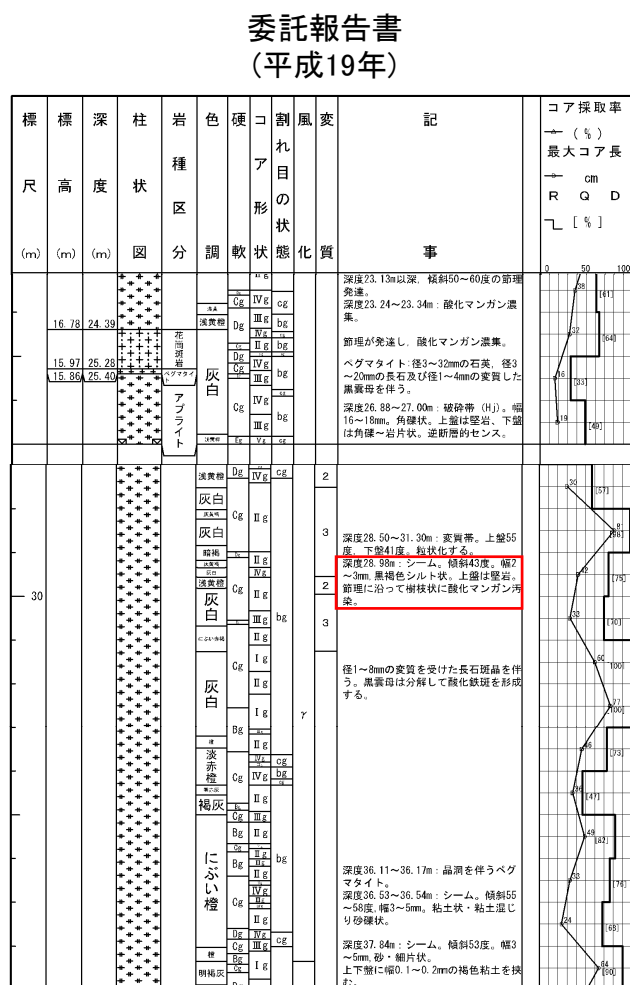


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.13孔 深度28.98m)

・シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記事
23.13m以深 ・割れ目が発達する。 23.24~23.34m ・酸化マンガンが濃集する。 24.39~25.28m ・花崗斑岩である。 25.28~25.40m ・ペグマタイトである。 ・径3~32mmの石英、径3~20mmの長石及び径1~4mmの変質した黒雲母を伴う。 ●26.88~27.00m (D-2破碎帯) ・破碎部である。 ・浅黄橙色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN5° E81° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟む。 28.50~31.30m ・変質し、粒状化する。
36.11~36.17m ・ペグマタイトを挟む。 36.53~36.54m ・幅3~5mmの粘土状・粘土混じり砂礫状を呈する。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
23.13m以深 ・割れ目が発達する。 23.24~23.34m ・酸化マンガンが濃集する。 24.39~25.28m ・花崗斑岩である。 25.28~25.40m ・ペグマタイトである。 ・径3~32mmの石英、径3~20mmの長石及び径1~4mmの変質した黒雲母を伴う。 ●26.88~27.00m (D-2破碎帯) ・破碎部である。 ・浅黄橙色の固結礫状部からなる。 ・走向・傾斜はN5° E81° Wである。 ・フィルム状の粘土を挟む。 28.50~31.30m ・変質し、粒状化する。
36.11~36.17m ・ペグマタイトを挟む。 36.53~36.54m ・幅3~5mmの粘土状・粘土混じり砂礫状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度28.98m: シーム。傾斜43度。幅2~3mm。黒褐色シルト状。上盤は堅岩。節理に沿って樹枝状に酸化マンガン汚染。	記載なし	記載なし

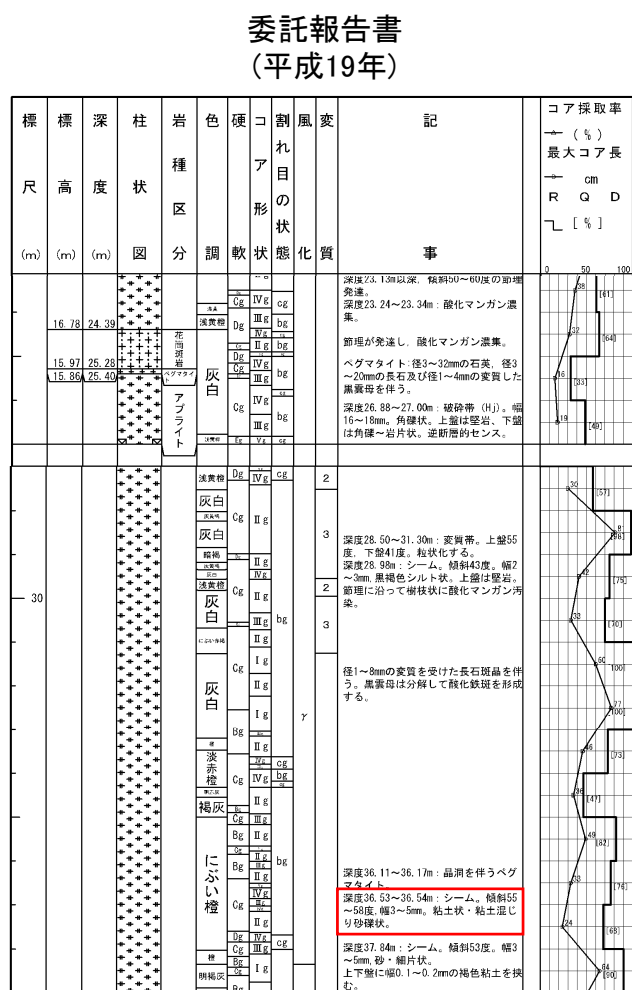


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.13孔 深度36.53~36.54m)

・砂礫状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記事

23.13m以深
・割れ目が発達する。
23.24~23.34m
・酸化マンガンが濃集する。
24.39~25.28m
・花崗斑岩である。
25.28~25.40m
・ペグマタイトである。
・径3~32mmの石英、径3~20mmの長石及び径1~4mmの変質した黒雲母を伴う。
●26.88~27.00m (D-2破砕帯)
・破砕部である。
・浅黄褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN5° E81° Wである。
・フィルム状の粘土を挟む。
28.50~31.30m
・変質し、粒状化する。

36.11~36.17m
・ペグマタイトを挟む。
36.53~36.54m
・幅3~5mmの粘土状・粘土混じり砂礫状を呈する。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事

23.13m以深
・割れ目が発達する。
23.24~23.34m
・酸化マンガンが濃集する。
24.39~25.28m
・花崗斑岩である。
25.28~25.40m
・ペグマタイトである。
・径3~32mmの石英、径3~20mmの長石及び径1~4mmの変質した黒雲母を伴う。
●26.88~27.00m (D-2破砕帯)
・破砕部である。
・浅黄褐色の固結礫状部からなる。
・走向・傾斜はN5° E81° Wである。
・フィルム状の粘土を挟む。
28.50~31.30m
・変質し、粒状化する。

36.11~36.17m
・ペグマタイトを挟む。
36.53~36.54m
・幅3~5mmの粘土状・粘土混じり砂礫状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度36.53~36.54m: シーム。傾斜55~58度、幅3~5mm。粘土状・粘土混じり砂礫状。	36.53~36.54m ・幅3~5mmの粘土状・粘土混じり砂礫状を呈する。	36.53~36.54m ・幅3~5mmの粘土状・粘土混じり砂礫状を呈する。

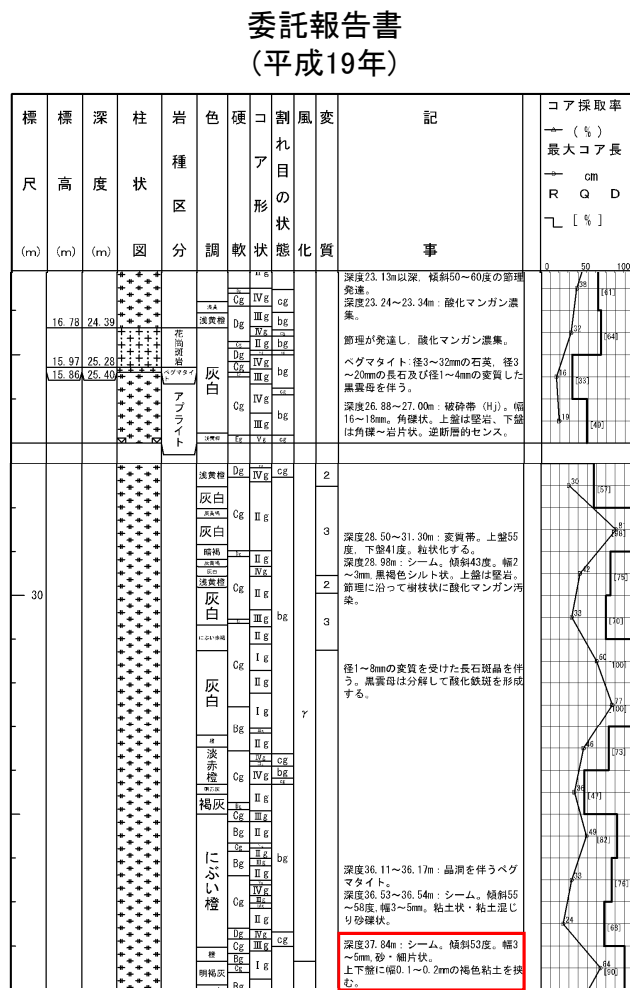


凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.13孔 深度37.84m)

・砂・細片状を呈するが、その分布は湾曲し直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案	
記事	
23. 13m以深	・ 割れ目が発達する。
23. 24~23. 34m	・ 酸化マンガンが濃集する。
24. 39~25. 28m	・ 花崗斑岩である。
25. 28~25. 40m	・ ベグマタイトである。
● 26. 88~27. 00m (D-2破砕帯)	・ 径3~32mmの石英、径3~20mmの長石及び径1~4mmの変質した黒雲母を伴う。
28. 50~31. 30m	・ 変質し、粒状化する。
36. 11~36. 17m	・ ベグマタイトを挟む。
36. 53~36. 54m	・ 幅3~5mmの粘土状・粘土混じり砂礫状を呈する。

審査資料 (平成30年11月30日)	
記事	
23. 13m以深	・ 割れ目が発達する。
23. 24~23. 34m	・ 酸化マンガンが濃集する。
24. 39~25. 28m	・ 花崗斑岩である。
25. 28~25. 40m	・ ベグマタイトである。
● 26. 88~27. 00m (D-2破砕帯)	・ 径3~32mmの石英、径3~20mmの長石及び径1~4mmの変質した黒雲母を伴う。
28. 50~31. 30m	・ 変質し、粒状化する。
36. 11~36. 17m	・ ベグマタイトを挟む。
36. 53~36. 54m	・ 幅3~5mmの粘土状・粘土混じり砂礫状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度37.84m: シーム。傾斜53度。幅3~5mm。砂・細片状。上下盤に幅0.1~0.2mmの褐色粘土を挟む。	記載なし	記載なし

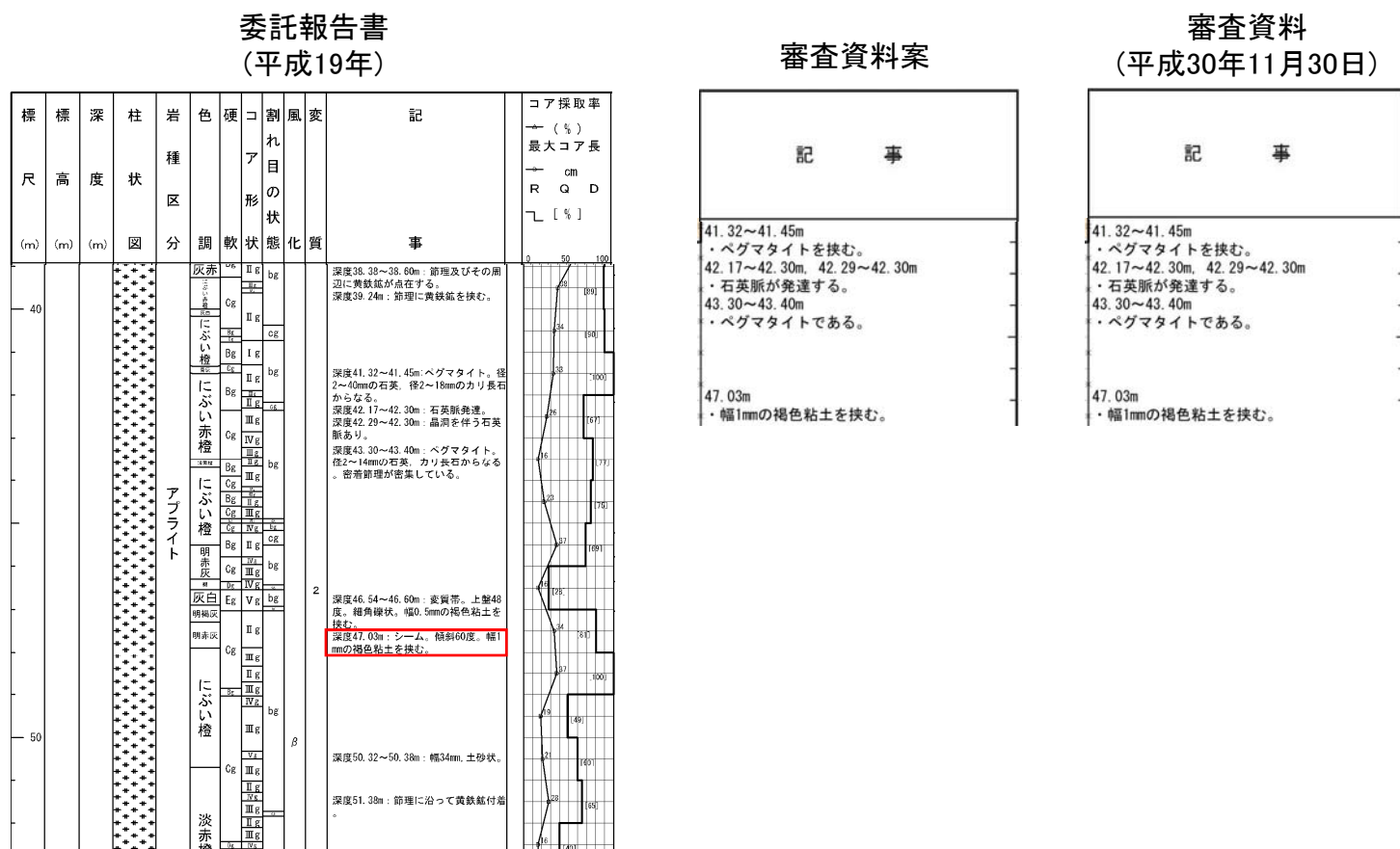


凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.13孔 深度47.03m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度47.03m: シーム。傾斜60度。幅1mmの褐色粘土を挟む。	47.03m ・幅1mmの褐色粘土を挟む。	47.03m ・幅1mmの褐色粘土を挟む。



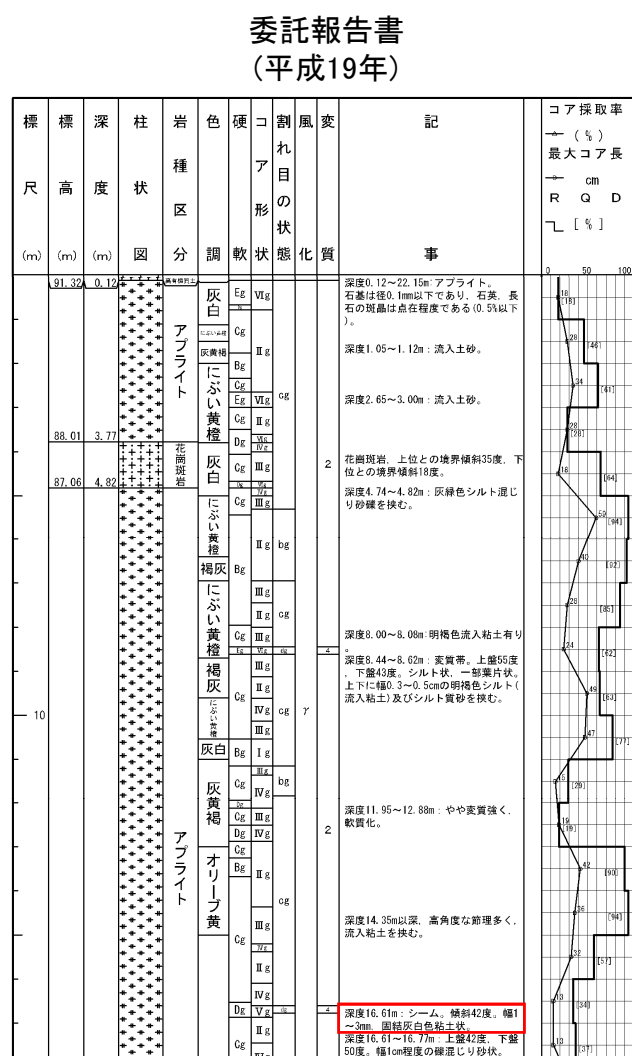
凡 例

← シーム

0 ————— 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.14孔 深度16.61m)

・粘土状を呈するが、その分布は湾曲し直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



設置許可申請書案

記事
0.00~0.12m ・高有機質土である。 0.12~3.77m ・アブライトである。
3.77~4.82m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は35°、下端境界の傾斜は18°である。
4.82~22.15m ・アブライトである。
8.00~8.08m ・明褐色流入粘土が見られる。
8.44~8.62m ・変質している。 ・シルト状~一部葉片状を呈する。 ・上層境界の傾斜は55°、下端境界の傾斜は43°である。
11.95~12.88m ・軟質~中硬質である。
14.35~16.90m ・高角度の割れ目が多く、流入粘土を挟む。

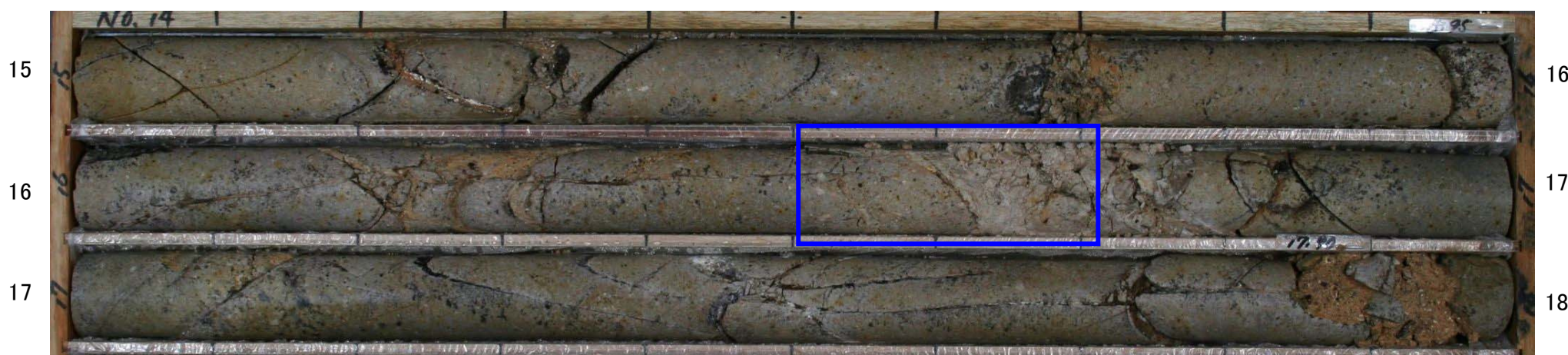
設置許可申請書 (平成27年11月)

記事
0.00~0.12m ・高有機質土である。 0.12~3.77m ・アブライトである。
3.77~4.82m ・花崗斑岩である。 ・上層境界の傾斜は35°、下端境界の傾斜は18°である。
4.82~22.15m ・アブライトである。
8.00~8.08m ・明褐色流入粘土が見られる。
8.44~8.62m ・変質している。 ・シルト状~一部葉片状を呈する。 ・上層境界の傾斜は55°、下端境界の傾斜は43°である。
11.95~12.88m ・軟質~中硬質である。
14.35~16.90m ・高角度の割れ目が多く、流入粘土を挟む。

審査資料 (平成29年12月22日)

記事
0.00~0.12m ・高有機質土である。 0.12~3.77m ・アブライトである。
3.77~4.82m ・花崗斑岩である。 ・上層境界の傾斜は35°、下端境界の傾斜は18°である。
4.82~22.15m ・アブライトである。
8.00~8.08m ・明褐色流入粘土が見られる。
8.44~8.62m ・変質している。 ・シルト状~一部葉片状を呈する。
11.95~12.88m ・軟質~中硬質である。
14.35~16.90m ・高角度の割れ目が多く、流入粘土を挟む。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度16.61m: シーム。傾斜42度。幅1~3mm。固結灰白色粘土状。	記載なし	記載なし	記載なし

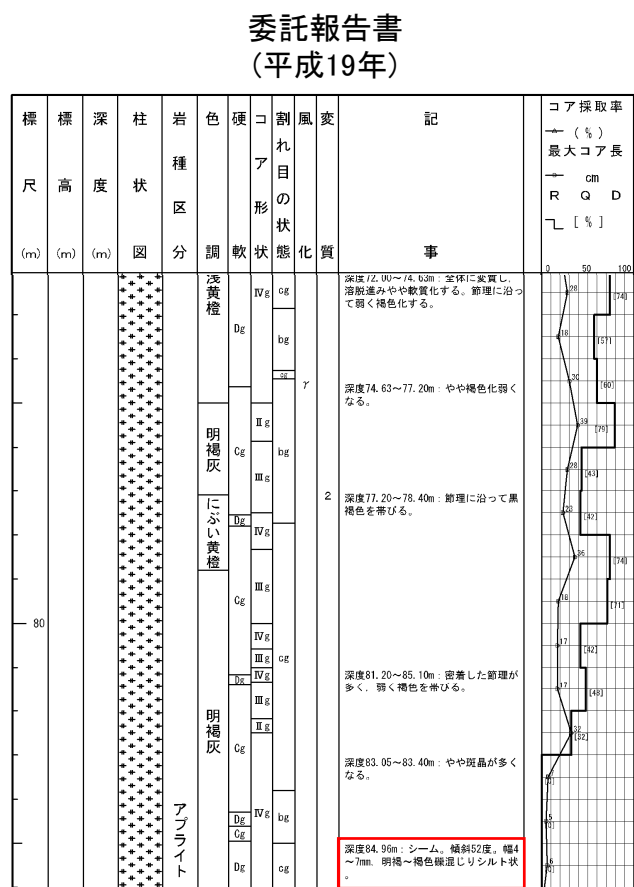


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.14孔 深度84.96m)

・粘土状を呈するが、下端面は膨縮し直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



設置許可申請書案

記事	
72.43~72.70m	・割れ目が多い。 ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。
82.50~86.12m	・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 84.30~86.12m ・軟質である。 83.05~83.40m ・斑晶がやや多い。

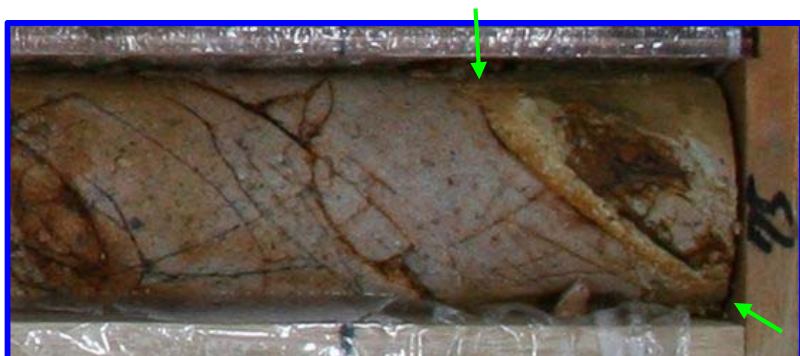
設置許可申請書 (平成27年11月)

記事	
72.43~72.70m	・割れ目が多い。 74.77~80.00m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。
82.50~86.12m	・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 84.30~86.12m ・軟質である。 83.05~83.40m ・斑晶がやや多い。

審査資料 (平成29年12月22日)

記事	
●72.43~72.70m (f-4)-5-3 破碎帯	・破碎部である。 ・浅黄橙色の固結礫状部及び固結砂状部からなる。 ・走向・傾斜はN32° W77° Wである。 74.77~80.00m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。
82.50~86.12m	・割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 84.30~86.12m ・軟質である。 83.05~83.40m ・斑晶がやや多い。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度84.96m: シーム。傾斜52度。幅4~7mm。明褐~褐色礫混じりシルト状。	記載なし	記載なし	記載なし



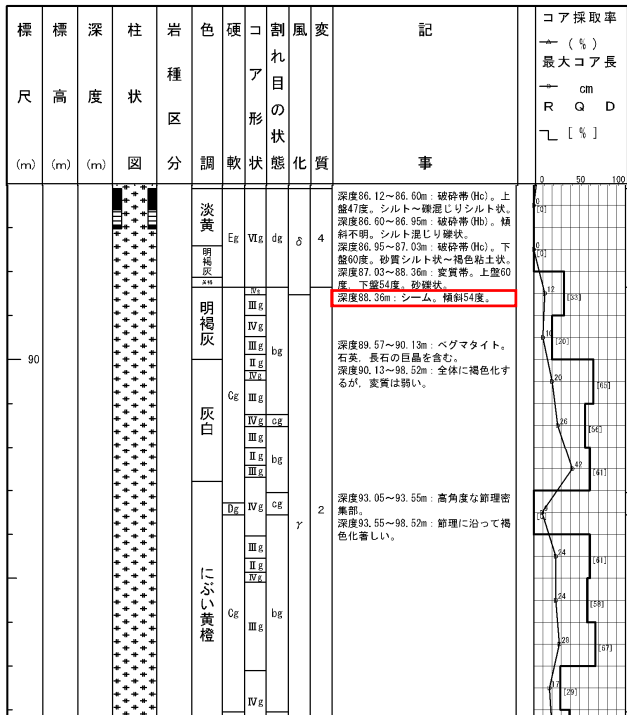
凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.14孔 深度88.36m)

・粘土状を呈するが、その分布は湾曲し直線性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)



設置許可申請書案

記事

- 86.12～87.03m (D-1破碎帯)
- ・破碎部である。
- ・右ずれ正断層センスである。
- ・86.12～86.60m: シルト状～礫混じりシルト状を呈する。
- ・86.60～86.95m: シルト混じり礫状を呈する。
- ・86.95～87.03m: 砂質シルト状～褐色粘土状を呈する。
- ・走向・傾斜はN20° E81W° である。
- ・上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は60° である。
- 87.03～88.36m
- ・変質している。
- ・砂礫状を呈する。
- ・上盤境界の傾斜は60°、下盤境界の傾斜は54° である。
- 89.57～90.13m
- ・ペグマタイトを挟む。
- 93.05～93.55m
- ・高角度の割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。

設置許可申請書 (平成27年11月)

記事

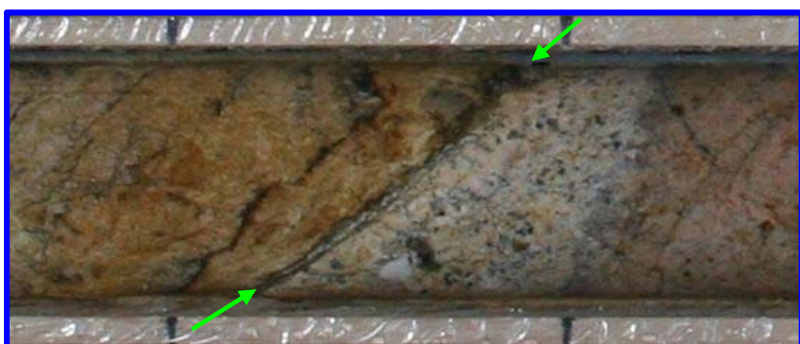
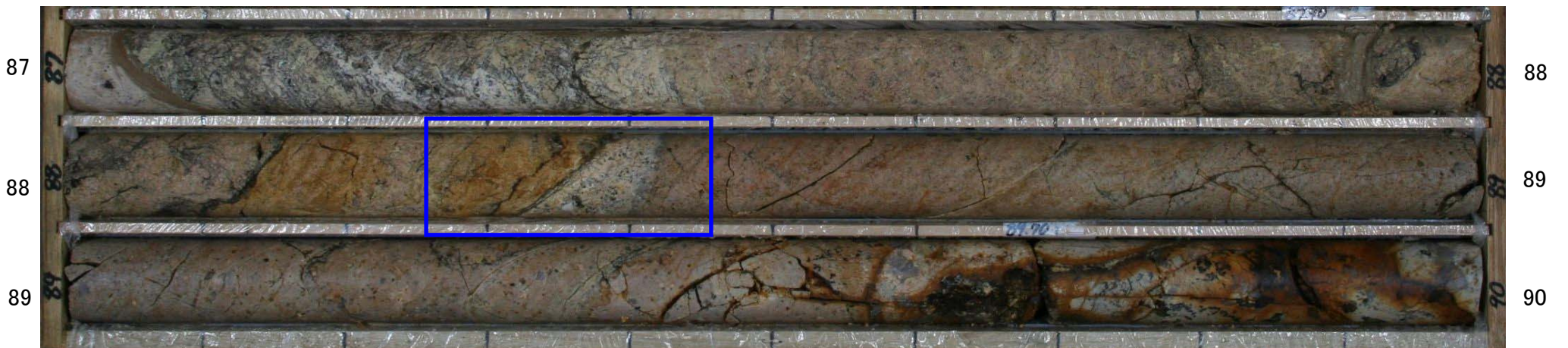
- 86.12～87.03m (D-1破碎帯)
- ・破碎部である。
- ・右ずれ正断層センスである。
- ・86.12～86.60m: シルト状～礫混じりシルト状を呈する。
- ・86.60～86.95m: シルト混じり礫状を呈する。
- ・86.95～87.03m: 砂質シルト状～褐色粘土状を呈する。
- ・走向・傾斜はN20° E81W° である。
- ・上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は60° である。
- 87.03～88.36m
- ・変質している。
- ・砂礫状を呈する。
- ・上盤境界の傾斜は60°、下盤境界の傾斜は54° である。
- 89.57～90.13m
- ・ペグマタイトを挟む。
- 93.05～93.55m
- ・高角度の割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。

審査資料 (平成29年12月22日)

記事

- 86.12～87.03m (D-1破碎帯)
- ・破碎部である。
- ・右ずれ正断層センスである。
- ・主に淡桃灰色の固結礫状部及び固結粘土状部からなる。
- ・灰黄褐色の未固結粘土状部: 累計幅1.2cm
- ・走向・傾斜はN20° E81° Wである。
- ・上盤境界の傾斜は47°、下盤境界の傾斜は60° である。
- 87.03～88.36m
- ・変質している。
- ・砂礫状を呈する。
- 89.57～90.13m
- ・ペグマタイトを挟む。
- 93.05～93.55m
- ・高角度の割れ目が多く、岩片～短柱状を呈する。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度88.36m: シーム。傾斜54度。	記載なし	記載なし	記載なし



凡例

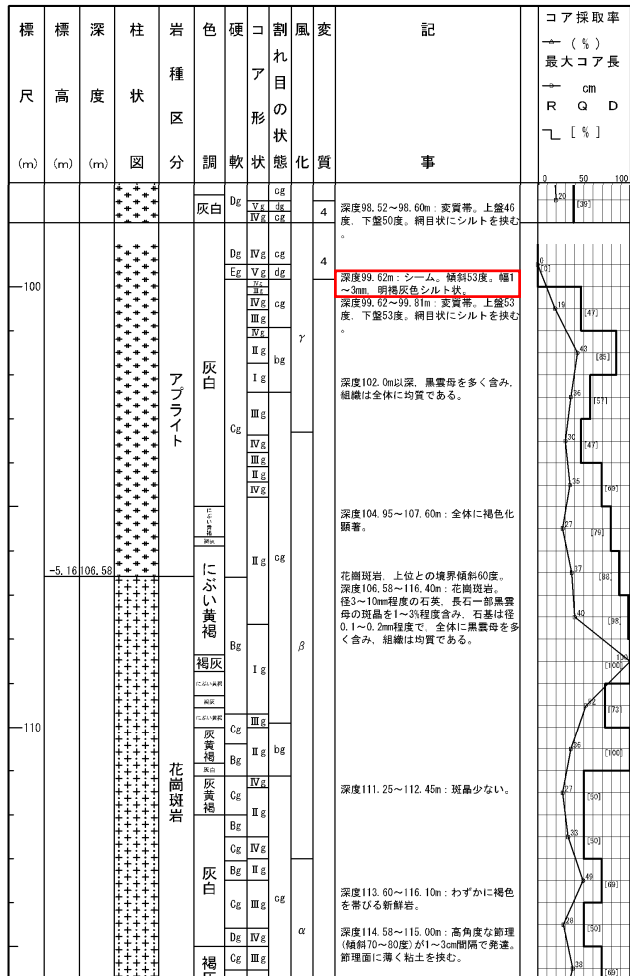
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.14孔 深度99.62m)

・シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)



設置許可申請書案

記事
98.52~98.60m ・変質している。 ・網目状にシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は50°である。
98.52~99.81m ・軟質~極めて軟質である。 ・岩片状~土砂状を呈する。
99.62~99.81m ・変質している。 ・網目状にシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は53°である。
104.48~109.97m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。
106.58~116.40m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は60°である。
111.25~112.45m ・斑晶が少ない。
114.58~115.00m ・高角度の割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 ・割れ目面に薄い粘土を挟む。

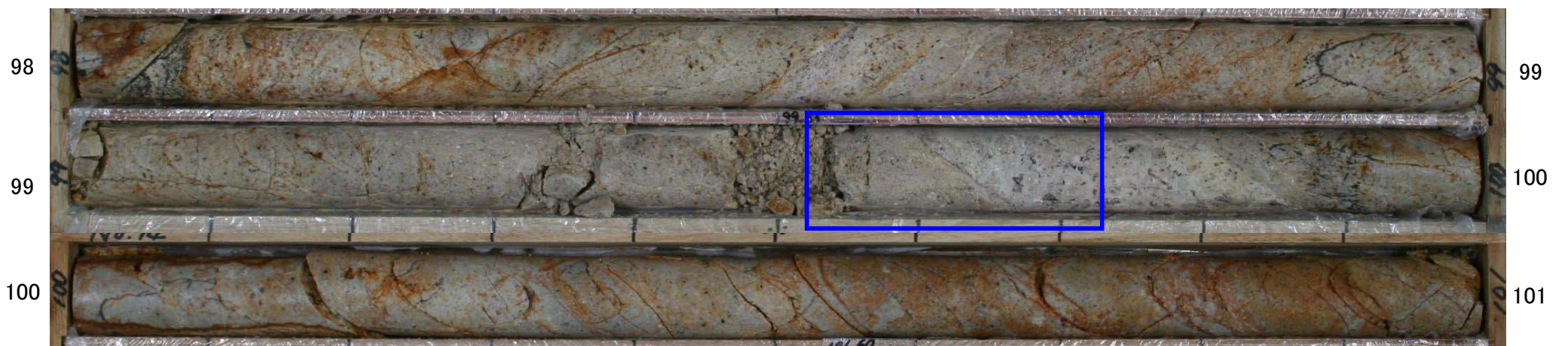
設置許可申請書 (平成27年11月)

記事
98.52~98.60m ・変質している。 ・網目状にシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は50°である。
98.52~99.81m ・軟質~極めて軟質である。 ・岩片状~土砂状を呈する。
99.62~99.81m ・変質している。 ・網目状にシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は53°である。
104.48~109.97m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。
106.58~116.40m ・花崗斑岩である。 ・上端境界の傾斜は60°である。
111.25~112.45m ・斑晶が少ない。
114.58~115.00m ・高角度の割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 ・割れ目面に薄い粘土を挟む。

審査資料 (平成29年12月22日)

記事
98.52~98.60m ・変質している。 ・網目状にシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は46°、下端境界の傾斜は50°である。
98.52~99.81m ・軟質~極めて軟質である。 ・岩片状~土砂状を呈する。
99.62~99.81m ・変質している。 ・網目状にシルトを挟む。 ・上端境界の傾斜は53°、下端境界の傾斜は53°である。
104.48~109.97m ・割れ目が少なく、柱状~長柱状を呈する。
106.58~116.40m ・花崗斑岩である。
111.25~112.45m ・斑晶が少ない。
114.58~115.00m ・高角度の割れ目が多く、岩片~短柱状を呈する。 ・割れ目面に薄い粘土を挟む。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度99.62m: シーム。傾斜53度。幅1~3mm。明褐色シルト状。	記載なし	記載なし	記載なし

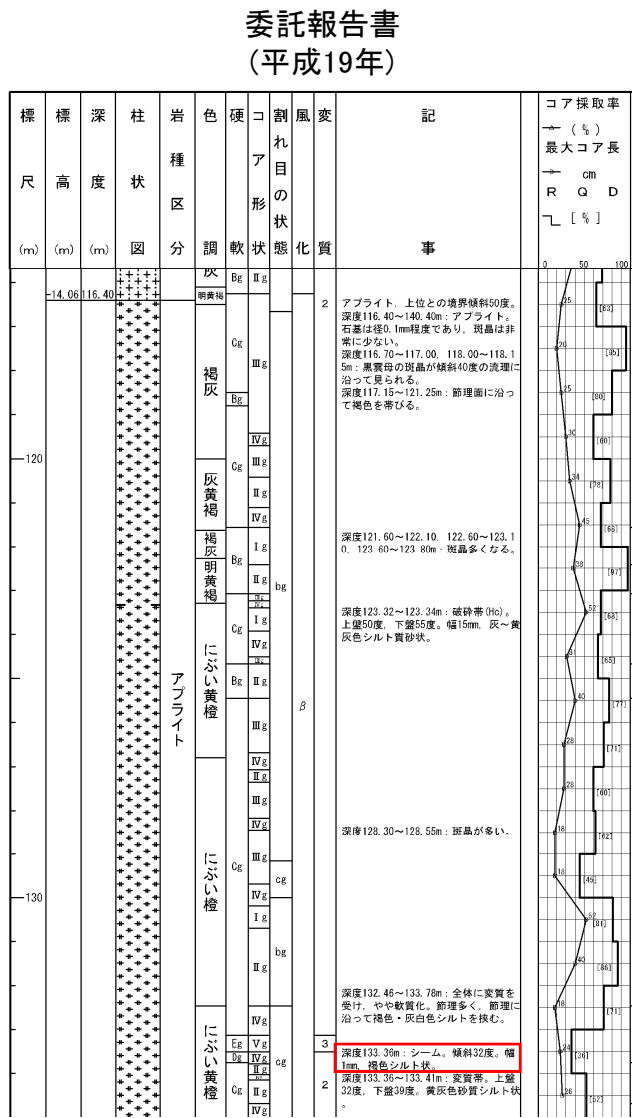


凡例
← : シーム

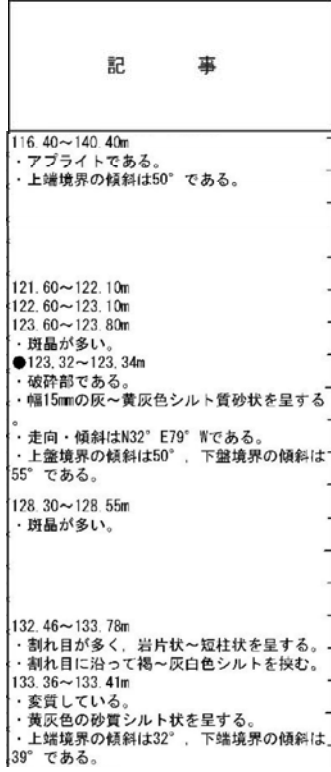
0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.14孔 深度133.36m)

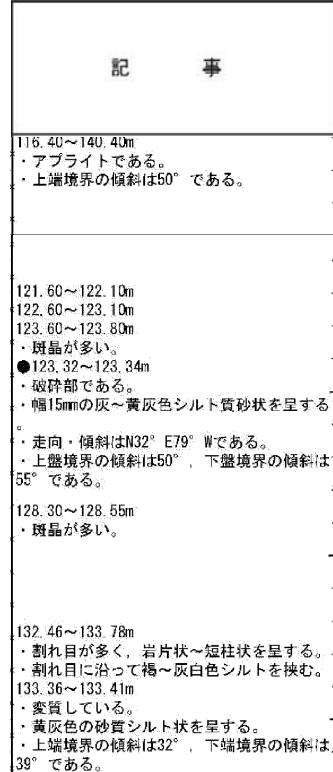
・シルト状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



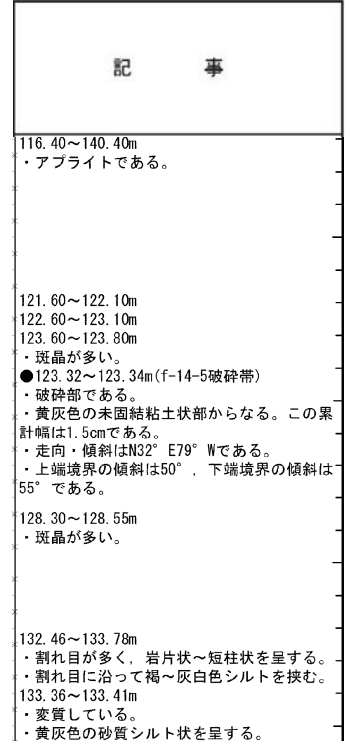
設置許可申請書案



設置許可申請書 (平成27年11月)



審査資料 (平成29年12月22日)



委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度133.36m: シーム。傾斜32度。幅1mm。褐色シルト状。	記載なし	記載なし	記載なし

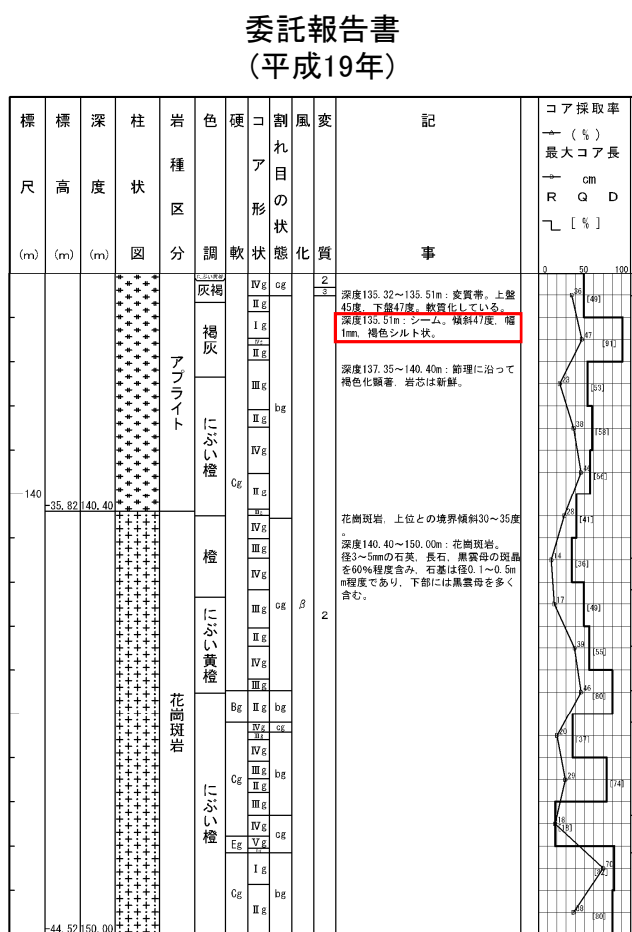


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.14孔 深度135.51m)

・シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



設置許可申請書案

記事

135.32~135.51m
・変質している。
・軟質化している。
・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は47°である。

140.40~150.00m
・花崗斑岩である。
・上端境界の傾斜は30°~35°である。

設置許可申請書 (平成27年11月)

記事

135.32~135.51m
・変質している。
・軟質化している。
・上端境界の傾斜は45°、下端境界の傾斜は47°である。

140.40~150.00m
・花崗斑岩である。
・上端境界の傾斜は30°~35°である。

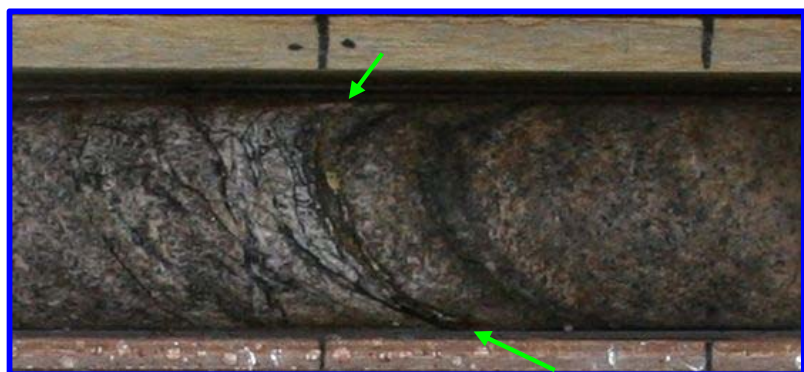
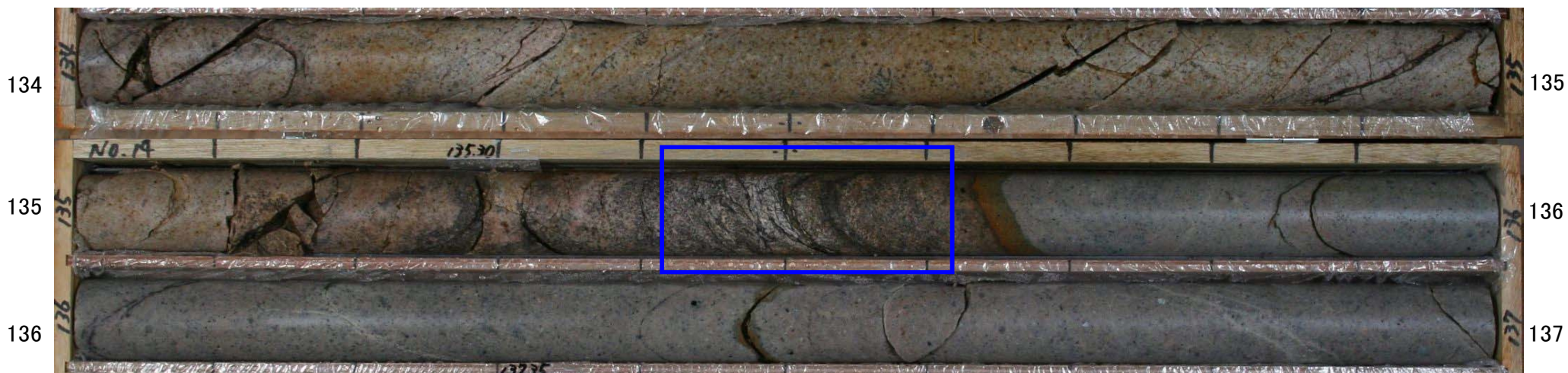
審査資料 (平成29年12月22日)

記事

135.32~135.51m
・変質している。
・軟質化している。

140.40~150.00m
・花崗斑岩である。

委託報告書 (平成19年)	設置許可申請書案	設置許可申請書 (平成27年11月)	審査資料 (平成29年12月22日)
深度135.51m: シーム、傾斜47度、幅1mm、褐色シルト状。	記載なし	記載なし	記載なし

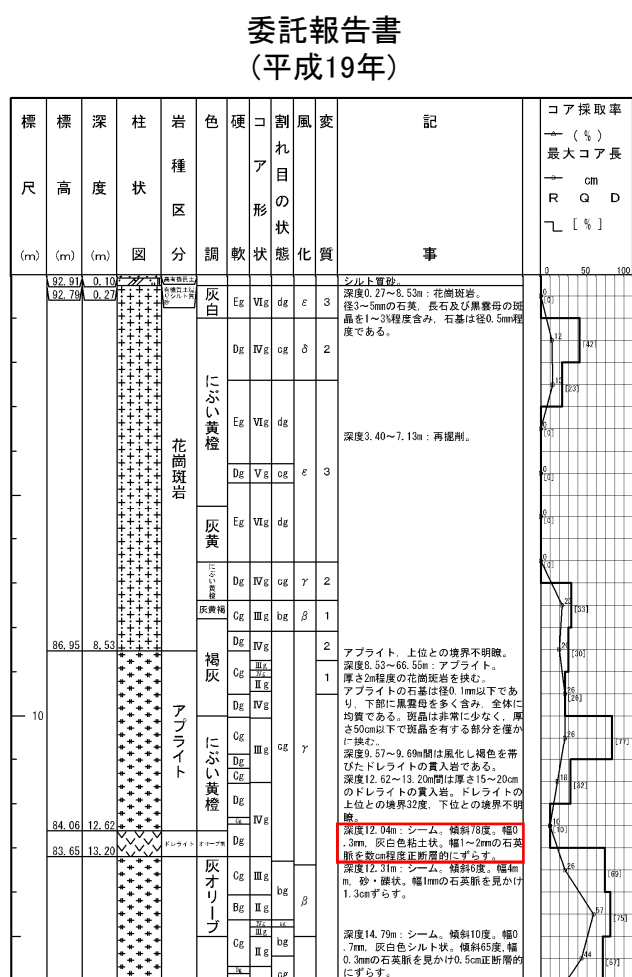


凡例
← シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状(H19-No.15孔 深度12.04m)

・粘土状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記事
0.00~0.27m ・高有機質土~有機質土混じりシルト質砂である。
0.27~8.53m ・花崗斑岩である。
3.40~7.13m ・再掘削コアである。
8.53~66.55m ・アブライトである。 ・幅2m程度の花崗斑岩を挟む。
9.57~9.69m, 12.62~13.20m ・ドレライトを挟む。 ・風化して褐色化している。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
0.00~0.27m ・高有機質土~有機質土混じりシルト質砂である。
0.27~8.53m ・花崗斑岩である。
3.40~7.13m ・再掘削コアである。
8.53~66.55m ・アブライトである。 ・幅2m程度の花崗斑岩を挟む。
9.57~9.69m, 12.62~13.20m ・ドレライトを挟む。 ・風化して褐色化している。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度12.04m:シーム。傾斜78度。幅0.3mm。灰白色粘土状。幅1~2mmの石英脈を数cm程度正断層的にずらす。	記載なし	記載なし

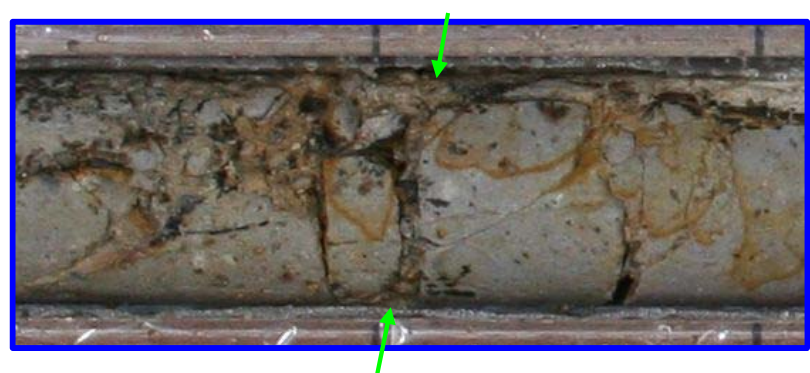
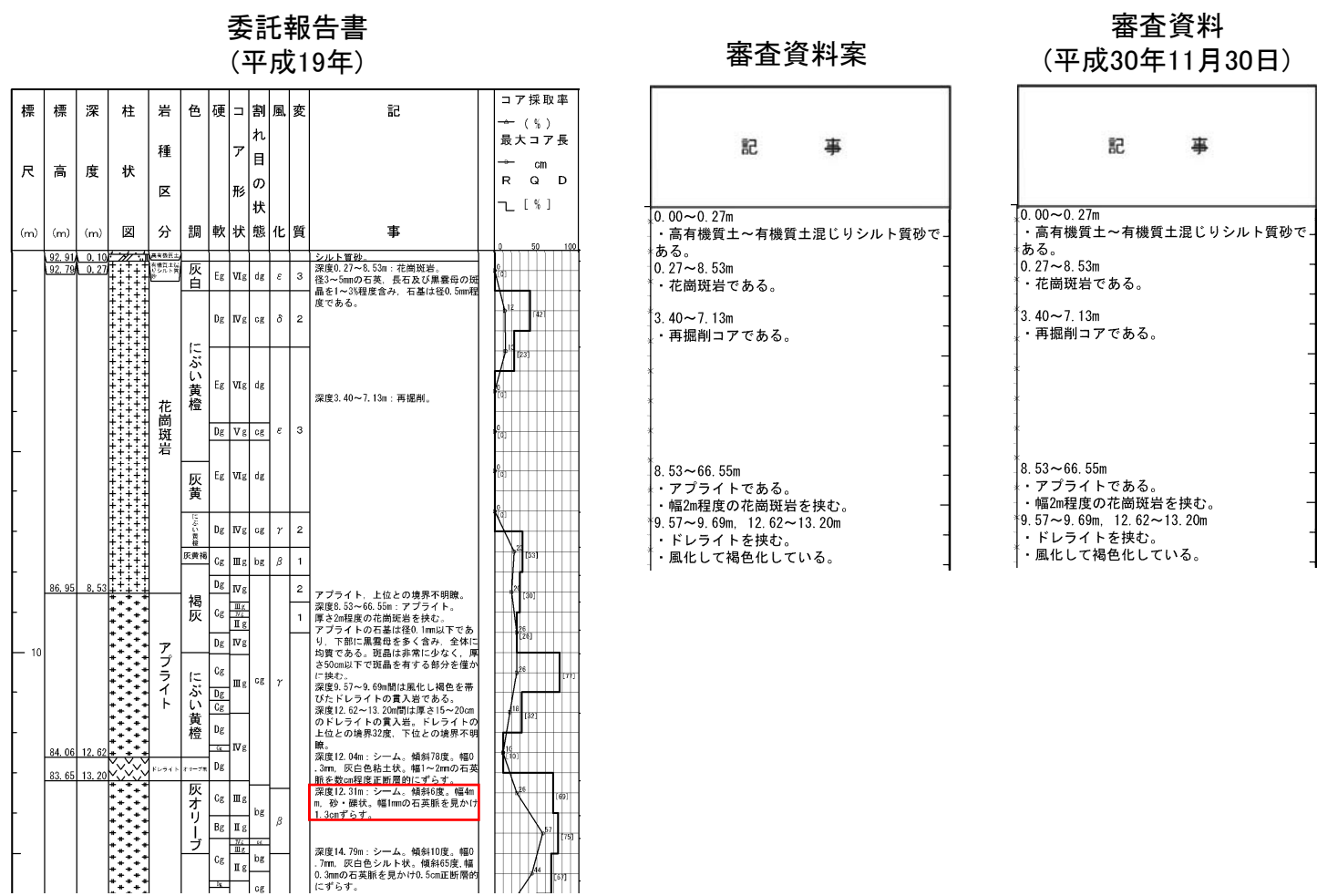


凡例
← :シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.15孔 深度12.31m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



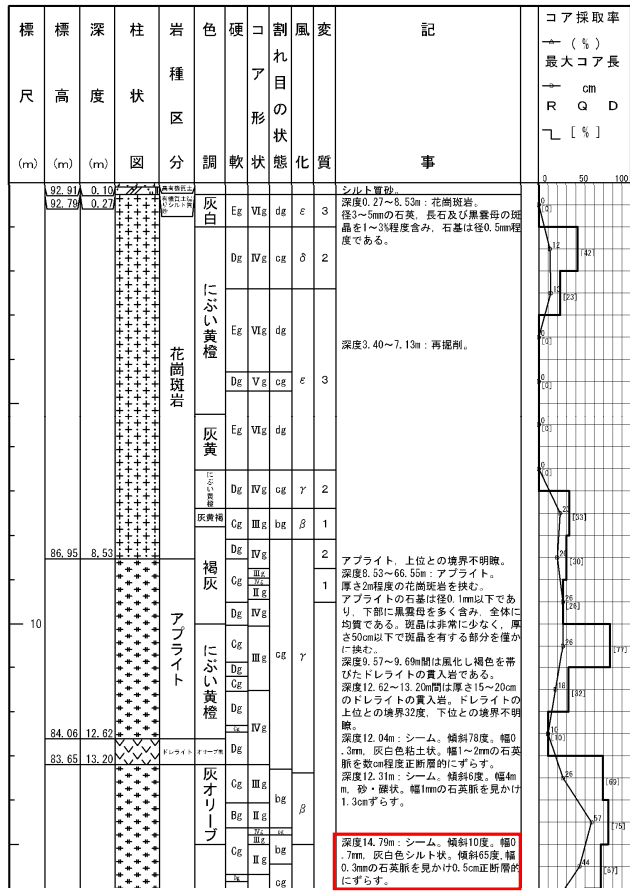
凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.15孔 深度14.79m)

・シルト状を呈するが、その分布は殲滅し連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)



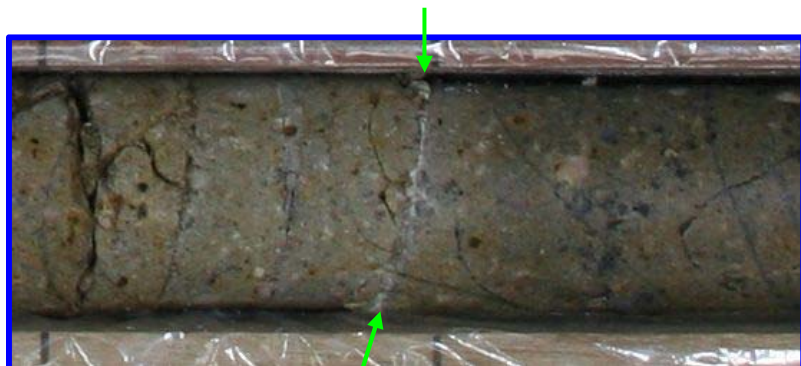
審査資料案

記事
0.00~0.27m ・高有機質土〜有機質土混じりシルト質砂である。
0.27~8.53m ・花崗斑岩である。
3.40~7.13m ・再掘削コアである。
8.53~66.55m ・アプライトである。 ・幅2m程度の花崗斑岩を挟む。
9.57~9.69m、12.62~13.20m ・ドレライトを挟む。 ・風化して褐色化している。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
0.00~0.27m ・高有機質土〜有機質土混じりシルト質砂である。
0.27~8.53m ・花崗斑岩である。
3.40~7.13m ・再掘削コアである。
8.53~66.55m ・アプライトである。 ・幅2m程度の花崗斑岩を挟む。
9.57~9.69m、12.62~13.20m ・ドレライトを挟む。 ・風化して褐色化している。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度14.79m: シーム。傾斜10度。幅0.7mm。灰白色シルト状。傾斜65度。幅0.3mmの石英脈を見かけ0.5cm正断層的にずらす。	記載なし	記載なし



凡例
← : シーム

0 5 cm

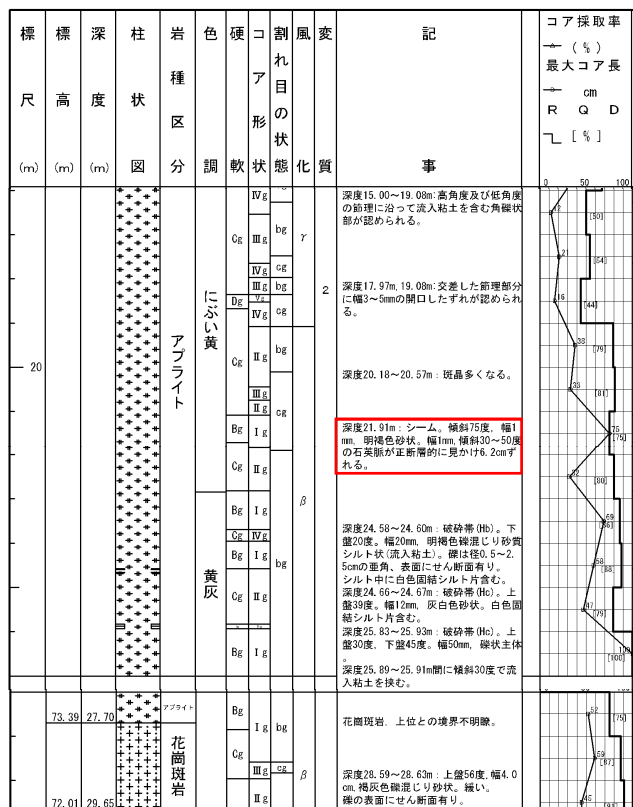
柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.15孔 深度21.91m)

・周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)

審査資料案

審査資料 (平成30年11月30日)



記事
<ul style="list-style-type: none"> ●24.58～24.67m (f-15-1破碎帯) ・破碎部である。 ・主に明褐色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅1.2cm ・走向・傾斜はN7° W88° Eである。 ●25.83～25.93m (f-15-2破碎帯) ・破碎部である。 ・主に黄灰色の固結礫状部からなる。 ・黄灰色の未固結粘土状部：累計幅5.0cm ・走向・傾斜はN6° E89° Eである。 ・上端境界の傾斜は30°、下端境界の傾斜は45°である。 27.70～29.65m ・花崗斑岩である。

記事
<ul style="list-style-type: none"> ●24.58～24.67m (f-15-1破碎帯) ・破碎部である。 ・主に明褐色の固結礫状部からなる。 ・灰白色の未固結粘土状部：累計幅1.2cm ・走向・傾斜はN7° W88° Eである。 ●25.83～25.93m (f-15-2破碎帯) ・破碎部である。 ・主に黄灰色の固結礫状部からなる。 ・黄灰色の未固結粘土状部：累計幅5.0cm ・走向・傾斜はN6° E89° Eである。 ・上端境界の傾斜は30°、下端境界の傾斜は45°である。 27.70～29.65m ・花崗斑岩である。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度21.91m: シーム。傾斜75度、幅1mm、明褐色砂状。幅1mm、傾斜30～50度の石英脈が正断層的に見かけ6.2cmずれる。	記載なし	記載なし

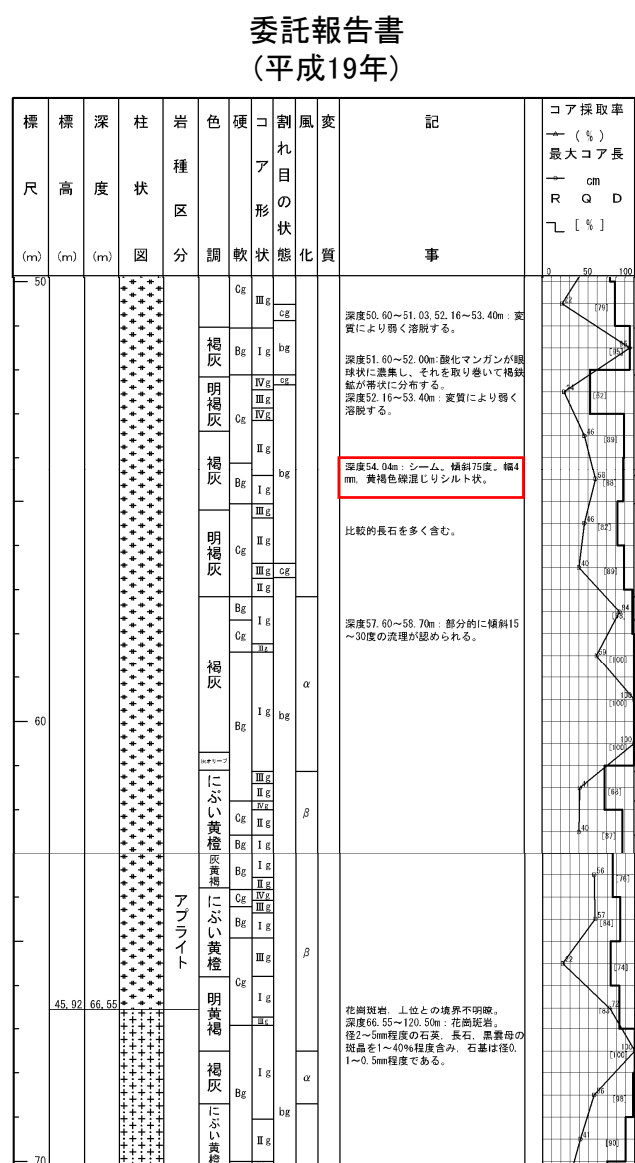


凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.15孔 深度54.04m)

・シルト状を呈するが、その分布は屈曲し直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから、破碎部ではないと判断した。



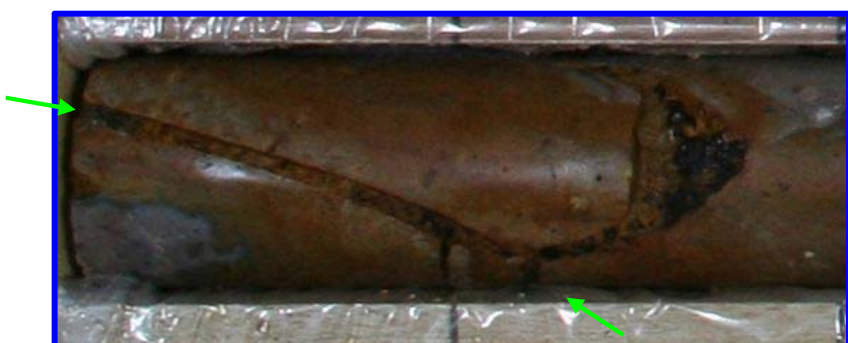
審査資料案

記 事
50.60~51.03m, 52.16~53.40m
・変質により弱く溶脱する。
51.60~52.00m
・酸化マンガンが濃集する。
52.16~53.40m
・変質により弱く溶脱する。
54.04m
・黄褐色礫混じりシルト状を呈する。
66.55~81.80m
・花崗斑岩である。

審査資料 (平成30年11月30日)

記 事
50.60~51.03m, 52.16~53.40m
・変質により弱く溶脱する。
51.60~52.00m
・酸化マンガンが濃集する。
52.16~53.40m
・変質により弱く溶脱する。
54.04m
・黄褐色礫混じりシルト状を呈する。
66.55~81.80m
・花崗斑岩である。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度54.04m: シーム。傾斜75度。幅4mm。黄褐色礫混じりシルト状。	54.04m ・黄褐色礫混じりシルト状を呈する。	54.04m ・黄褐色礫混じりシルト状を呈する。



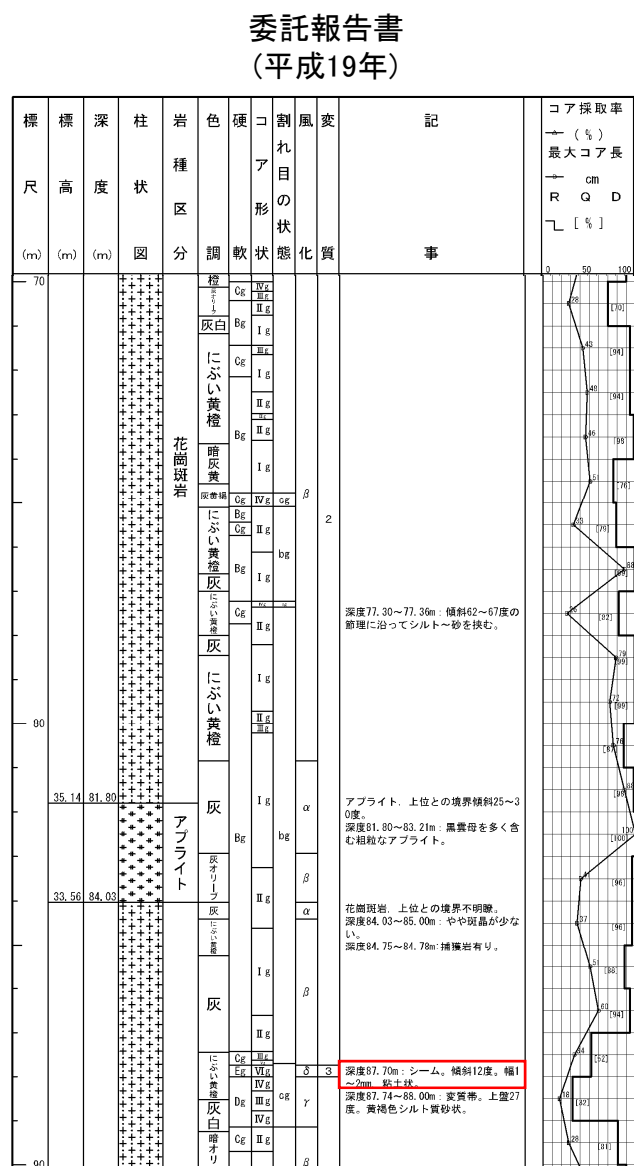
凡 例

← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.15孔 深度87.70m)

・粘土状を呈するが、その分布は局所的であり連続性に乏しいことから、破碎部ではないと判断した。



審査資料案

記事
81.80~83.21m ・アブライトである。 ・黒雲母を含み、粗粒である。
84.03~115.40m ・花崗斑岩である。 84.75~84.78m ・捕獲岩が認められる。
87.70~88.00m ・変質している。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
81.80~83.21m ・アブライトである。 ・黒雲母を含み、粗粒である。
84.03~115.40m ・花崗斑岩である。 84.75~84.78m ・捕獲岩が認められる。
87.70~88.00m ・変質している。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度87.70m: シーム。傾斜12度。幅1~2mm, 粘土状。	87.70~88.00m ・変質している。	87.70~88.00m ・変質している。



凡例
← : シーム

0 5 cm

柱状図における「シーム」の記載とその性状 (H19-No.15孔 深度149.22~149.23m)

・シルト状部にせん断構造・変形構造が認められないことから、破碎部ではないと判断した。

委託報告書 (平成19年)

標尺	標高	深度	柱状図	岩種	色調	硬軟	割れ目の形状	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	備考
-11.03	147.93	149.00	アフライト	補灰	IVg	割れ目形状	風化	変質	記号	事	3	50				深度148.10~148.20m:黄鉄鉱濃集。 深度148.70~149.22m:変質帯。網目状に富集。補・灰白色シルトを挟み、全体に軟質。 深度149.22~149.23m:シーム。上盤53度、下盤57度。幅8mm。灰白色シルト状。

審査資料案

記事
148.70~149.22m ・変質し、網目状を呈する。 149.22~149.23m ・割れ目に灰白色シルトを挟む。

審査資料 (平成30年11月30日)

記事
148.70~149.22m ・変質し、網目状を呈する。 149.22~149.23m ・割れ目に灰白色シルトを挟む。

委託報告書 (平成19年)	審査資料案	審査資料 (平成30年11月30日)
深度149.22~149.23m:シーム。上盤53度、下盤57度。幅8mm、灰白色シルト状。	149.22~149.23m ・割れ目に灰白色シルトを挟む。	149.22~149.23m ・割れ目に灰白色シルトを挟む。



凡例
← :シーム

0 5 cm